

壮 瞥 町
高 齡 者 保 健 福 祉 計 画
介 護 保 険 事 業 計 画

（平成30年度～平成32年度）

平成30年3月

北海道有珠郡壮瞥町

壮瞥町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

目 次

第1章 計画策定の概要

第1節 計画の策定

1 計画策定の目的	1
2 計画の性格と法的位置づけ	1
3 計画期間	2
4 計画の策定体制	2

第2節 高齢者等の現状について

1 高齢化と人口構造	3
2 高齢者等の現状	4

第3節 計画の方向

1 基本理念	50
2 基本方針と施策の体系	50

第2章 計画の取り組み

第1節 高齢者保健福祉サービスの取り組み

1 健康づくりと介護予防の推進	52
2 在宅生活支援の推進と居住環境の整備	55
3 地域包括ケアシステムの推進	60
4 安定した介護保険制度の運営	61
5 自立支援・重度化防止に向けた成果目標	63

第2節 今後の高齢者保健福祉サービスの展開について

67

第3節 介護保険サービスの推計

1 日常生活圏域の設定	68
2 要介護（要支援）認定者数	68
3 介護給付の実績と推計	69
4 介護予防給付の実績と推計	70
5 介護保険料の算定	71

第4節 計画の進行管理

77

(別添・資料 編)

1 壮瞥町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会の構成と審議経過	78
2 答 申 書	79

第1章 計画策定の概要

第1節 計画の策定

1 計画策定の目的

介護保険制度は、誰もが生きがいに満ちた老後を迎えるため、健康づくりや寝たきり予防等の施策の充実を図り、たとえ介護を必要となる状態になっても、必要なサービスを利用し、地域でできる限り自立した日常生活を送ることができるよう、保健、医療、福祉サービスが総合的・一体的に提供され、社会全体で介護を支えていく仕組みとして、平成12年度から始まりました。その後、超高齢社会を見据えて、制度のさまざまな見直しが行われてきました。平成26年度には、社会保障と税の一体改革の中で、制度の大きな見直しが行われ、限られた医療・介護資源を有効に活用し、必要なサービスを確保するため、在宅医療・介護連携や認知症施策の推進、生活支援サービスの充実等「地域包括ケアシステム」の構築を一層進めることとされています。

一方、平成37年（2025年）には、いわゆる団塊の世代が75歳を迎え、今まで以上に保健、医療、福祉サービス等のニーズが高まると予想されます。介護保険制度の目的でもある要支援・要介護状態となっても個人の尊厳を保持し、できるだけ住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができるよう、支援するための施策やサービスの提供がより一層求められます。また、人口減少と超高齢化社会が進行する中で、これまで以上に、世代や背景を超えて地域の住民同士がつながり、相互に役割を持ち、「支え手」「担い手」という関係を超えて支え合う「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを進める必要があります。

当計画は、このような状況を踏まえ介護保険運営や介護予防・重度化防止、高齢者に対する支援、高齢者福祉に対する重要な課題に対して目指すべき目標を定め、その実現に向けて取り組む施策を明らかにするものです。

町では当計画策定に資するため、平成29年8月に高齢者実態調査を実施し高齢者の現状などを調査いたしました。

今後は、高齢者の現状を把握するとともに取り組むべき課題を明確にし、住み慣れた地域で安心して暮らせることができる「まちづくり」の実現と地域の実情に応じた高齢者福祉及び介護保険事業の円滑な運営をおこなうため本計画を策定するものです。

2 計画の性格と法的位置づけ

（1）法令等の根拠

この計画は、老人福祉法第20条の8及び介護保険法第117条第1項に基づき定めるものです。

(2) 高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画の関係

高齢者保健福祉計画は、第4次壮瞥町まちづくり総合計画（平成22年度～平成31年度）に基づき、健康と福祉のまちづくりを実践するため、保健福祉政策を具体化するための総合的な計画です。

介護保険事業計画は、介護予防サービスや介護サービスなどの提供を個々の状態に合わせて適切かつ円滑に行うための計画です。

3 計画期間

この計画は平成30年度から平成32年度までの3年間とし、介護保険給付の動向や保健福祉施策の進捗状況等を踏まえ3年ごとに見直しを行うこととします。

4 計画の策定体制

高齢者保健福祉サービスや介護予防サービス、介護サービス、介護保険料の決定などは、町民に深く関与します。そこで、計画策定にあたっては、町内在住65歳以上の高齢者に対し実態調査を実施し生活実態の把握や介護保険、保健福祉サービス等の意見等の収集を行いました。

計画策定にあたり、学識経験者、保健医療関係者、福祉関係者、被保険者代表者等から組織される高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会において、現状や課題分析、事業内容について審議、検討を行いました。

第2節 高齢者等の現状について

1 高齢化と人口構造

(1) 高齢者等の人口の推移と推計

表1は、平成27年度から平成28年度までの3月末の住民基本台帳による人口推移と平成29年8月1日時点の高齢者一人のみの世帯と高齢者の夫婦のみの世帯数、平成29年度から平成32年度の人口推移（見込み及び推計）と平成37年度の推計を掲載しています。

人口の推移を経年で見ると、総人口は減少傾向にあり、今後も減少が続くと推計しています。65歳以上の人口割合は、平成28年度までは増加していますが、平成29年度以降は、減少していくことが予想されます。40歳から64歳、40歳未満の人口も概ね減少傾向にあり、今後もその傾向が続いていくと推計しています。

また、65歳から74歳の前期高齢者の人口は、将来的に減少し、75歳以上の後期高齢者の人口は、増加が続き、平成37年度（2025年度）頃にピークを迎えることが予想されます。

■ 表1 人口の推移と推計

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成37年度
	実績(年度末現在)		見込み	推 計			
総人口	2,644	2,614	2,629	2,580	2,531	2,482	2,238
75歳以上	537	544	547	548	548	546	567
後期高齢化率	20.3%	20.8%	20.8%	21.2%	21.6%	22.0%	25.4%
65歳～74歳	459	469	465	457	452	448	343
前期高齢化率	17.4%	17.9%	17.7%	17.7%	17.9%	18.1%	15.3%
65歳以上合計	996	1,013	1,012	1,005	1,000	994	910
高齢化率	37.7%	38.8%	38.5%	38.9%	39.5%	40.1%	40.7%
40歳～64歳	843	825	831	805	778	752	669
40歳未満	805	776	786	770	753	735	658

(資料) 住民基本台帳(実績・見込み)

将来推計は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」等をもとに推計した。

高齢者(65歳以上)一人のみの世帯	232 世帯
高齢者(65歳以上)夫婦のみの世帯	201 世帯

※ 平成29年8月1日現在／病院・施設等の入院、入所者を除く

2 高齢者等の現状

(1) 実態調査の実施

今回の計画策定に当たり、高齢者の皆様の現状やニーズ等を把握するために2種類の実態調査（① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（P. 4～37）、② 在宅介護実態調査（P. 38～47））を実施しました。

① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果（概要）

・ 調査目的～

- (1) 要介護状態になる前的高齢者のリスクや社会参加状況を把握し、地域の抱える課題を特定する。
- (2) 新しい総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の運営に活用する。
- (3) 高齢者の実態や要望を把握し、介護保険事業計画の策定に活用する。

・ 対象者 要介護1～5以外の65歳以上の方（全員）

・ 対象者数 874名（平成29年7月31日現在）

（参考・第1号被保険者総数1,006名（H29.9.30現在））

・ 調査時期 発送 平成29年8月3日 回収 平成29年9月8日

・ 回収率 64.6%

年代別	対象者数(人)			回答者数(人)			回答率(%)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
65～69歳	108	129	237	75	80	155	69.44	62.02	65.40
70～74歳	99	110	209	59	80	139	59.60	72.73	66.51
75～79歳	77	83	160	51	51	102	66.23	61.45	63.75
80～84歳	68	87	155	38	55	93	55.88	63.22	60.00
85～89歳	33	46	79	21	33	54	63.64	71.74	68.35
90～94歳	7	21	28	3	16	19	42.86	76.19	67.86
95歳以上	3	3	6	1	2	3	33.33	66.67	50.00
合計	395	479	874	248	317	565	62.78	66.18	64.65

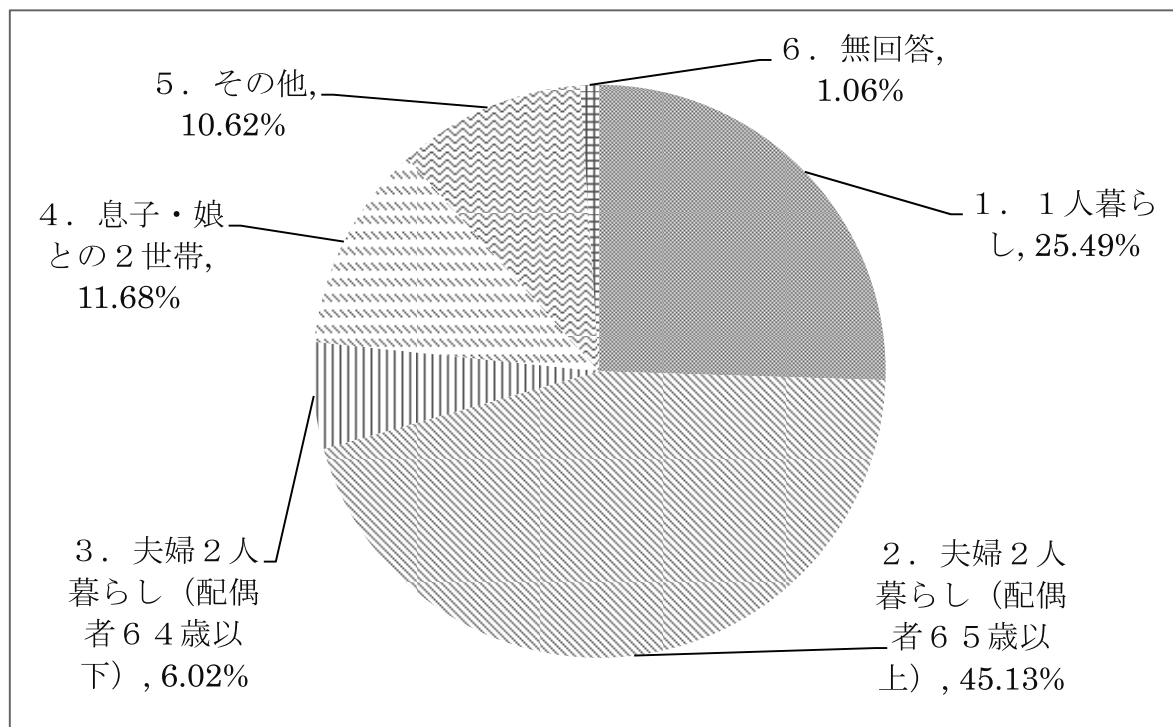
調査票の記入者

1. 本人 492 人
2. 家族 54 人（配偶者20人、子供24人、兄弟姉妹等7人、無記入3人）
3. その他 15 人
4. 無回答 4 人
- 合計 565 人

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

家族構成について、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が45.13%と最も多く、次いで「1人暮らし」が25.49%となっています。

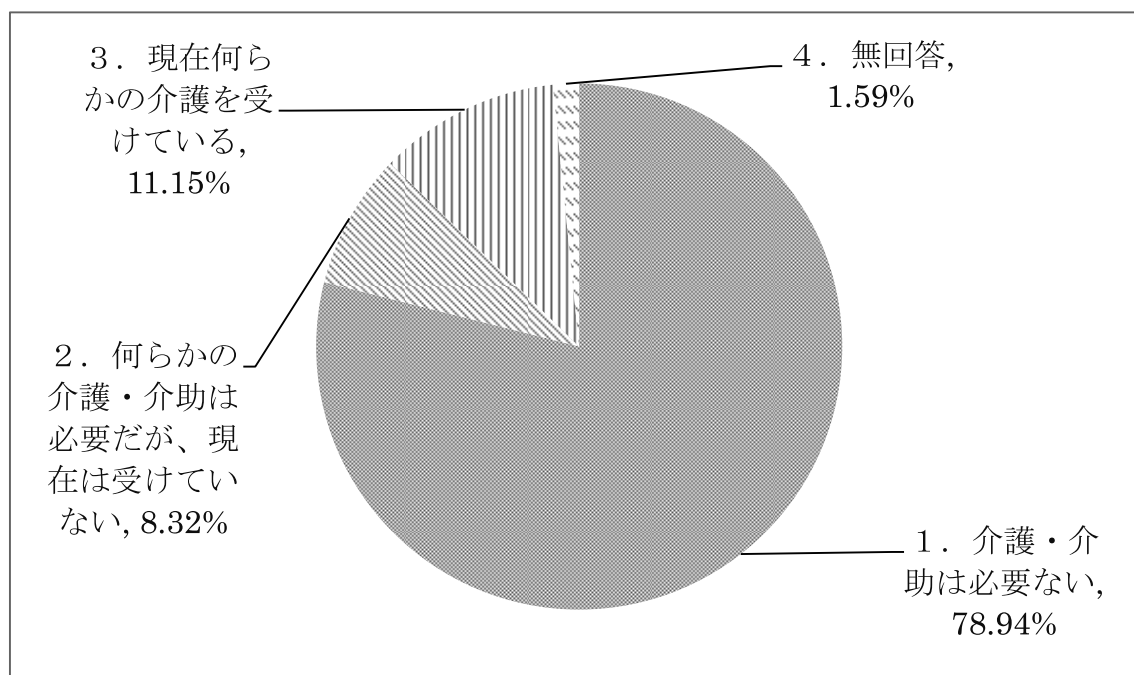


家族構成を性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。
（最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。）

		回答者数	1. 1人暮らし	2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	4. 息子・娘との2世帯	5. その他	6. 無回答
性別	男性	248	14.92%	53.63%	10.89%	9.68%	9.68%	1.21%
	女性	317	33.75%	38.49%	2.21%	13.25%	11.36%	0.95%
年齢別	65～69歳	155	12.26%	45.16%	14.19%	9.03%	18.71%	0.65%
	70～74歳	139	24.46%	51.80%	4.32%	10.79%	7.19%	1.44%
	75～79歳	102	27.45%	52.94%	3.92%	9.80%	4.90%	0.98%
	80～84歳	93	35.48%	44.09%	1.08%	12.90%	5.38%	1.08%
	85～89歳	54	42.59%	31.48%	1.85%	14.81%	9.26%	0.00%
	90～94歳	19	35.00%	5.00%	0.00%	30.00%	25.00%	5.00%
	95歳～	3	0.00%	0.00%	0.00%	50.00%	50.00%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	22.05%	47.97%	6.58%	11.80%	10.64%	0.97%
	要支援1	26	53.85%	19.23%	0.00%	11.54%	11.54%	3.85%
	要支援2	22	72.73%	9.09%	0.00%	9.09%	9.09%	0.00%

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

普段の生活における介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が 78.94%と最も多く、一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は 8.32%、「現在、何らかの介護を受けている」は 11.15%となっており、介護・介助を必要とする人は合計 19.47%となっています。



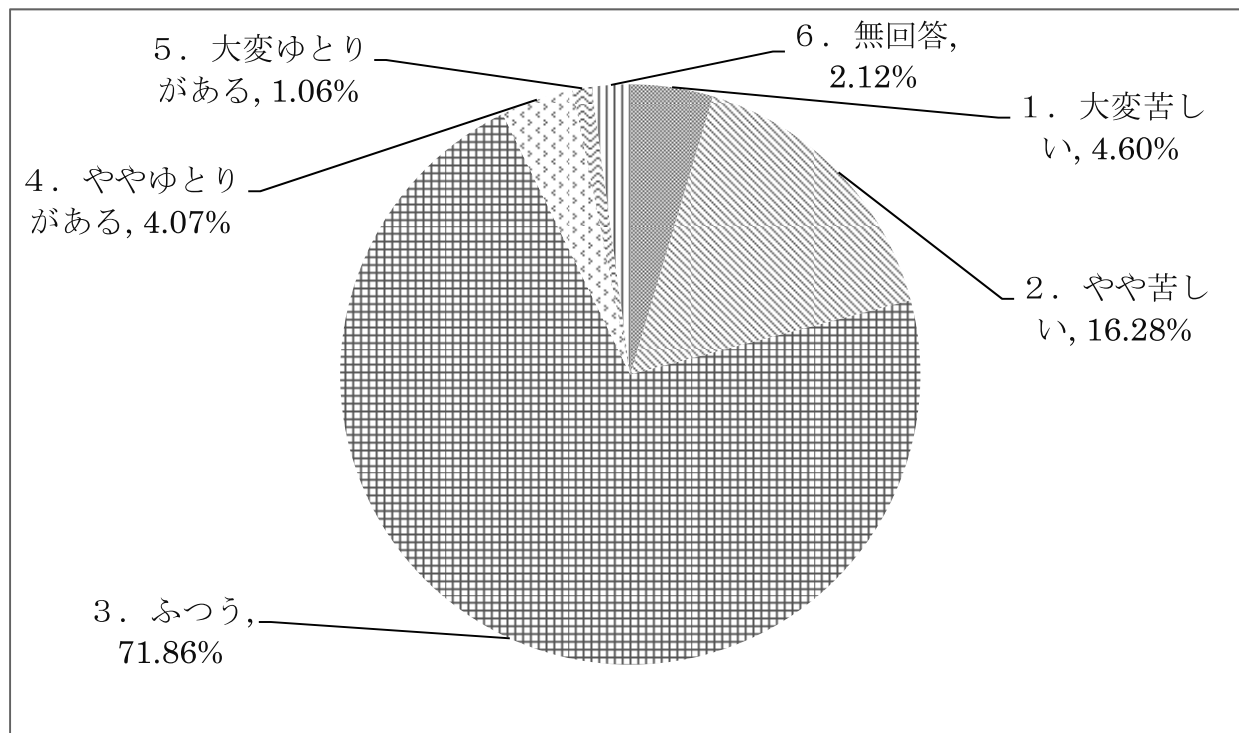
普段の生活における介護・介助の必要性を性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. 介護・介助は必要ない	2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	3. 現在何らかの介護を受けている	4. 無回答
性別	男性	248	79.03%	9.68%	10.08%	1.21%
	女性	317	78.86%	7.26%	11.99%	1.89%
年齢別	65～69歳	155	92.26%	3.23%	3.87%	0.65%
	70～74歳	139	89.21%	5.76%	2.16%	2.88%
	75～79歳	102	79.41%	5.88%	12.75%	1.96%
	80～84歳	93	65.59%	13.98%	19.35%	1.08%
	85～89歳	54	53.70%	18.52%	27.78%	0.00%
	90～94歳	19	36.84%	21.05%	42.11%	0.00%
	95歳～	3	33.33%	33.33%	0.00%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	85.30%	7.74%	5.42%	1.55%
	要支援1	26	15.38%	19.23%	61.54%	3.85%
	要支援2	22	4.55%	9.09%	86.36%	0.00%

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

経済的にみた現在の暮らしの状況について、「ふつう」が71.86%を占めています。次いで「やや苦しい」が16.28%となっており、「大変苦しい」の4.60%と合計した『苦しい』が20.88%となっています。



経済的にみた現在の暮らし状況を性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

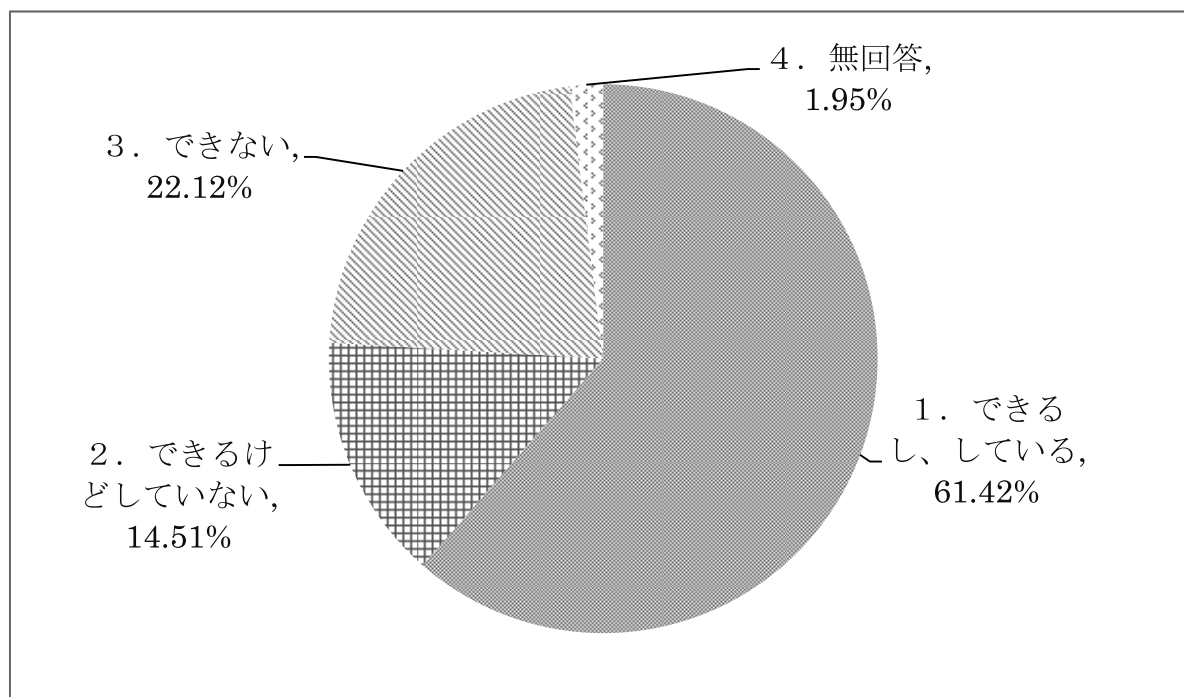
(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. ふつう	4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	6. 無回答
性別	男性	248	6.85%	13.71%	72.58%	3.63%	1.21%	2.02%
	女性	317	2.84%	18.30%	71.29%	4.42%	0.95%	2.21%
年齢別	65～69歳	155	7.74%	12.90%	71.61%	6.45%	0.00%	1.29%
	70～74歳	139	4.32%	18.71%	70.50%	4.32%	0.72%	1.44%
	75～79歳	102	2.94%	14.71%	73.53%	4.90%	2.94%	0.98%
	80～84歳	93	2.15%	21.51%	69.89%	1.08%	0.00%	5.38%
	85～89歳	54	3.70%	14.81%	77.78%	1.85%	1.85%	0.00%
	90～94歳	19	5.26%	15.79%	68.42%	0.00%	0.00%	10.53%
	95歳～	3	0.00%	0.00%	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	4.45%	15.28%	72.73%	4.06%	1.16%	2.32%
	要支援1	26	7.69%	34.62%	53.85%	3.85%	0.00%	0.00%
	要支援2	22	4.55%	18.18%	72.73%	4.55%	0.00%	0.00%

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることについて、「1. できるし、している」が最も多く61.42%を占め、「2. できるけど、していない」が14.51%、「3. できない」が22.12%となりました。



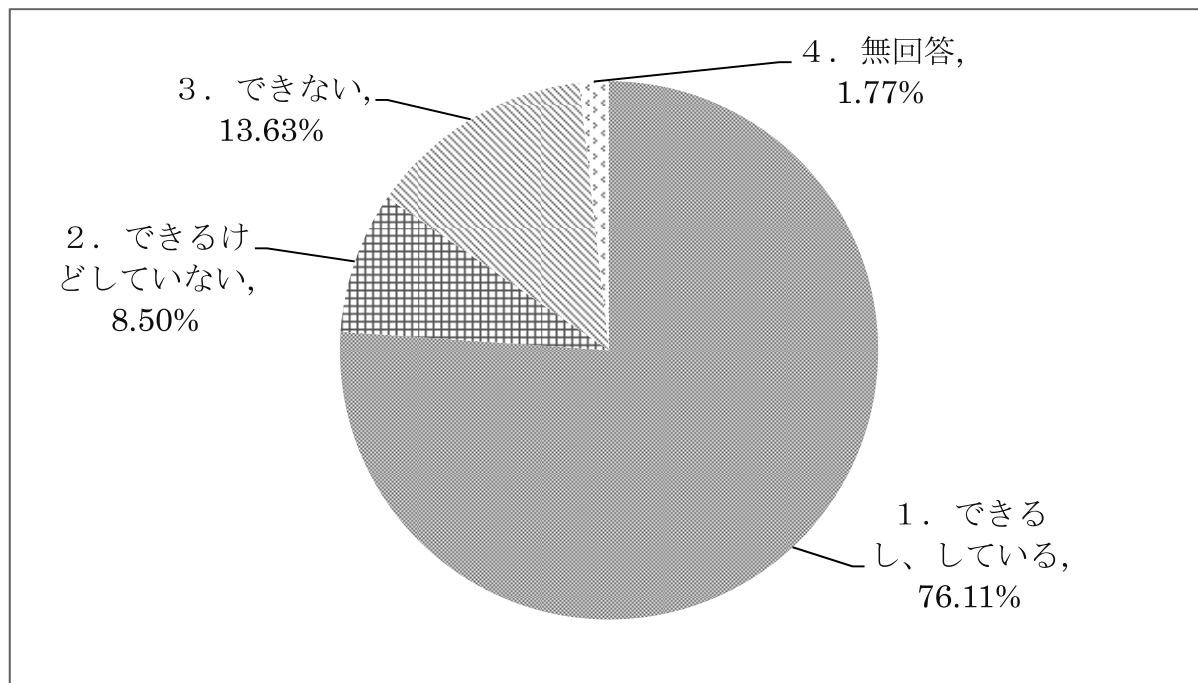
階段を手すりや壁をつたわずに昇ることについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	73.79%	13.31%	11.69%	1.21%
	女性	317	51.74%	15.46%	30.28%	2.52%
年齢別	65～69歳	155	76.77%	11.61%	10.97%	0.65%
	70～74歳	139	69.78%	15.11%	14.39%	0.72%
	75～79歳	102	59.80%	15.69%	23.53%	0.98%
	80～84歳	93	46.24%	17.20%	33.33%	3.23%
	85～89歳	54	40.74%	20.37%	38.89%	0.00%
	90～94歳	19	15.79%	0.00%	57.89%	26.32%
	95歳～	3	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	66.54%	15.28%	16.05%	2.13%
	要支援1	26	7.69%	3.85%	88.46%	0.00%
	要支援2	22	4.55%	9.09%	86.36%	0.00%

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がるについて、「1. できるし、している」が最も多く76.11%を占め、「2. できるけど、していない」が8.50%、「3. できない」が13.63%となりました。



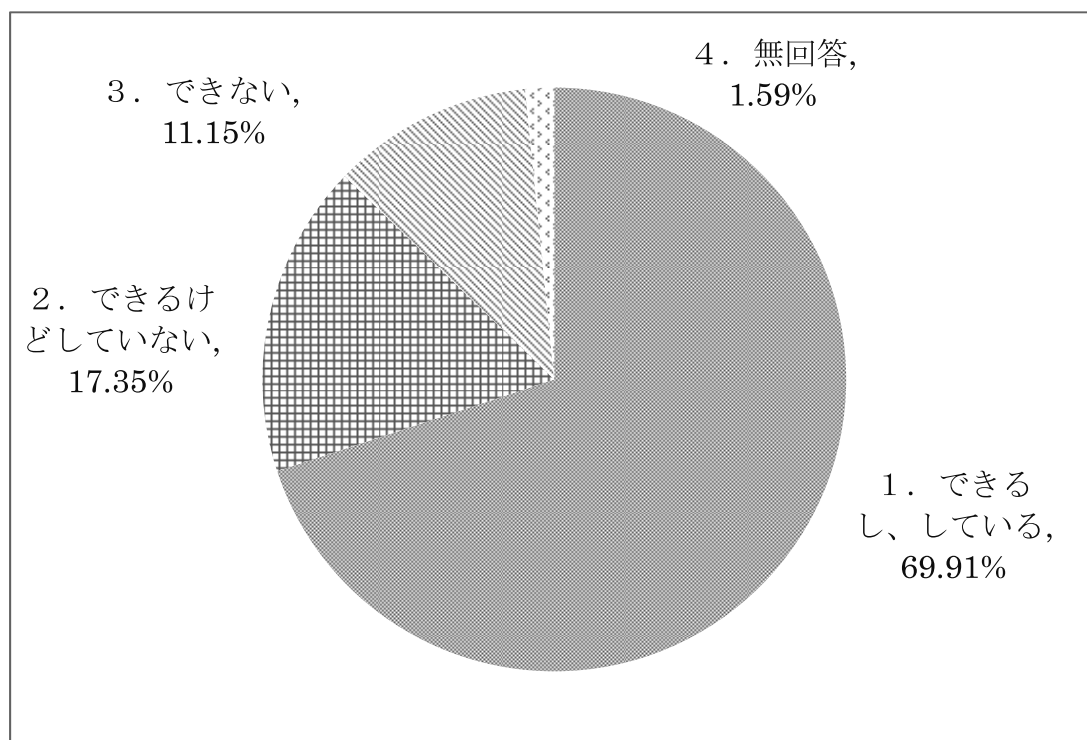
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がるについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけど、していない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	82.26%	9.68%	6.85%	1.21%
	女性	317	71.29%	7.57%	18.93%	2.21%
年齢別	65～69歳	155	87.10%	7.10%	5.16%	0.65%
	70～74歳	139	82.01%	7.91%	9.35%	0.72%
	75～79歳	102	79.41%	9.80%	8.82%	1.96%
	80～84歳	93	62.37%	12.90%	21.51%	3.23%
	85～89歳	54	66.67%	7.41%	25.93%	0.00%
	90～94歳	19	21.05%	0.00%	63.16%	15.79%
	95歳～	3	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	81.04%	8.32%	8.90%	1.74%
	要支援1	26	30.77%	15.38%	50.00%	3.85%
	要支援2	22	13.64%	4.55%	81.82%	0.00%

(3) 15分位続けて歩いていますか

15分位続けて歩くことについて、「1. できるし、している」が最も多く69.91%を占め、「2. できるけど、していない」が17.35%、「3. できない」が11.15%となりました。



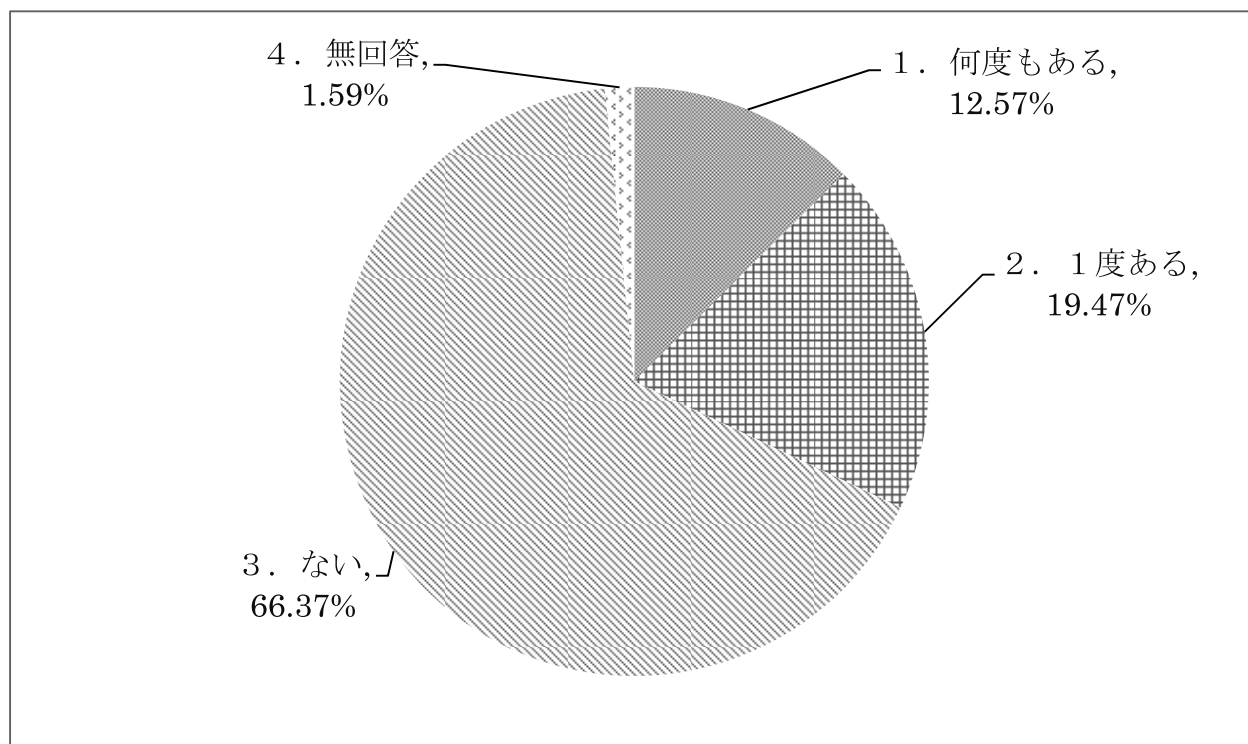
15分位続けて歩くことについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	72.18%	19.76%	6.85%	1.21%
	女性	317	68.14%	15.46%	14.51%	1.89%
年齢別	65～69歳	155	74.19%	21.94%	3.23%	0.65%
	70～74歳	139	76.98%	18.71%	4.32%	0.00%
	75～79歳	102	75.49%	11.76%	11.76%	0.98%
	80～84歳	93	59.14%	16.13%	21.51%	3.23%
	85～89歳	54	62.96%	16.67%	20.37%	0.00%
	90～94歳	19	31.58%	5.26%	42.11%	21.05%
	95歳～	3	33.33%	33.33%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	72.92%	17.79%	7.54%	1.74%
	要支援1	26	46.15%	15.38%	38.46%	0.00%
	要支援2	22	27.27%	9.09%	63.64%	0.00%

(4) 過去 1 年間に転んだ経験がありますか

過去1年間に転んだ経験があるかどうかについて、「1. 何度もある」が12.57%、「2. 1度ある」が19.47%で転倒経験が「ある」という方が合計32.04%で、「3. ない」が66.37%となっています。



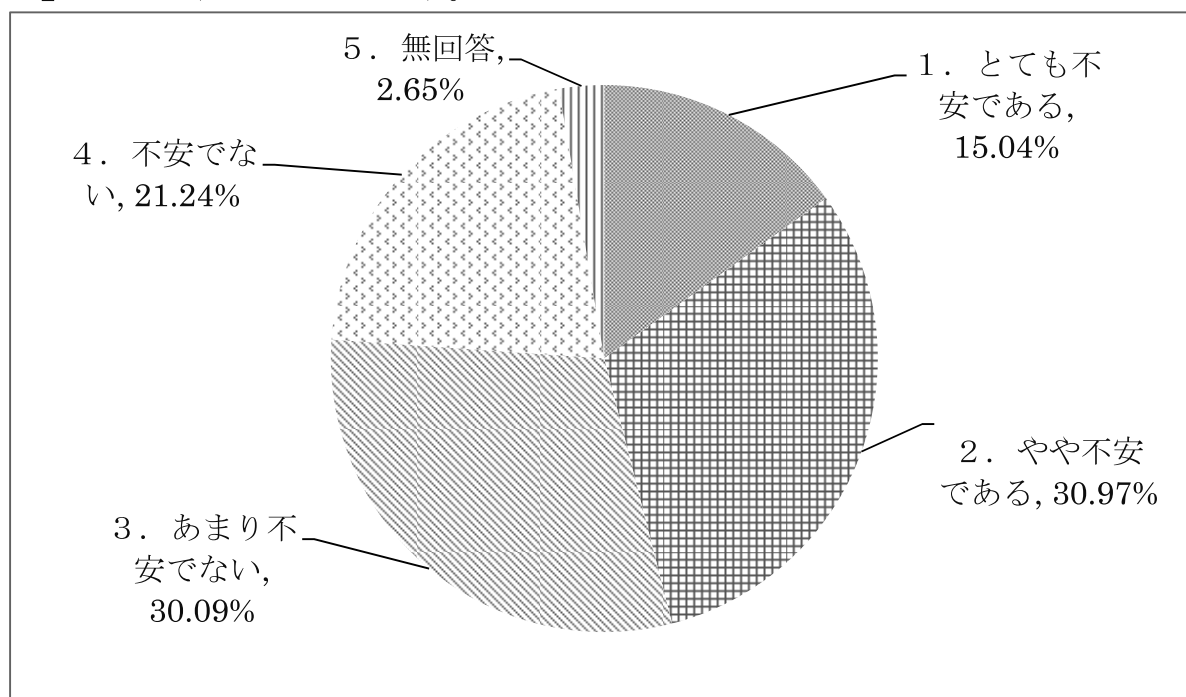
過去 1 年間に転んだ経験があるかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. 何度もある	2. 1度ある	3. ない	4. 無回答
性別	男性	248	10.08%	12.90%	75.00%	2.02%
	女性	317	14.51%	24.61%	59.62%	1.26%
年齢別	65～69歳	155	11.61%	14.19%	73.55%	0.65%
	70～74歳	139	9.35%	20.86%	69.06%	0.72%
	75～79歳	102	11.76%	23.53%	63.73%	0.98%
	80～84歳	93	12.90%	23.66%	60.22%	3.23%
	85～89歳	54	20.37%	9.26%	70.37%	0.00%
	90～94歳	19	26.32%	31.58%	26.32%	15.79%
	95歳～	3	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	11.61%	19.34%	67.50%	1.55%
	要支援1	26	19.23%	19.23%	57.69%	3.85%
	要支援2	22	27.27%	22.73%	50.00%	0.00%

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

転倒に対する不安は大きいかどうかについて、「とても不安である」が 15.04%、「やや不安である」が 30.97%となっており、『不安である』の合計は 46.01%となっています。一方、「あまり不安でない」は 30.09%、「不安でない」は 21.24%で、合計した『不安でない』は 51.33%となっています。



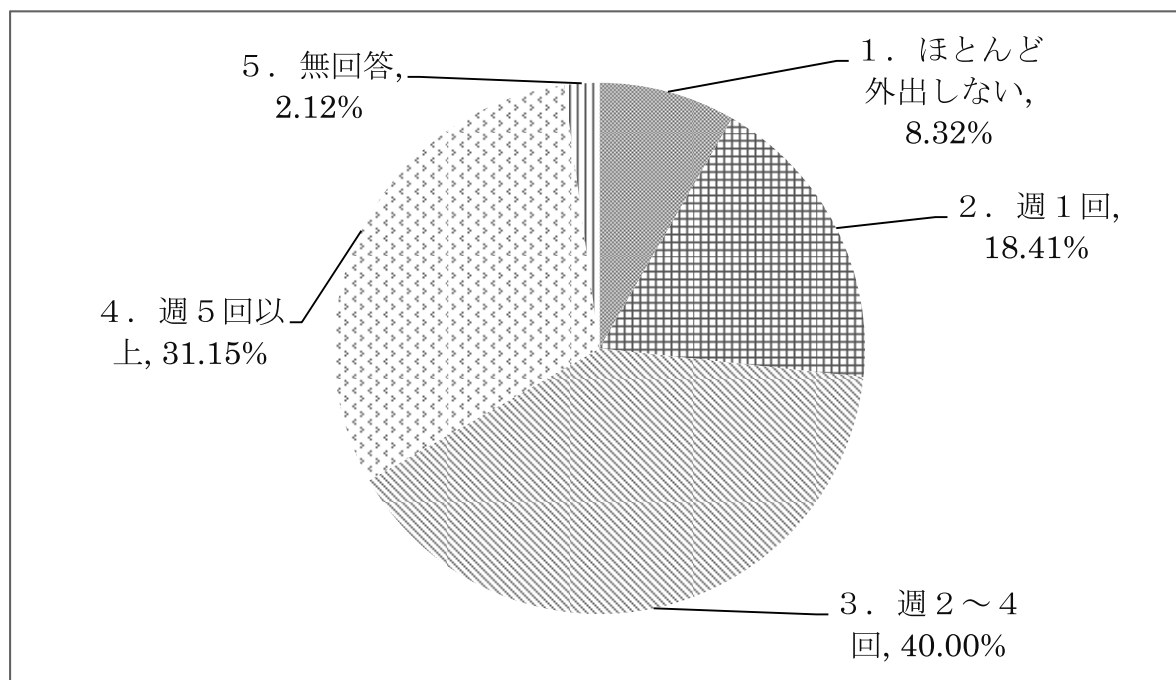
転倒に対する不安は大きいかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. とても不安である	2. やや不安である	3. あまり不安でない	4. 不安でない	5. 無回答
性別	男性	248	5.24%	26.61%	35.48%	30.24%	2.42%
	女性	317	22.71%	34.38%	25.87%	14.20%	2.84%
年齢別	65～69歳	155	6.45%	30.97%	33.55%	28.39%	0.65%
	70～74歳	139	10.79%	27.34%	35.25%	25.18%	1.44%
	75～79歳	102	12.75%	28.43%	31.37%	23.53%	3.92%
	80～84歳	93	22.58%	40.86%	20.43%	11.83%	4.30%
	85～89歳	54	31.48%	29.63%	31.48%	7.41%	0.00%
	90～94歳	19	42.11%	26.32%	5.26%	5.26%	21.05%
	95歳～	3	33.33%	33.33%	0.00%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	12.38%	29.98%	31.72%	23.21%	2.71%
	要支援1	26	34.62%	42.31%	19.23%	0.00%	3.85%
	要支援2	22	54.55%	40.91%	4.55%	0.00%	0.00%

(6) 週に1回以上は外出していますか

1週間あたりの外出頻度について、「週2～4回以上」が40.00%で最も高く、次いで「週5回以上」が31.15%、「週1回」が18.41%となっています。



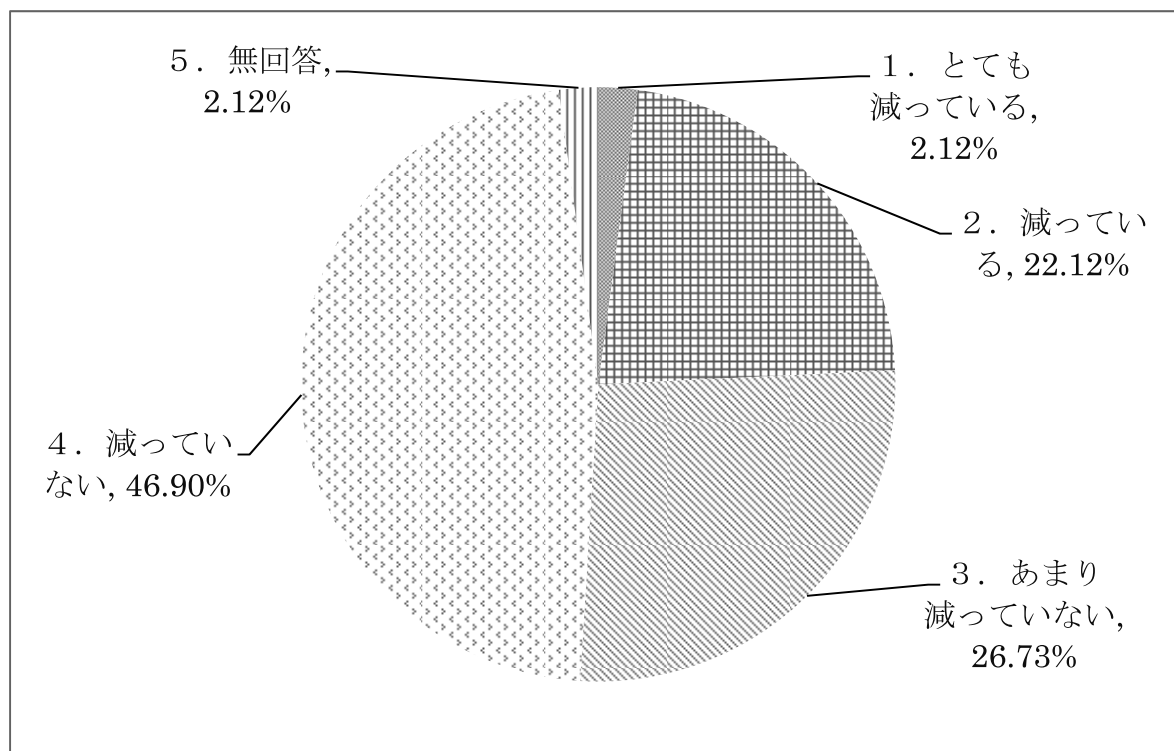
1週間あたりの外出頻度について、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. ほとんど外出しない	2. 週1回	3. 週2～4回	4. 週5回以上	5. 無回答
性別	男性	248	6.85%	15.32%	35.08%	41.13%	1.61%
	女性	317	9.46%	20.82%	43.85%	23.34%	2.52%
年齢別	65～69歳	155	3.87%	16.77%	39.35%	38.71%	1.29%
	70～74歳	139	7.19%	12.95%	45.32%	33.09%	1.44%
	75～79歳	102	6.86%	18.63%	33.33%	39.22%	1.96%
	80～84歳	93	10.75%	19.35%	43.01%	23.66%	3.23%
	85～89歳	54	14.81%	31.48%	40.74%	12.96%	0.00%
	90～94歳	19	21.05%	31.58%	31.58%	5.26%	10.53%
	95歳～	3	66.67%	0.00%	0.00%	0.00%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	7.35%	17.60%	39.46%	33.46%	2.13%
	要支援1	26	19.23%	30.77%	38.46%	7.69%	3.85%
	要支援2	22	18.18%	22.73%	54.55%	4.55%	0.00%

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかについて、「減っていない」が46.90%で最も高く、次いで「あまり減っていない」が26.73%となっており、合計した『減っていない』が73.63%となっています。一方、「とても減っている」は2.12%、「減っている」は22.12%で、合計した『減っている』が24.24%となっています。



昨年と比べて外出の回数が減っているかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

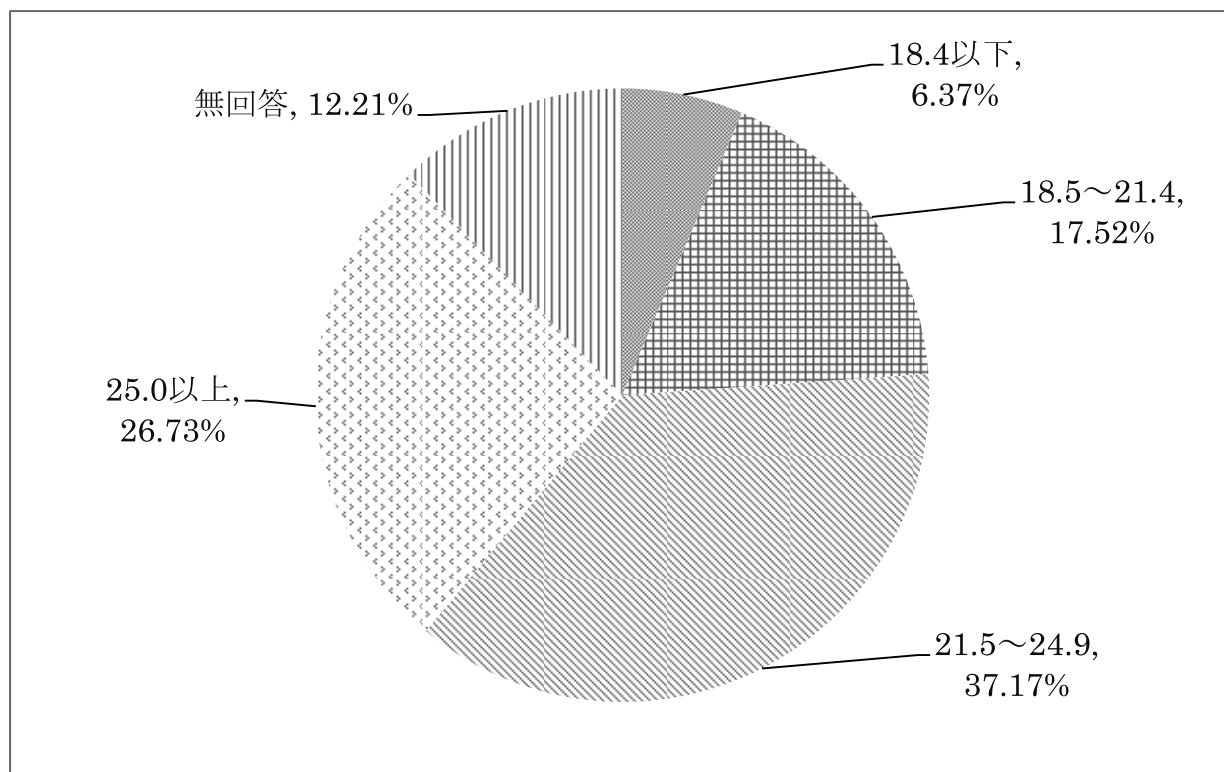
(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. とても減っている	2. 減っている	3. あまり減っていない	4. 減っていない	5. 無回答
性別	男性	248	2.02%	14.92%	25.81%	56.05%	1.21%
	女性	317	2.21%	27.76%	27.44%	39.75%	2.84%
年齢別	65～69歳	155	1.29%	14.19%	24.52%	59.35%	0.65%
	70～74歳	139	1.44%	15.83%	29.50%	51.08%	2.16%
	75～79歳	102	2.94%	18.63%	31.37%	44.12%	2.94%
	80～84歳	93	2.15%	36.56%	29.03%	30.11%	2.15%
	85～89歳	54	5.56%	29.63%	16.67%	46.30%	1.85%
	90～94歳	19	0.00%	52.63%	15.79%	21.05%	10.53%
	95歳～	3	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	1.93%	19.92%	27.27%	48.74%	2.13%
	要支援1	26	3.85%	42.31%	26.92%	26.92%	0.00%
	要支援2	22	4.55%	50.00%	13.64%	27.27%	4.55%

問3 食べることについて

(1) 身長・体重

身長・体重から求めたBMIについて、「ふつう(18.5～24.9)」が54.69%を占めており、「肥満(25.0以上)」は26.73%、「やせ(18.5未満)」は6.37%となっています。

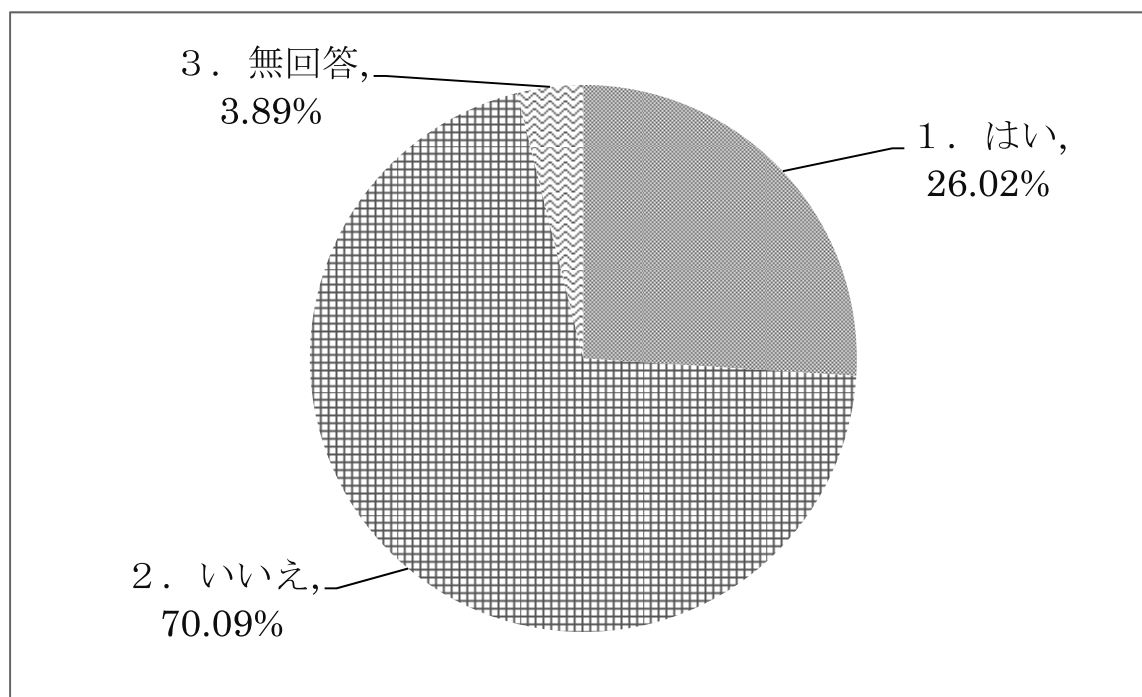


介護認定別にBMIを集計した結果は、次のとおりです。(BMIが「ふつう(18.5～24.9)」に当たる区分に色づけをしています。)

BMI	一般高齢者	要支援1	要支援2
18.4以下	5.80%	7.69%	18.18%
18.5～21.4	18.57%	23.08%	31.82%
21.5～24.9	36.36%	23.08%	27.27%
25.0以上	27.27%	23.08%	18.18%
無回答	11.99%	23.08%	4.55%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかどうかについて、「はい」が26.02%、「いいえ」が70.09%となっています。



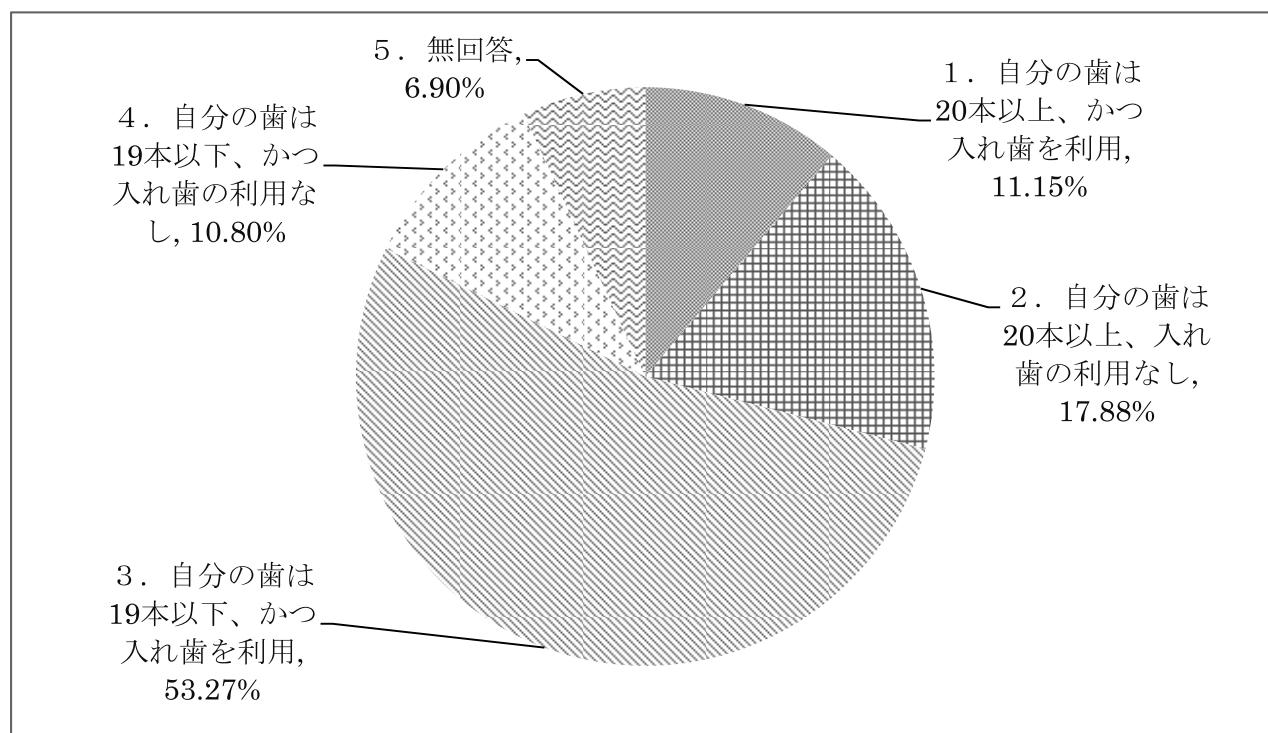
半年前に比べて固いものが食べにくくなったかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. はい	2. いいえ	3. 無回答
性別	男性	248	21.77%	73.39%	4.84%
	女性	317	29.34%	67.51%	3.15%
年齢別	65～69歳	155	19.35%	78.06%	2.58%
	70～74歳	139	21.58%	76.26%	2.16%
	75～79歳	102	23.53%	71.57%	4.90%
	80～84歳	93	39.78%	54.84%	5.38%
	85～89歳	54	27.78%	66.67%	5.56%
	90～94歳	19	52.63%	36.84%	10.53%
	95歳～	3	33.33%	66.67%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	24.03%	72.09%	3.88%
	要支援1	26	48.15%	44.44%	7.41%
	要支援2	22	45.45%	54.55%	0.00%

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

歯の数と入れ歯の利用状況について、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が53.27%で最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が17.88%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が11.15%となっており、自分の歯が20本以上ある人は合計29.03%、入れ歯を利用している人は合計64.42%となっています。



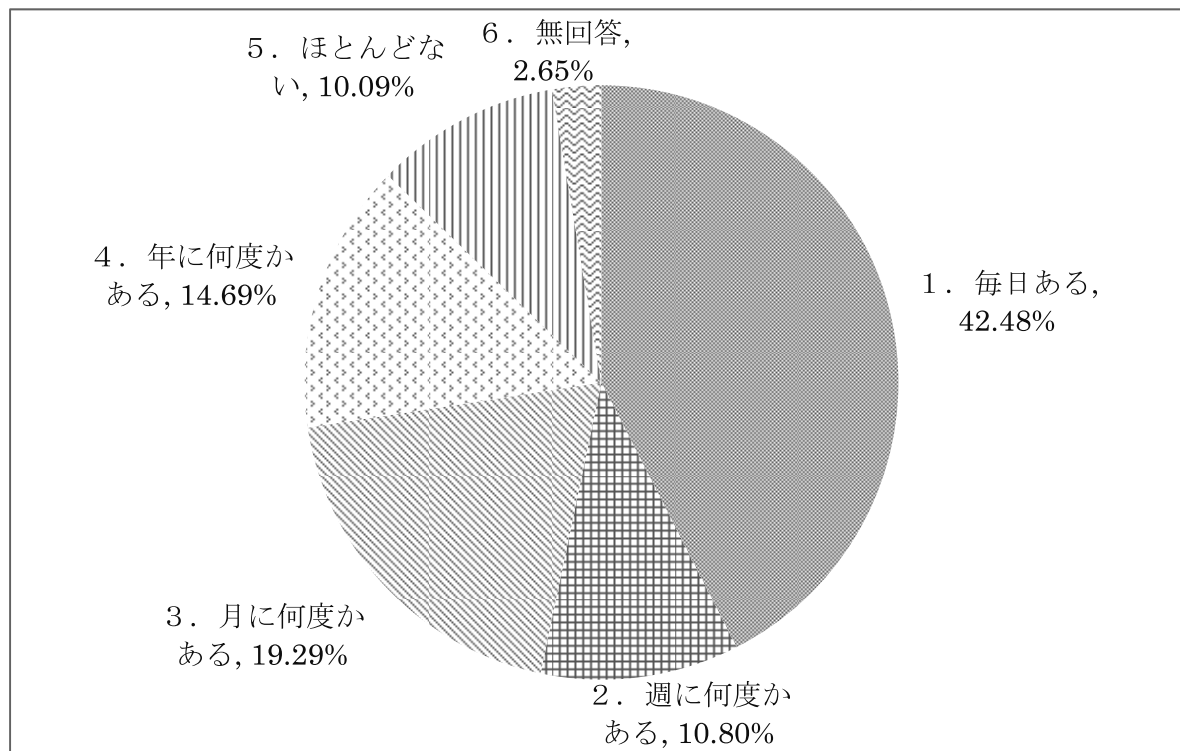
歯の数と入れ歯の利用状況について、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

（最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。）

		回答者数	1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	4. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯の利用なし	5. 無回答
性別	男性	248	12.10%	22.18%	45.56%	13.31%	6.85%
	女性	317	10.41%	14.51%	59.31%	8.83%	6.94%
年齢別	65～69歳	155	12.90%	25.81%	49.68%	8.39%	3.23%
	70～74歳	139	11.51%	21.58%	48.92%	13.67%	4.32%
	75～79歳	102	9.80%	13.73%	56.86%	10.78%	8.82%
	80～84歳	93	11.83%	12.90%	56.99%	11.83%	6.45%
	85～89歳	54	9.26%	5.56%	57.41%	9.26%	18.52%
	90～94歳	19	5.26%	10.53%	63.16%	10.53%	10.53%
	95歳～	3	0.00%	0.00%	66.67%	0.00%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	11.99%	18.57%	51.64%	10.44%	7.35%
	要支援1	26	3.85%	15.38%	65.38%	11.54%	3.85%
	要支援2	22	0.00%	4.55%	77.27%	18.18%	0.00%

(8) どなたかと食事をとにもする機会がありますか

どなたかと食事をとにもする機会があるかどうかについて、「毎日ある」が 42.48%で最も高く、次いで「月に何度かある」が 19.29%、「年に何度かある」が 14.69%、「週に何度かある」が 10.80%、「ほとんどない」が 10.09%となっています。



どなたかと食事をとにもする機会があるかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

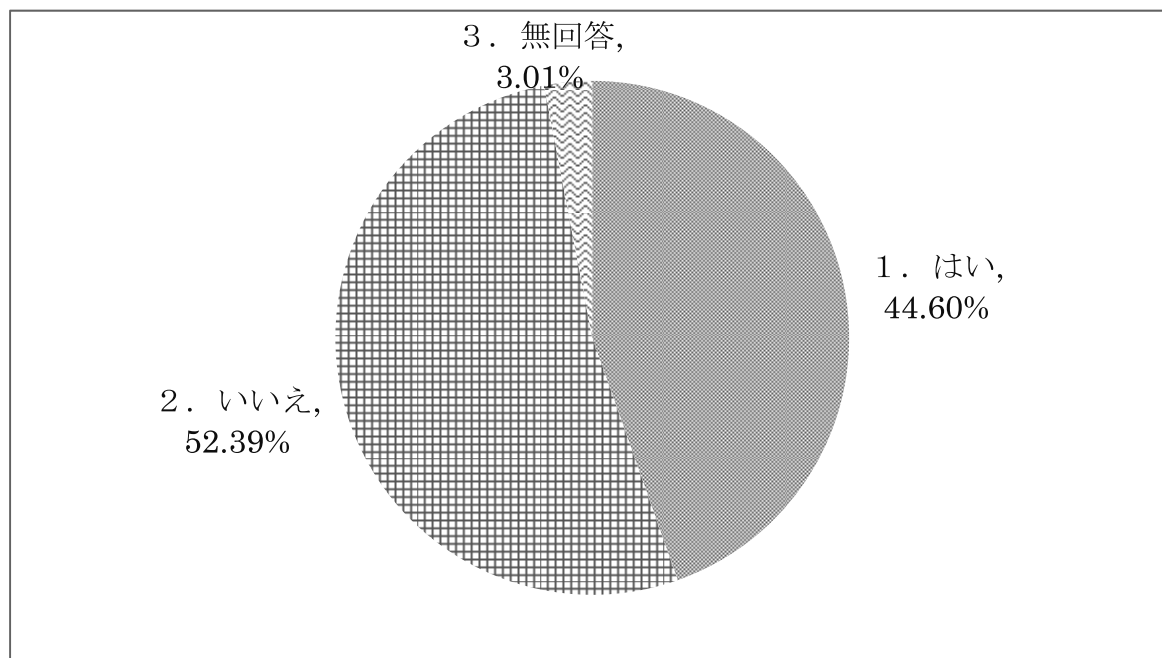
(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. 毎日ある	2. 週に何度かある	3. 月に何度かある	4. 年に何度かある	5. ほとんどない	6. 無回答
性別	男性	248	44.76%	8.87%	15.73%	14.11%	14.11%	2.42%
	女性	317	40.69%	12.30%	22.08%	15.14%	6.94%	2.84%
年齢別	65～69歳	155	61.29%	7.74%	14.84%	10.32%	3.87%	1.94%
	70～74歳	139	44.60%	8.63%	17.99%	12.23%	13.67%	2.88%
	75～79歳	102	35.29%	12.75%	21.57%	15.69%	13.73%	0.98%
	80～84歳	93	25.81%	17.20%	23.66%	19.35%	11.83%	2.15%
	85～89歳	54	20.37%	14.81%	25.93%	24.07%	9.26%	5.56%
	90～94歳	19	52.63%	0.00%	10.53%	15.79%	10.53%	10.53%
	95歳～	3	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%	0.00%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	43.91%	9.48%	18.96%	14.89%	10.06%	2.71%
	要支援1	26	34.62%	23.08%	23.08%	11.54%	3.85%	3.85%
	要支援2	22	18.18%	27.27%	22.73%	13.64%	18.18%	0.00%

問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか

物忘れが多いと感じるかどうかについて、「はい」が44.60%、「いいえ」が52.39%となっています。



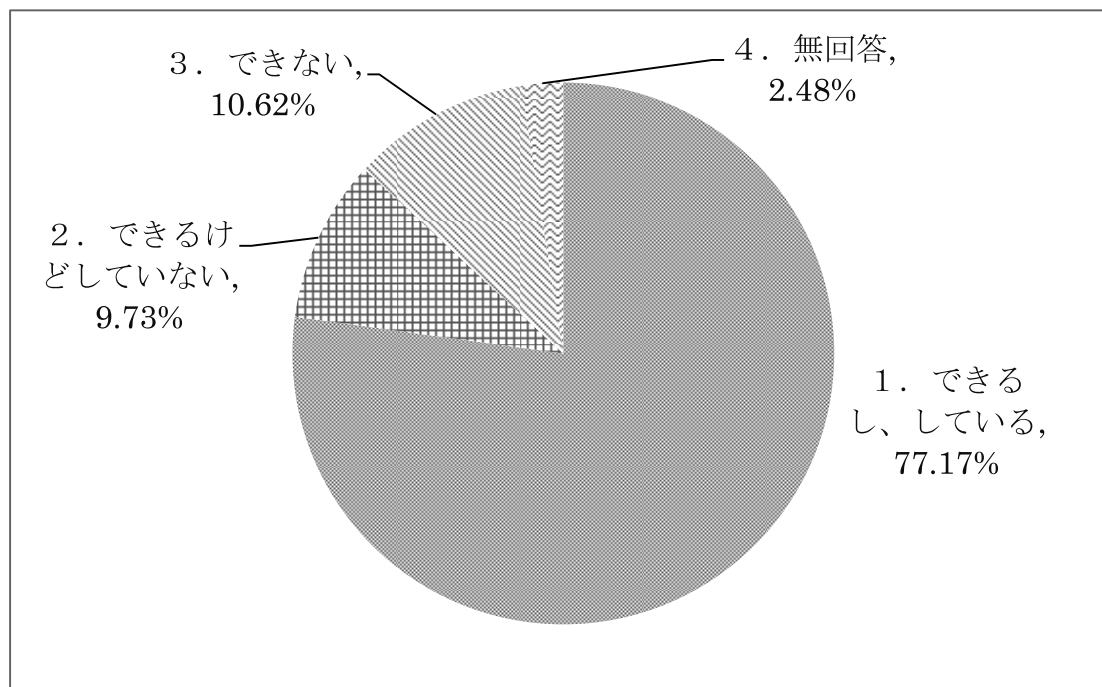
物忘れが多いと感じるかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. はい	2. いいえ	3. 無回答
性別	男性	248	37.90%	58.06%	4.03%
	女性	317	49.84%	47.95%	2.21%
年齢別	65～69歳	155	35.67%	61.78%	2.55%
	70～74歳	139	44.53%	54.74%	0.73%
	75～79歳	102	42.16%	53.92%	3.92%
	80～84歳	93	62.37%	34.41%	3.23%
	85～89歳	54	38.89%	53.70%	7.41%
	90～94歳	19	57.89%	36.84%	5.26%
	95歳～	3	66.67%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	42.94%	54.16%	2.90%
	要支援1	26	69.23%	26.92%	3.85%
	要支援2	22	54.55%	40.91%	4.55%

(4) バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）

バスや電車を使って1人で外出しているかどうかについて、「1. できるし、している」が77.17%で最も多く、次いで「3. できない」が10.62%、その次に「2. できるけどしていない」が9.73%となっています。



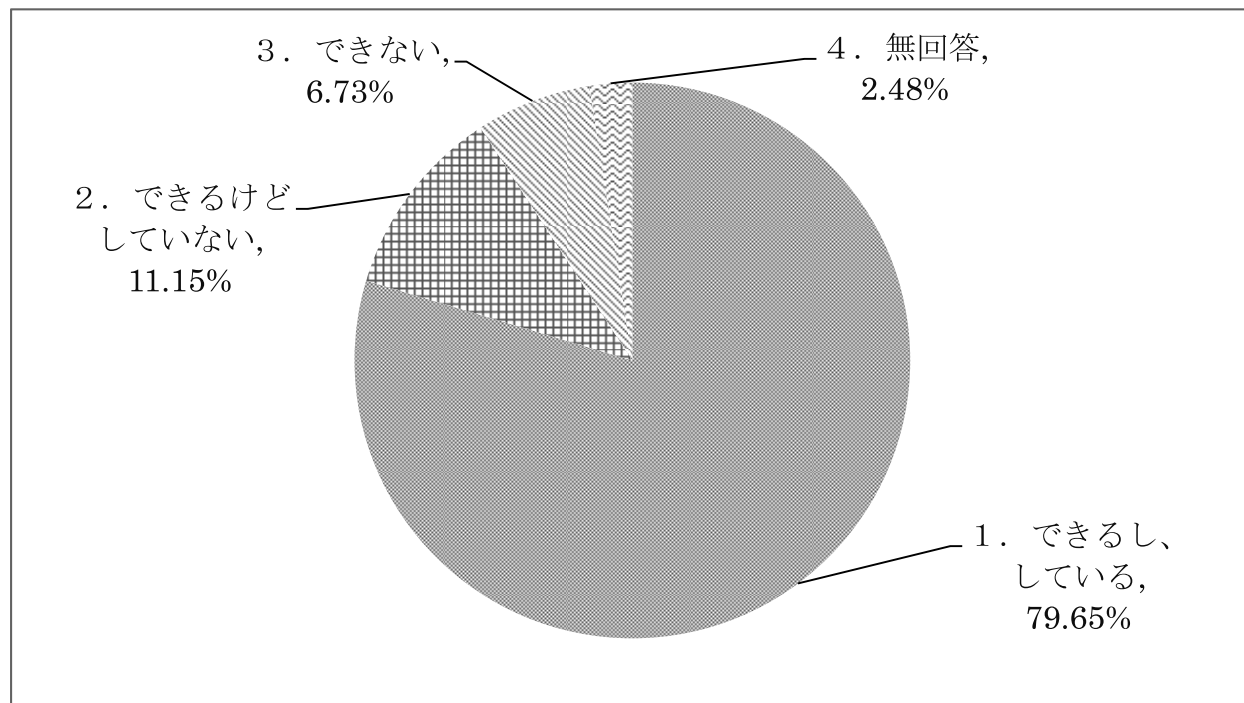
バスや電車を使って1人で外出しているかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

（最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。）

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	81.45%	9.27%	6.45%	2.82%
	女性	317	73.82%	10.09%	13.88%	2.21%
年齢別	65～69歳	155	86.45%	9.68%	1.94%	1.94%
	70～74歳	139	85.61%	10.07%	2.88%	1.44%
	75～79歳	102	78.43%	7.84%	10.78%	2.94%
	80～84歳	93	67.74%	11.83%	16.13%	4.30%
	85～89歳	54	64.81%	11.11%	22.22%	1.85%
	90～94歳	19	26.32%	5.26%	63.16%	5.26%
	95歳～	3	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	81.62%	9.48%	6.38%	2.51%
	要支援1	26	30.77%	19.23%	46.15%	3.85%
	要支援2	22	27.27%	4.55%	68.18%	0.00%

(5) 自分で食品・日用品の買物をしていますか

自分で食品・日用品の買物をしているかどうかについて、「1. できるし、している」が79.65%で最も多く、次いで「2. できるけどしていない」が11.15%、その次に「3. できない」が6.73%となっています。



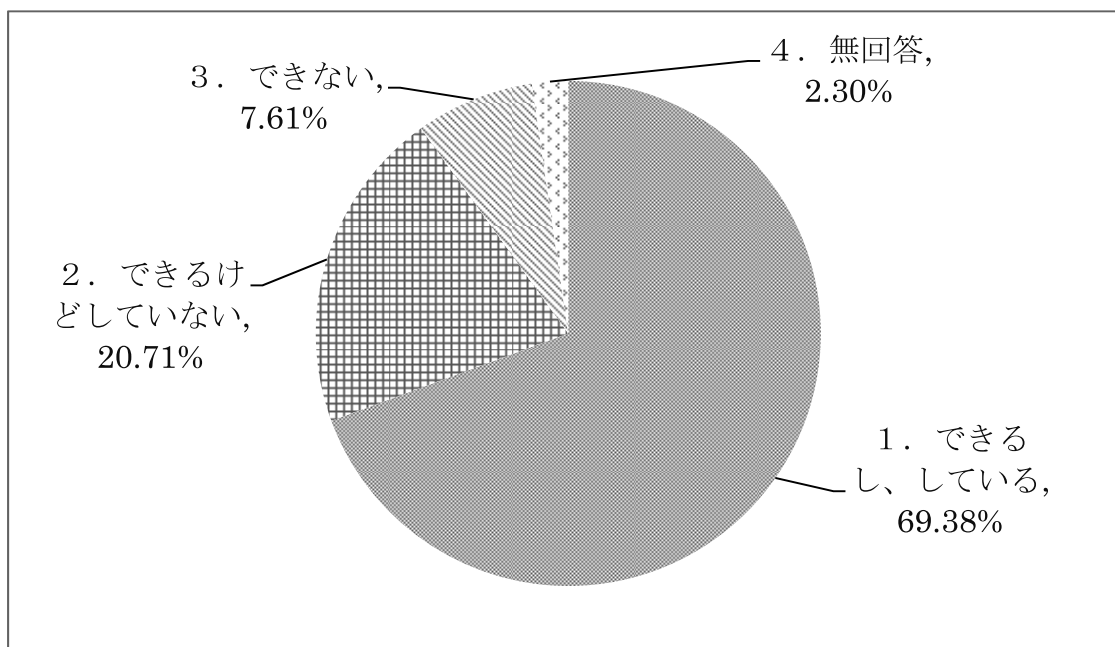
自分で食品・日用品の買物をしているかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	71.37%	20.56%	4.84%	3.23%
	女性	317	86.12%	3.79%	8.20%	1.89%
年齢別	65～69歳	155	83.23%	12.26%	2.58%	1.94%
	70～74歳	139	87.05%	10.07%	1.44%	1.44%
	75～79歳	102	86.27%	6.86%	4.90%	1.96%
	80～84歳	93	72.04%	11.83%	11.83%	4.30%
	85～89歳	54	67.27%	14.55%	12.73%	5.45%
	90～94歳	19	44.44%	11.11%	44.44%	0.00%
	95歳～	3	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	82.79%	10.64%	4.06%	2.51%
	要支援1	26	50.00%	15.38%	30.77%	3.85%
	要支援2	22	40.91%	18.18%	40.91%	0.00%

(6) 自分で食事の用意をしていますか

自分で食事の用意をしているかどうかについて、「1. できるし、している」が 69.38%で最も多く、次いで「2. できるけどしていない」が 20.71%、その次に「3. できない」が 7.61%となっています。



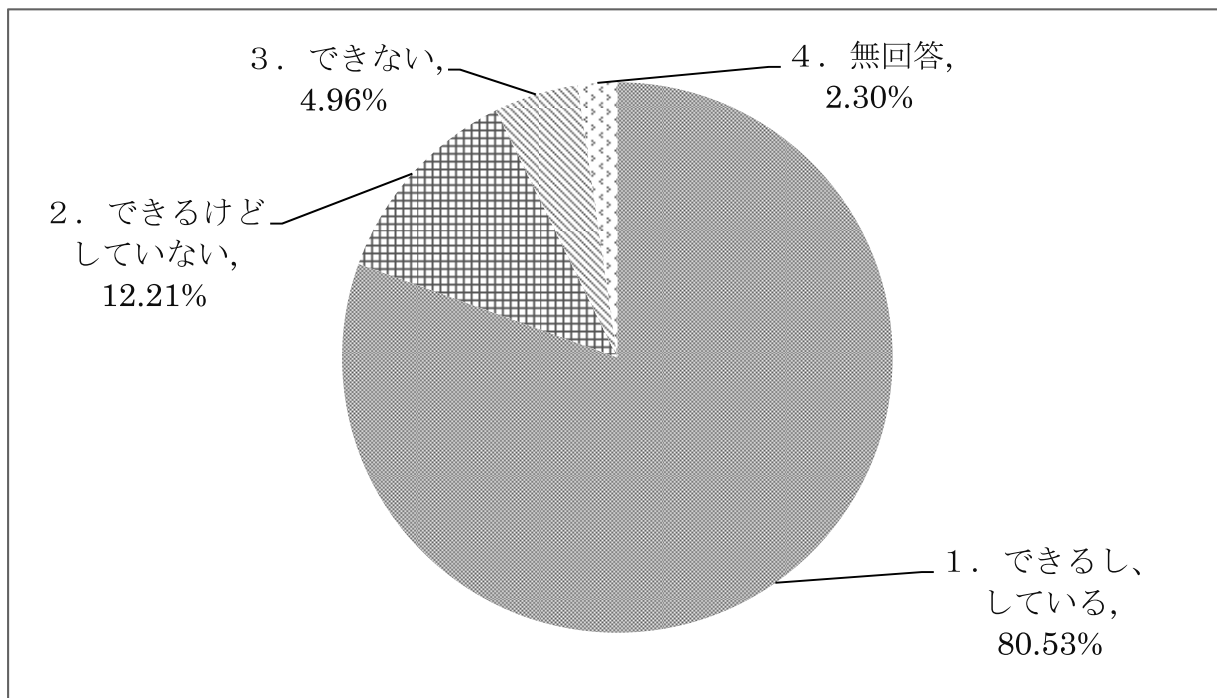
自分で食事の用意をしているかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	44.35%	41.53%	11.29%	2.82%
	女性	317	88.96%	4.42%	4.73%	1.89%
年齢別	65～69歳	155	68.39%	27.10%	2.58%	1.94%
	70～74歳	139	75.54%	17.27%	5.76%	1.44%
	75～79歳	102	67.65%	21.57%	8.82%	1.96%
	80～84歳	93	70.97%	16.13%	8.60%	4.30%
	85～89歳	54	68.52%	20.37%	9.26%	1.85%
	90～94歳	19	42.11%	15.79%	36.84%	5.26%
	95歳～	3	33.33%	0.00%	66.67%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	69.25%	22.05%	6.19%	2.51%
	要支援1	26	76.92%	7.69%	15.38%	0.00%
	要支援2	22	63.64%	4.55%	31.82%	0.00%

(7) 自分で請求書の支払いをしていますか

自分で請求書の支払いをしているかどうかについて、「1. できるし、している」が 80.53% で最も多く、次いで「2. できるけどしていない」が 12.21%、その次に「3. できない」が 4.96%となっています。



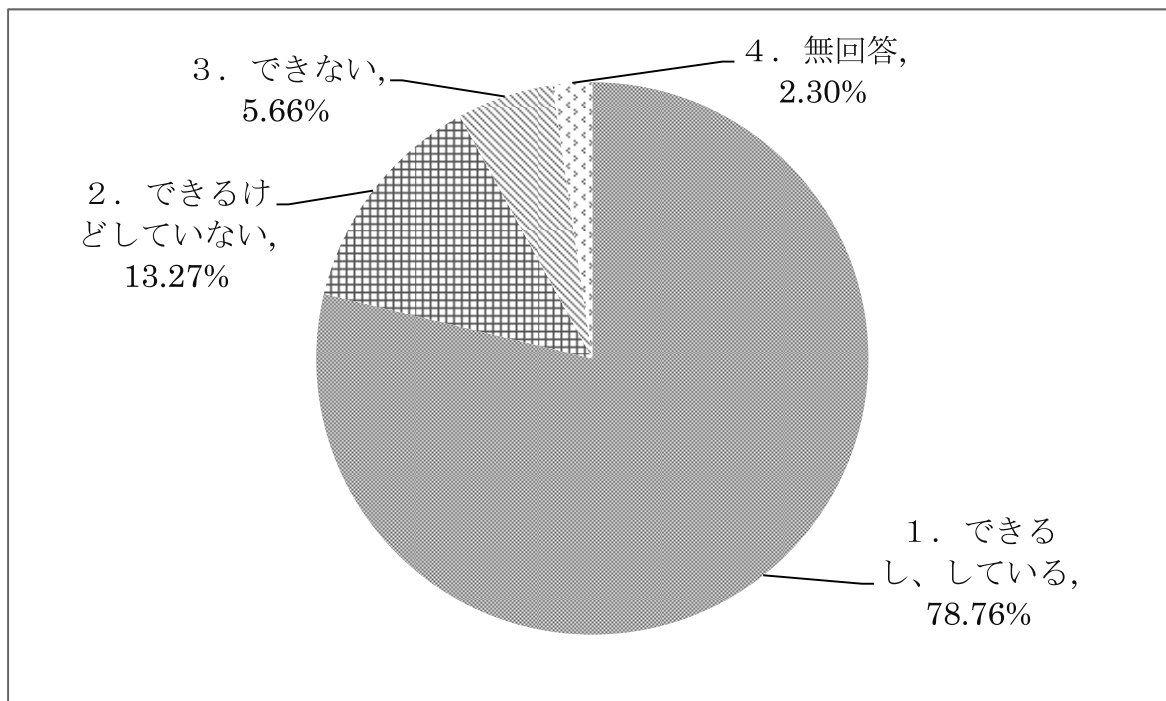
自分で請求書の支払いをしているかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	72.58%	20.16%	4.44%	2.82%
	女性	317	86.75%	5.99%	5.36%	1.89%
年齢別	65～69歳	155	84.52%	11.61%	1.94%	1.94%
	70～74歳	139	89.21%	7.19%	2.16%	1.44%
	75～79歳	102	82.35%	14.71%	0.98%	1.96%
	80～84歳	93	65.59%	20.43%	9.68%	4.30%
	85～89歳	54	83.33%	7.41%	7.41%	1.85%
	90～94歳	19	42.11%	15.79%	36.84%	5.26%
	95歳～	3	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	82.21%	11.80%	3.48%	2.51%
	要支援1	26	69.23%	11.54%	19.23%	0.00%
	要支援2	22	54.55%	22.73%	22.73%	0.00%

(8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

自分で預貯金の出し入れをしているかどうかについて、「1. できるし、している」が78.76%で最も多く、次いで「2. できるけどしていない」が13.27%、その次に「3. できない」が5.66%となっています。



自分で預貯金の出し入れをしているかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない	4. 無回答
性別	男性	248	68.95%	22.58%	5.65%	2.82%
	女性	317	86.44%	5.99%	5.68%	1.89%
年齢別	65～69歳	155	81.94%	14.19%	1.94%	1.94%
	70～74歳	139	88.49%	7.91%	2.16%	1.44%
	75～79歳	102	81.37%	15.69%	0.98%	1.96%
	80～84歳	93	63.44%	20.43%	11.83%	4.30%
	85～89歳	54	81.48%	7.41%	9.26%	1.85%
	90～94歳	19	36.84%	15.79%	42.11%	5.26%
	95歳～	3	66.67%	0.00%	33.33%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	80.08%	13.15%	4.26%	2.51%
	要支援1	26	69.23%	11.54%	19.23%	0.00%
	要支援2	22	59.09%	18.18%	22.73%	0.00%

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

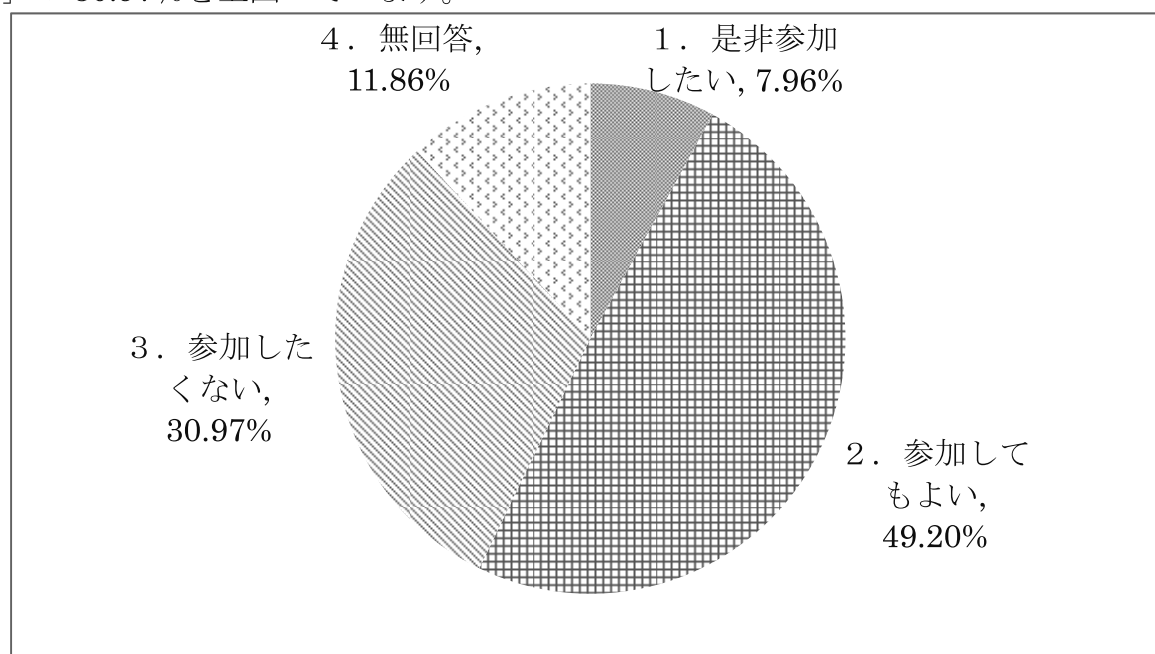
※① - ⑦それぞれに回答してください

地域での活動等への参加状況について集計した結果は、次のようになり、『参加している』（「1.週 4 回以上」～「5.年に数回」の合計）の割合は、高い順に「⑥ 町内会・自治会」で 42.12%、「③ 趣味関係のグループ」で 20.88%、「⑦ 収入のある仕事」で 20.71%、「② スポーツ関係」で 19.12%、「① ボランティアのグループ」で 17.52%、「⑤ 老人クラブ」で 11.50%、「④ 学習・教養サークル」で 8.50%となっています。

	回答者数	1. 週4回以上	2. 週2～3回	3. 週1回	4. 月1～3回	5. 年に数回
① ボランティアのグループ	565	0.53%	2.12%	1.06%	6.37%	7.43%
② スポーツ関係のグループやクラブ	565	3.36%	3.72%	2.48%	4.60%	4.96%
③ 趣味関係のグループ	565	1.06%	3.72%	3.54%	6.37%	6.19%
④ 学習・教養サークル	565	0.18%	0.35%	1.24%	2.30%	4.42%
⑤ 老人クラブ	565	0.71%	0.88%	0.18%	6.02%	3.72%
⑥ 町内会・自治会	565	1.42%	0.53%	0.53%	7.08%	32.57%
⑦ 収入のある仕事	565	12.57%	4.07%	0.53%	1.77%	1.77%
	回答者数	(再掲) 1. 週4回以上 ～ 5. 年に数回 参加の合計	6. 参加していない	7. 無回答		
① ボランティアのグループ	565	17.52%	71.15%	11.33%		
② スポーツ関係のグループやクラブ	565	19.12%	69.56%	11.33%		
③ 趣味関係のグループ	565	20.88%	67.96%	11.15%		
④ 学習・教養サークル	565	8.50%	79.29%	12.21%		
⑤ 老人クラブ	565	11.50%	76.46%	12.04%		
⑥ 町内会・自治会	565	42.12%	47.43%	10.44%		
⑦ 収入のある仕事	565	20.71%	67.79%	11.50%		

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

参加者としての地域活動への参加意向について、「是非参加したい」が 7.96%、「参加してもよい」が 49.20%と、参加意向がある人が合計 57.16%となっており、「参加したくない」の 30.97%を上回っています。



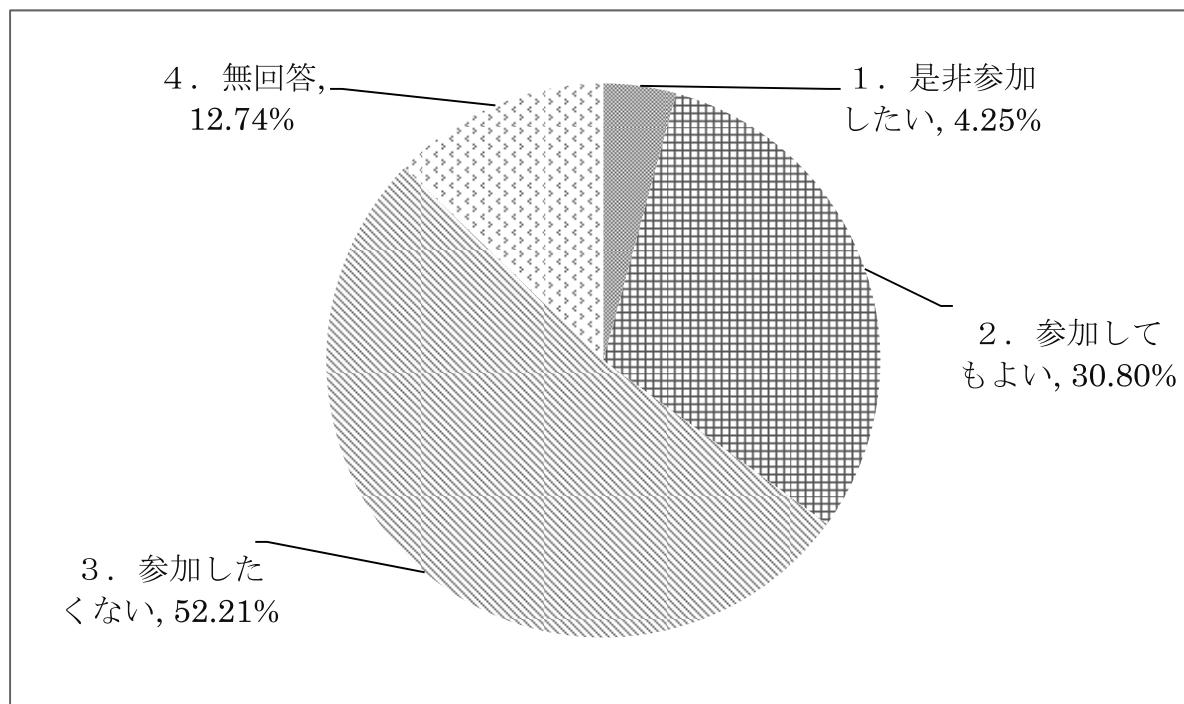
参加者としての地域活動への参加意向について、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 無回答
性別	男性	248	5.65%	50.40%	33.87%	10.08%
	女性	317	9.78%	48.26%	28.71%	13.25%
年齢別	65～69歳	155	5.81%	50.32%	38.06%	5.81%
	70～74歳	139	9.35%	55.40%	23.02%	12.23%
	75～79歳	102	10.78%	46.08%	24.51%	18.63%
	80～84歳	93	9.68%	46.24%	32.26%	11.83%
	85～89歳	54	5.56%	44.44%	38.89%	11.11%
	90～94歳	19	0.00%	42.11%	36.84%	21.05%
	95歳～	3	0.00%	33.33%	33.33%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	8.32%	50.29%	29.01%	12.38%
	要支援1	26	3.85%	38.46%	46.15%	11.54%
	要支援2	22	4.55%	36.36%	59.09%	0.00%

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

企画・運営（お世話役）としての地域活動への参加意向について、「是非参加したい」が4.25%、「参加してもよい」が30.80%と、参加意向がある人が合計35.05%となっており、「参加したくない」の52.21%を下回っています。



企画・運営（お世話役）としての地域活動への参加意向について、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

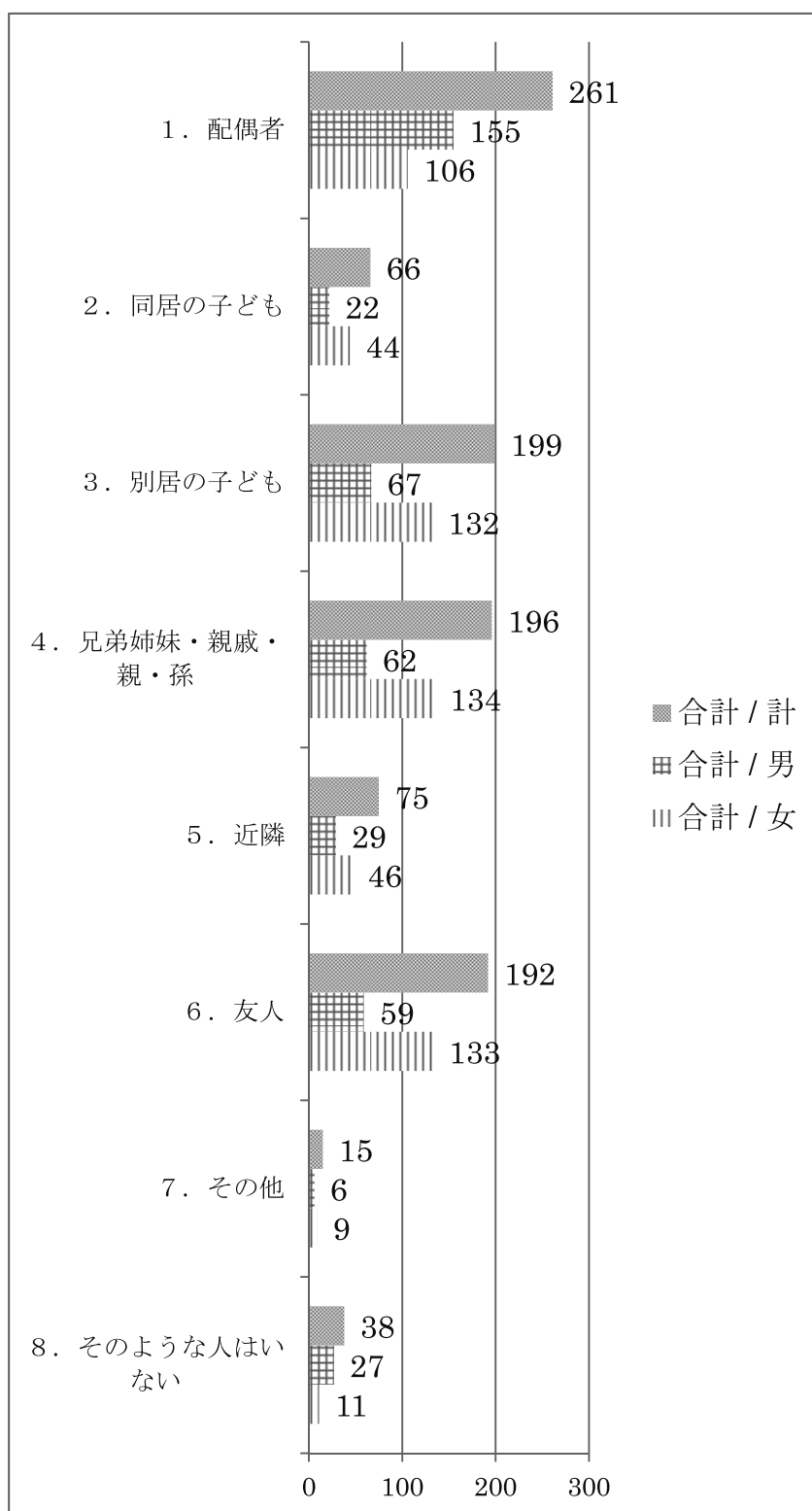
（最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。）

		回答者数	1. 是非参加したい	2. 参加してもよい	3. 参加したくない	4. 無回答
性別	男性	248	4.03%	31.45%	54.03%	10.48%
	女性	317	4.42%	30.28%	50.79%	14.51%
年齢別	65～69歳	155	1.94%	39.35%	52.90%	5.81%
	70～74歳	139	4.32%	30.94%	51.80%	12.95%
	75～79歳	102	7.84%	24.51%	48.04%	19.61%
	80～84歳	93	6.45%	27.96%	51.61%	13.98%
	85～89歳	54	1.85%	29.63%	57.41%	11.11%
	90～94歳	19	0.00%	15.79%	57.89%	26.32%
	95歳～	3	0.00%	0.00%	66.67%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	4.64%	32.50%	49.52%	13.35%
	要支援1	26	0.00%	15.38%	73.08%	11.54%
	要支援2	22	0.00%	9.09%	90.91%	0.00%

問6 たすけあいについて

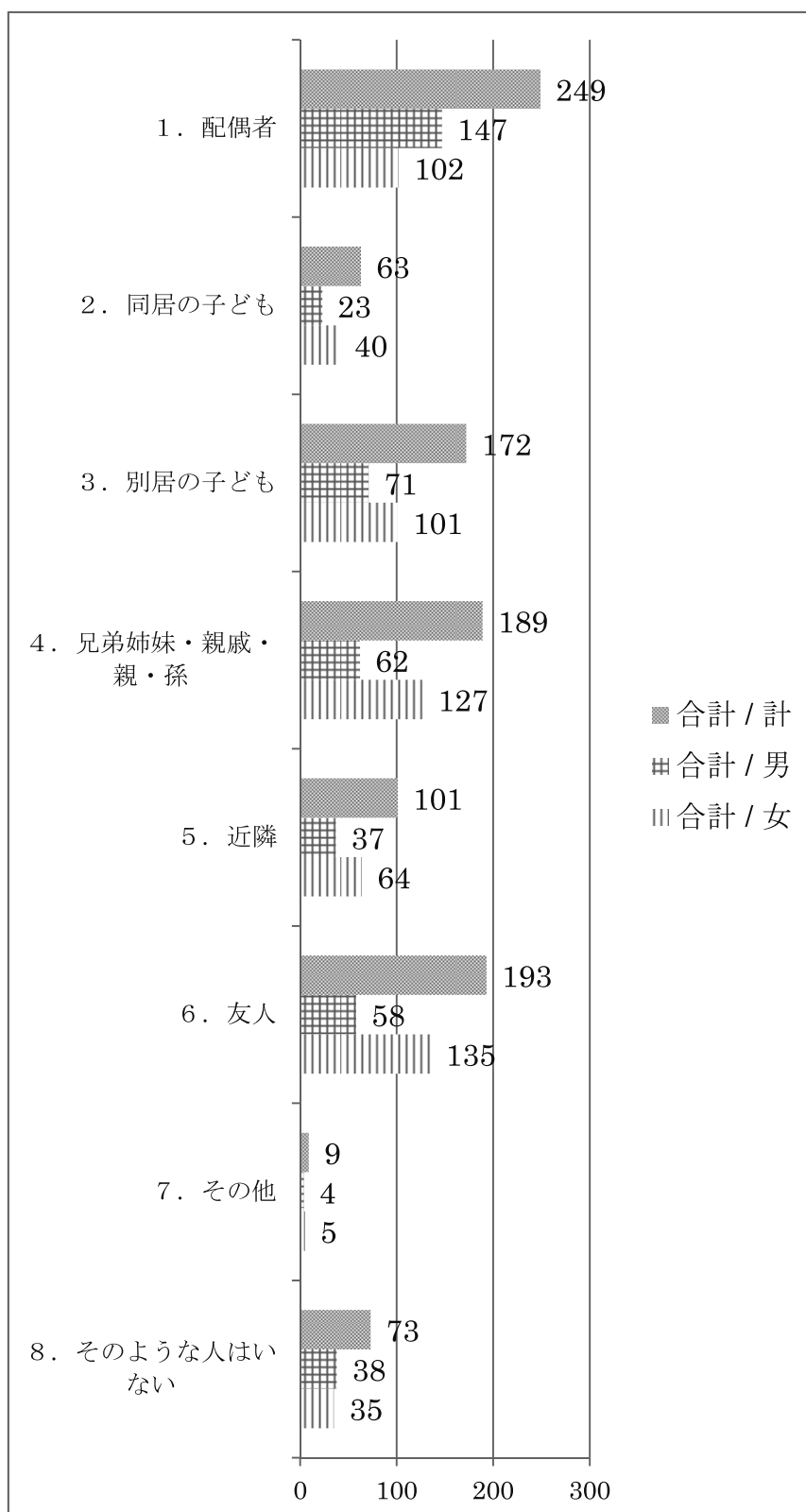
(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人(いくつでも)

心配事や愚痴を聞いてくれる人について集計したところ、次のようになり、全体合計では、「1. 配偶者」と答えた方が261人と最も多く、次いで「3. 別居の子ども」で199人、その次に「4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫」が196人となっています。男女性別ごとでは、男性では「1. 配偶者」と答えた方が155人と最も多く、女性では「4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫」で134人が最も多く、性別ごとの集計では多い順が全体合計と変わっています。



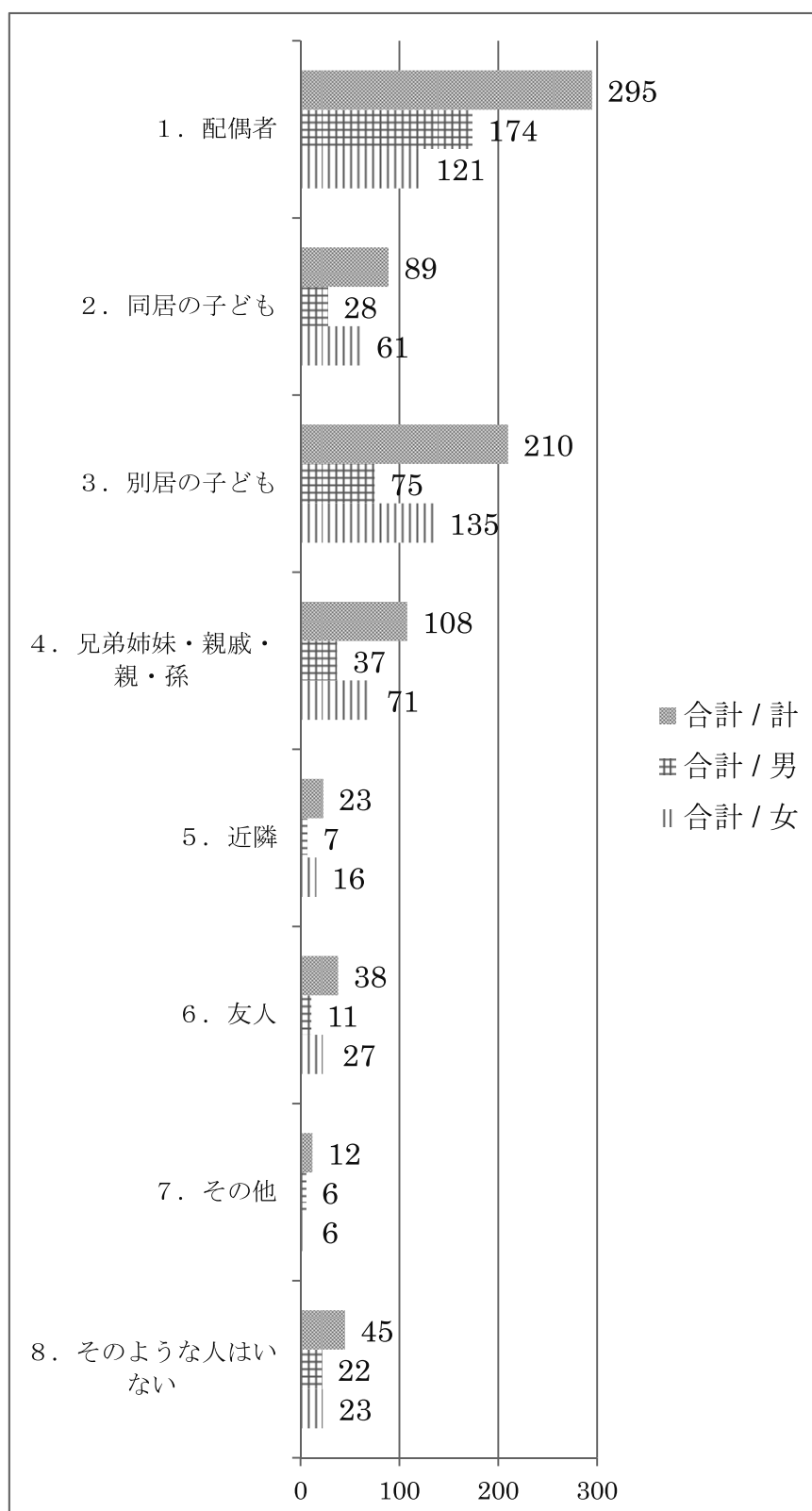
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

心配事や愚痴を聞いてあげる人について集計したところ、次のようになり、全体合計では、「1. 配偶者」と答えた方が 249 人と最も多く、次いで「6. 友人」で 193 人、その次に「4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 189 人となっています。男女性別ごとでは、男性では「1. 配偶者」と答えた方が 147 人と最も多く、女性では「6. 友人」で 135 人が最も多くなっています。



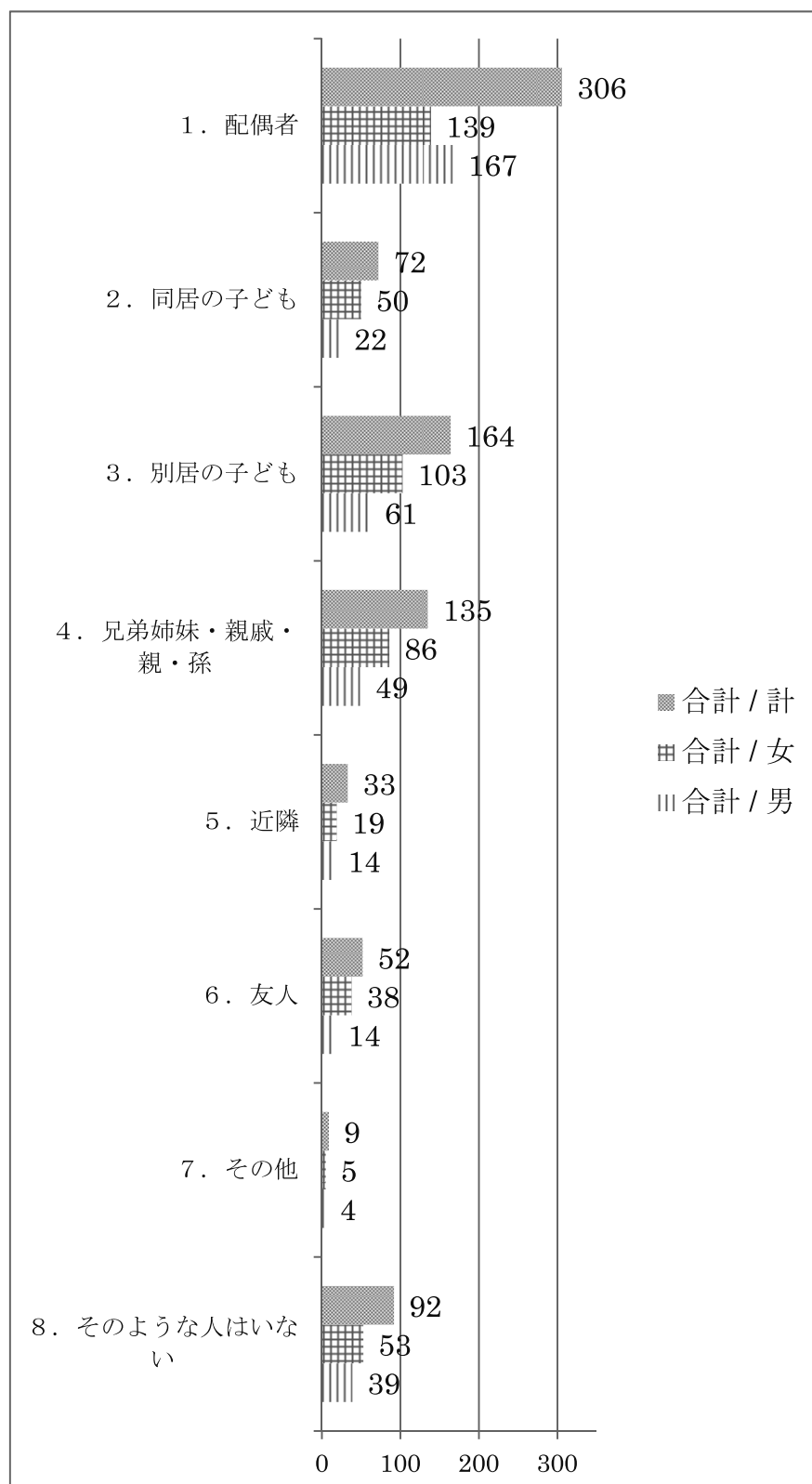
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

看病や世話をしてくれる人について集計したところ、次のようになり、全体合計では、「1. 配偶者」と答えた方が 295 人と最も多く、次いで「3. 別居の子ども」で 210 人、その次に「4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 108 人となっています。男女性別ごとでは、男性では「1. 配偶者」と答えた方が 174 人と最も多く、女性では「3. 別居の子ども」で 135 人が最も多くなっています。



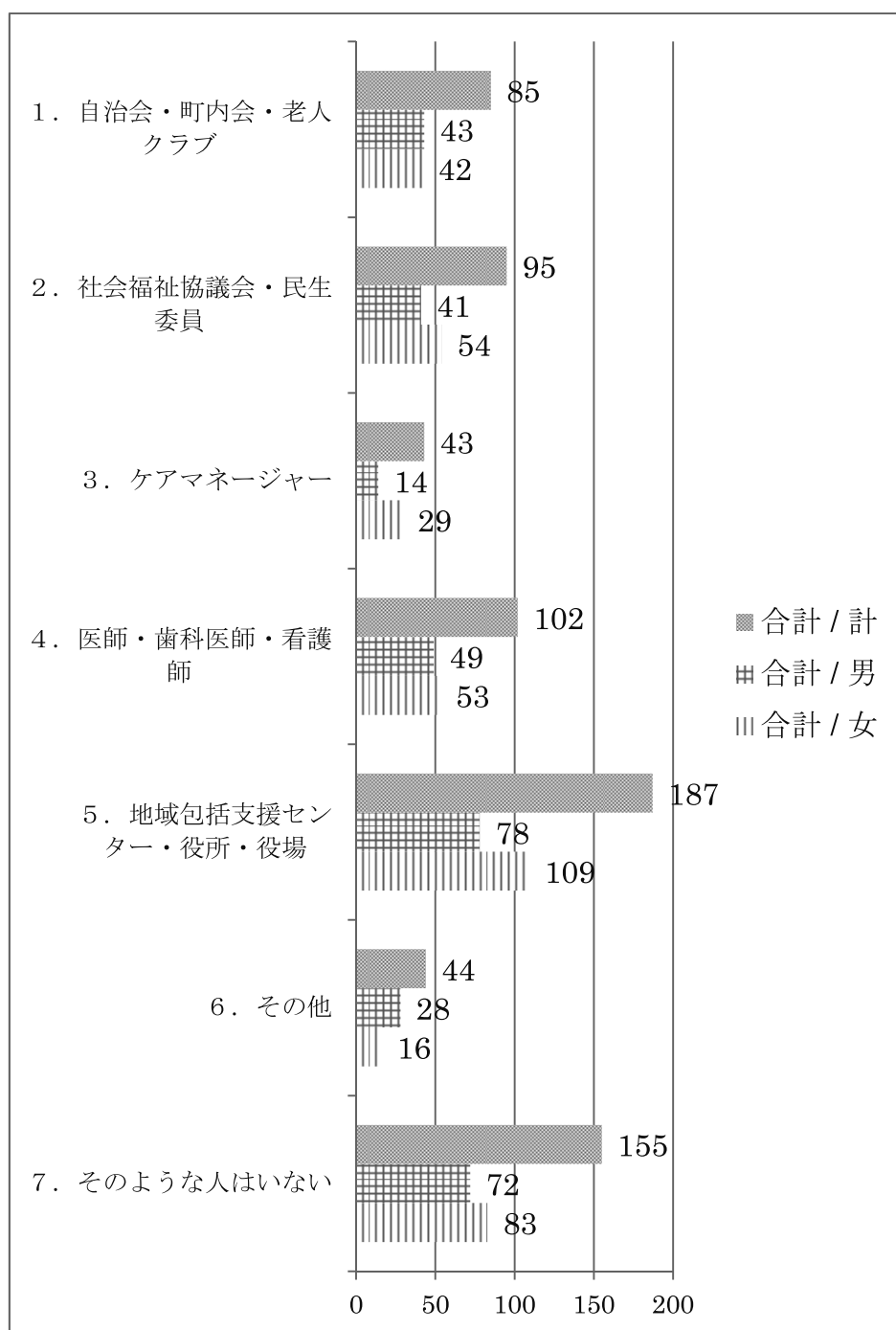
(4) 反対に、看病や世話をしをてあげる人（いくつでも）

看病や世話をしをてあげる人について集計したところ、次のようになり、全体合計では、「1. 配偶者」と答えた方が 306 人と最も多く、次いで「3. 別居の子ども」で 164 人、その次に「4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 135 人となっています。男女性別ごとでは、男性では「1. 配偶者」と答えた方が 139 人と最も多く、女性の場合も「1. 配偶者」が 167 人で最も多くなっています。



(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)

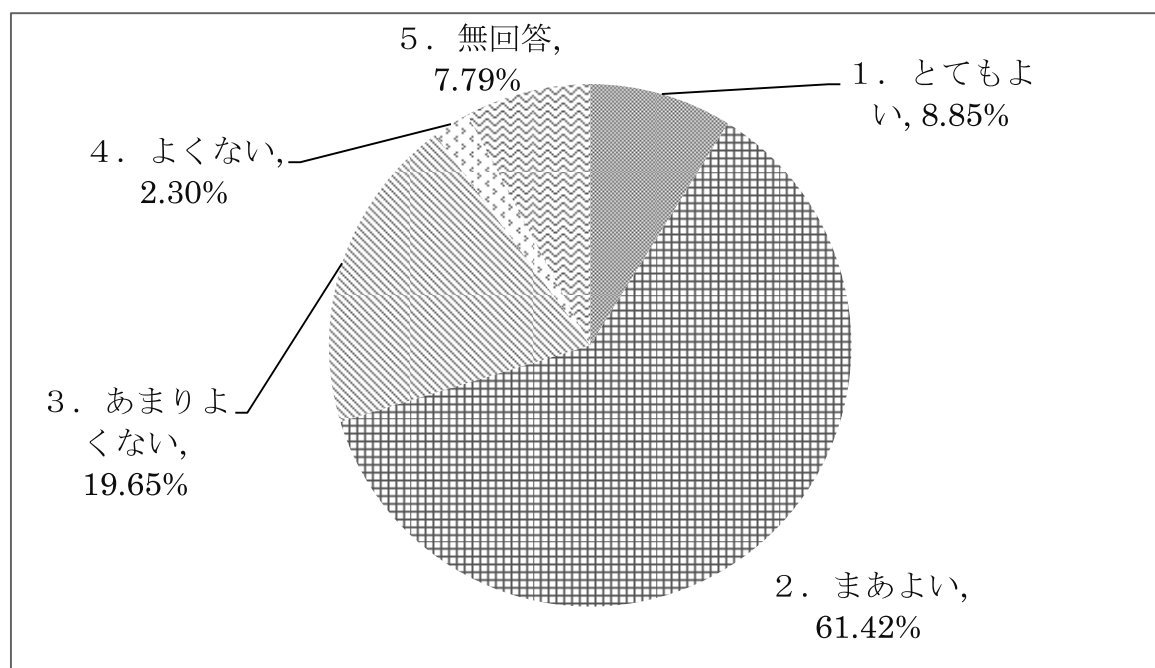
家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手について集計したところ、次のようになり、全体合計では、「5. 地域包括支援センター・役所・役場」と答えた方が 187 人と最も多く、次いで「7. そのような人はいない」で 155 人、その次に「4. 医師・歯科医師・看護師」が 102 人となっています。男女性別ごとでは、男性では「5. 地域包括支援センター・役所・役場」と答えた方が 78 人と最も多く、女性の場合も「5. 地域包括支援センター・役所・役場」が 109 人で最も多くなっています。



問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

自分自身の健康状態について、「とてもよい」が8.85%、「まあよい」が61.42%となっており、合計した『よい』が70.27%となっています。一方、「あまりよくない」は19.65%、「よくない」は2.30%となっており、合計した『よくない』は21.95%となっています。



自分自身の健康状態について、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. とてもよい	2. まあよい	3. あまりよくない	4. よくない	5. 無回答
性別	男性	248	10.08%	61.29%	18.95%	2.02%	7.66%
	女性	317	7.89%	61.51%	20.19%	2.52%	7.89%
年齢別	65～69歳	155	12.26%	63.23%	16.77%	3.23%	4.52%
	70～74歳	139	10.79%	66.19%	17.27%	0.00%	5.76%
	75～79歳	102	10.78%	55.88%	22.55%	0.00%	10.78%
	80～84歳	93	4.30%	59.14%	22.58%	3.23%	10.75%
	85～89歳	54	0.00%	64.81%	20.37%	3.70%	11.11%
	90～94歳	19	5.26%	42.11%	26.32%	15.79%	10.53%
	95歳～	3	0.00%	66.67%	33.33%	0.00%	0.00%
認定別	一般高齢者	517	9.67%	63.64%	17.41%	1.55%	7.74%
	要支援1	26	0.00%	50.00%	38.46%	0.00%	11.54%
	要支援2	22	0.00%	22.73%	50.00%	22.73%	4.55%

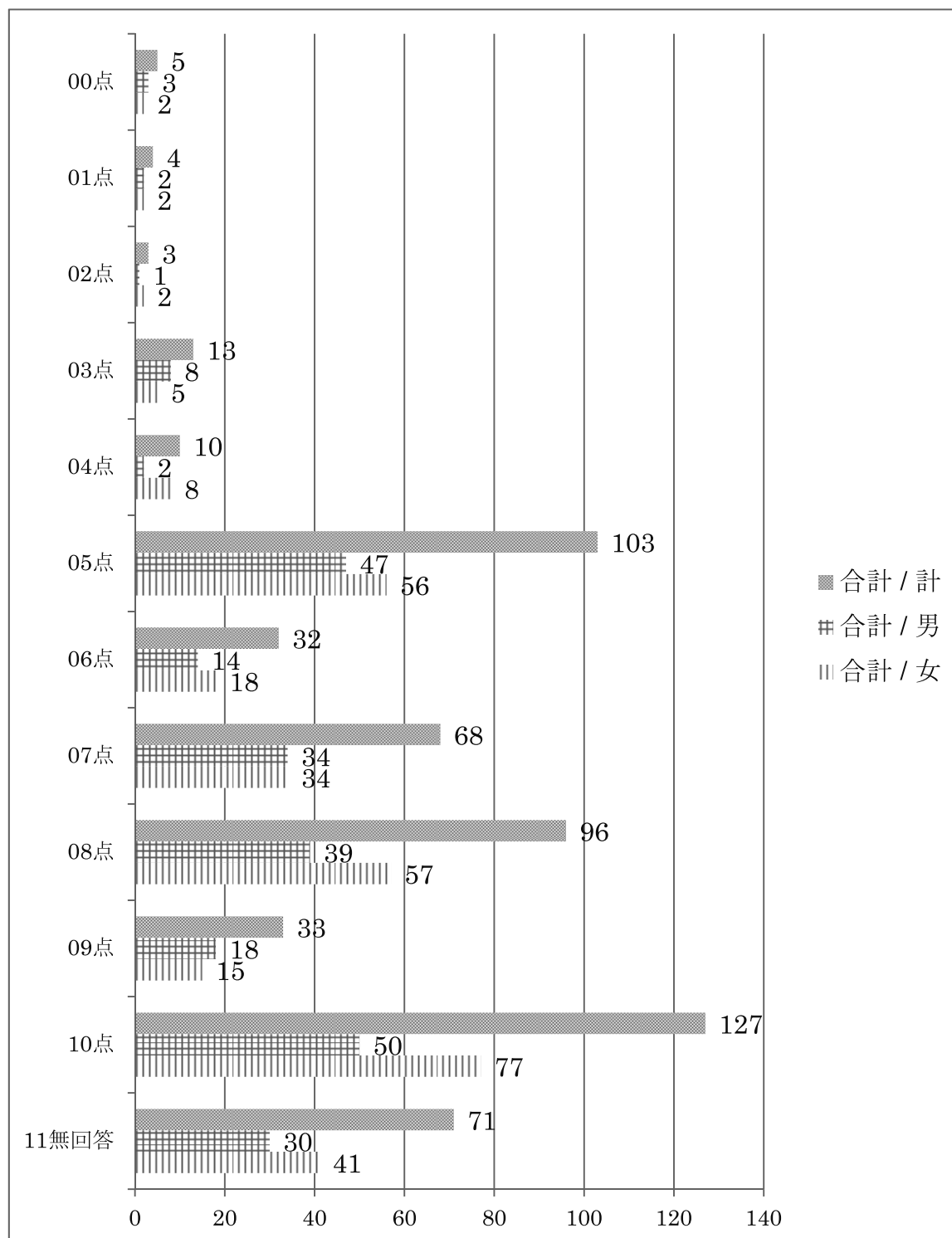
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

現在どの程度幸せに感じているか10点満点でたずねたところ、全体合計では、「10点」と答えた方が最も多く127人、次いで「5点」が103人、その次が「8点」で96人となっています。

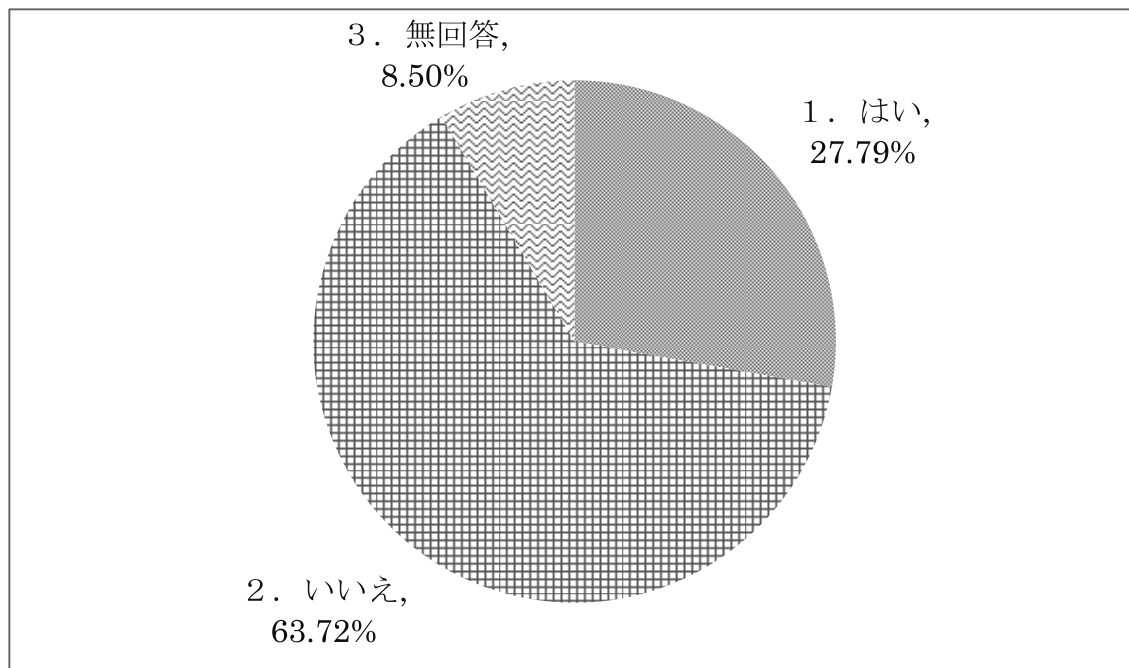
性別ごとの集計でも男女ともに「10点」と答えた方が最も多く、それぞれ50人、77人となっています。

また、全体と性別ごとに平均を集計したところ、男性が7.2点、女性が7.4点で、全体では7.3点となりました。



(3) この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかどうかについて集計したところ、「はい」が 27.79%、「いいえ」が 63.72%となっています。



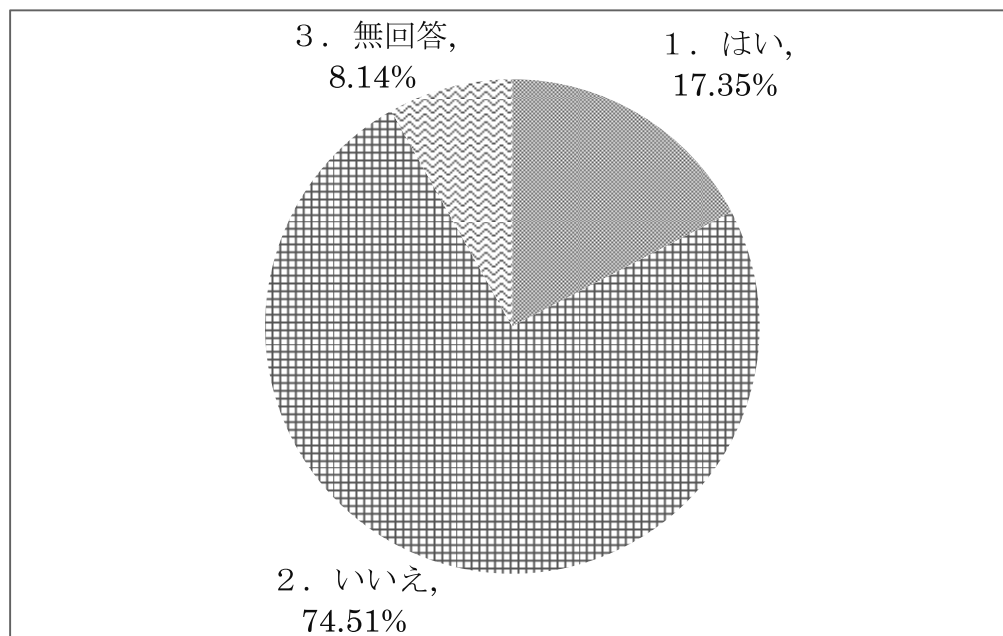
この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. はい	2. いいえ	3. 無回答
性別	男性	248	22.18%	69.76%	8.06%
	女性	317	32.18%	58.99%	8.83%
年齢別	65～69歳	155	26.45%	69.03%	4.52%
	70～74歳	139	30.94%	62.59%	6.47%
	75～79歳	102	26.47%	60.78%	12.75%
	80～84歳	93	25.81%	63.44%	10.75%
	85～89歳	54	31.48%	61.11%	7.41%
	90～94歳	19	26.32%	57.89%	15.79%
	95歳～	3	0.00%	33.33%	66.67%
認定別	一般高齢者	517	26.50%	65.38%	8.12%
	要支援1	26	38.46%	46.15%	15.38%
	要支援2	22	45.45%	45.45%	9.09%

(4) この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかどうかについて集計したところ、「はい」が 17.35%、「いいえ」が 74.51%となっています。



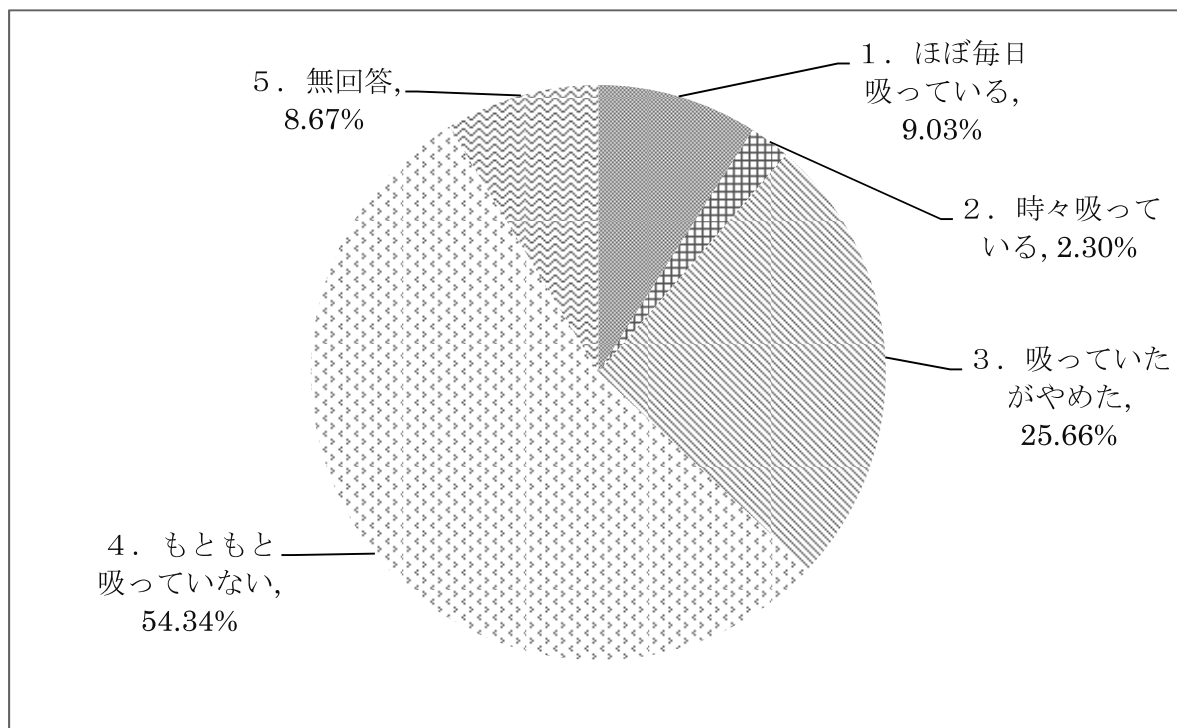
この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあったかどうかについて、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

		回答者数	1. はい	2. いいえ	3. 無回答
性別	男性	248	15.73%	75.81%	8.47%
	女性	317	18.61%	73.50%	7.89%
年齢別	65～69歳	155	16.77%	78.71%	4.52%
	70～74歳	139	17.99%	76.26%	5.76%
	75～79歳	102	14.71%	71.57%	13.73%
	80～84歳	93	16.13%	74.19%	9.68%
	85～89歳	54	24.07%	68.52%	7.41%
	90～94歳	19	21.05%	63.16%	15.79%
	95歳～	3	0.00%	66.67%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	16.63%	75.24%	8.12%
	要支援1	26	30.77%	57.69%	11.54%
	要支援2	22	18.18%	77.27%	4.55%

(6) タバコは吸っていますか

喫煙とその頻度について集計したところ、「4. もともと吸っていない」が54.34%で最も多く、次いで「3. 吸っていたがやめた」で25.66%、その次に「1. ほぼ毎日吸っている」9.03%となっています。



喫煙とその頻度について、性別、年齢別、介護認定別に集計したところ、次のようになりました。

(最も回答が多かった選択肢に色づけをしています。)

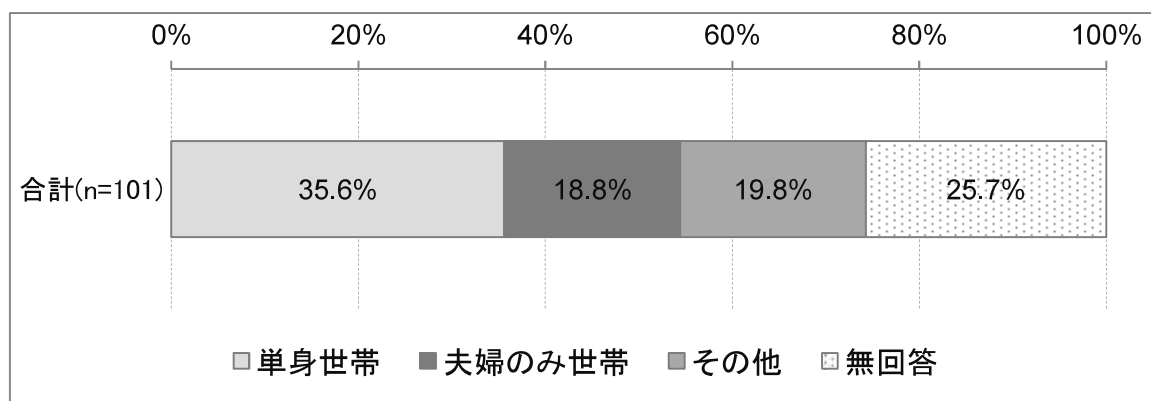
		回答者数	1. ほぼ毎日吸っている	2. 時々吸っている	3. 吸っていたがやめた	4. もともと吸っていない	5. 無回答
性別	男性	248	13.71%	2.42%	47.98%	26.61%	9.27%
	女性	317	5.36%	2.21%	8.20%	76.03%	8.20%
年齢別	65～69歳	155	16.13%	1.29%	29.03%	47.74%	5.81%
	70～74歳	139	10.07%	3.60%	24.46%	55.40%	6.47%
	75～79歳	102	2.94%	3.92%	31.37%	48.04%	13.73%
	80～84歳	93	8.60%	2.15%	22.58%	55.91%	10.75%
	85～89歳	54	1.85%	0.00%	18.52%	72.22%	7.41%
	90～94歳	19	0.00%	0.00%	10.53%	78.95%	10.53%
	95歳～	3	0.00%	0.00%	33.33%	33.33%	33.33%
認定別	一般高齢者	517	9.48%	2.32%	26.69%	52.61%	8.90%
	要支援1	26	0.00%	3.85%	15.38%	73.08%	7.69%
	要支援2	22	9.09%	0.00%	13.64%	72.73%	4.55%

② 在宅介護実態調査結果（概要）

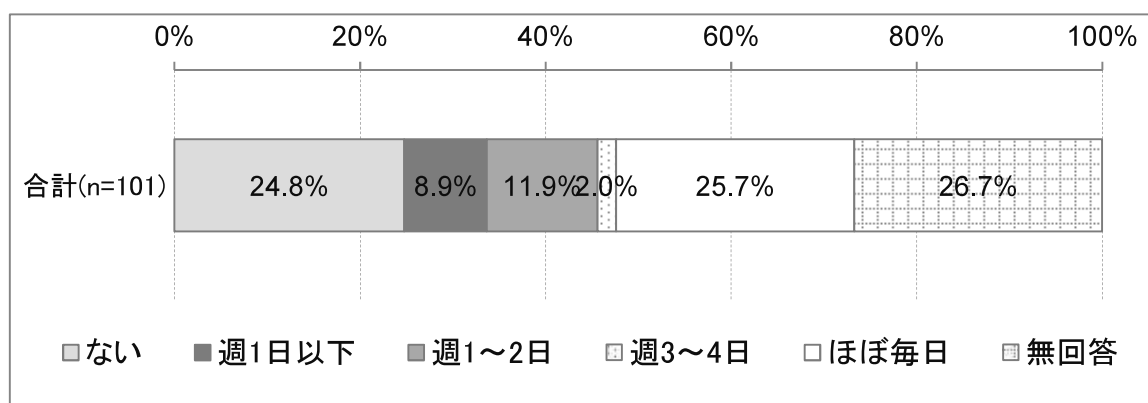
- ・ 調査目的～これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点を盛り込むため、「高齢者の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方を検討する。
- ・ 対 象 者 在宅で生活している要支援・要介護認定を受けている方
- ・ 対象者数 101名（平成29年7月31日現在）
- ・ 調査時期 発送 平成29年8月3日 回収 平成29年9月8日
- ・ 回答者数 76名（回収率 75.25%）

A票 調査対象者本人について

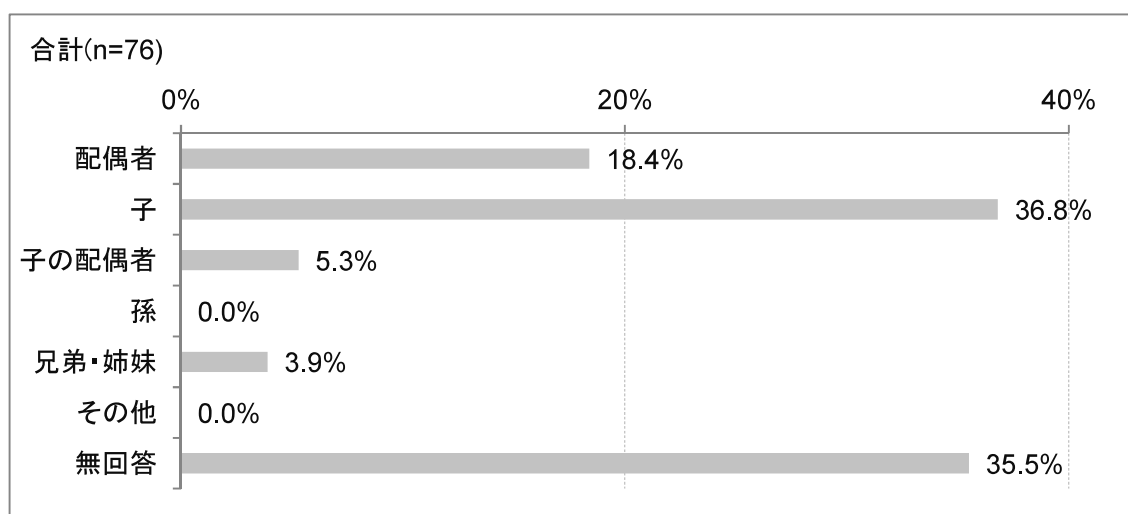
問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）



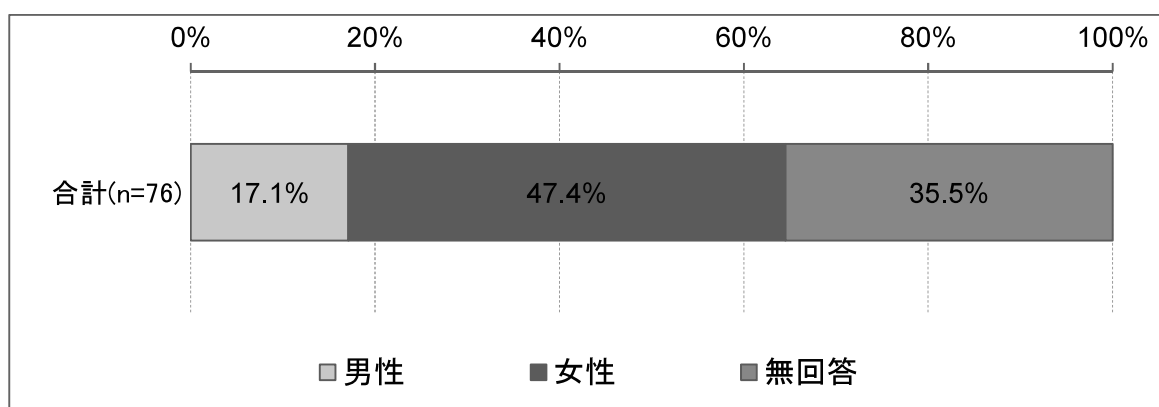
問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）



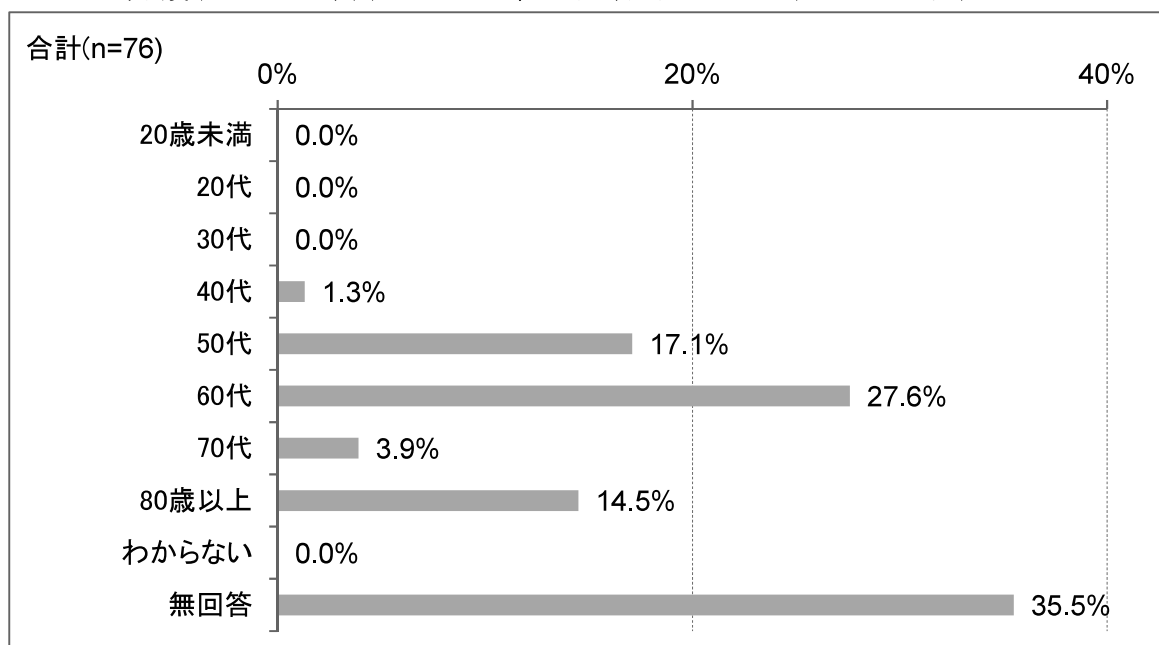
問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）



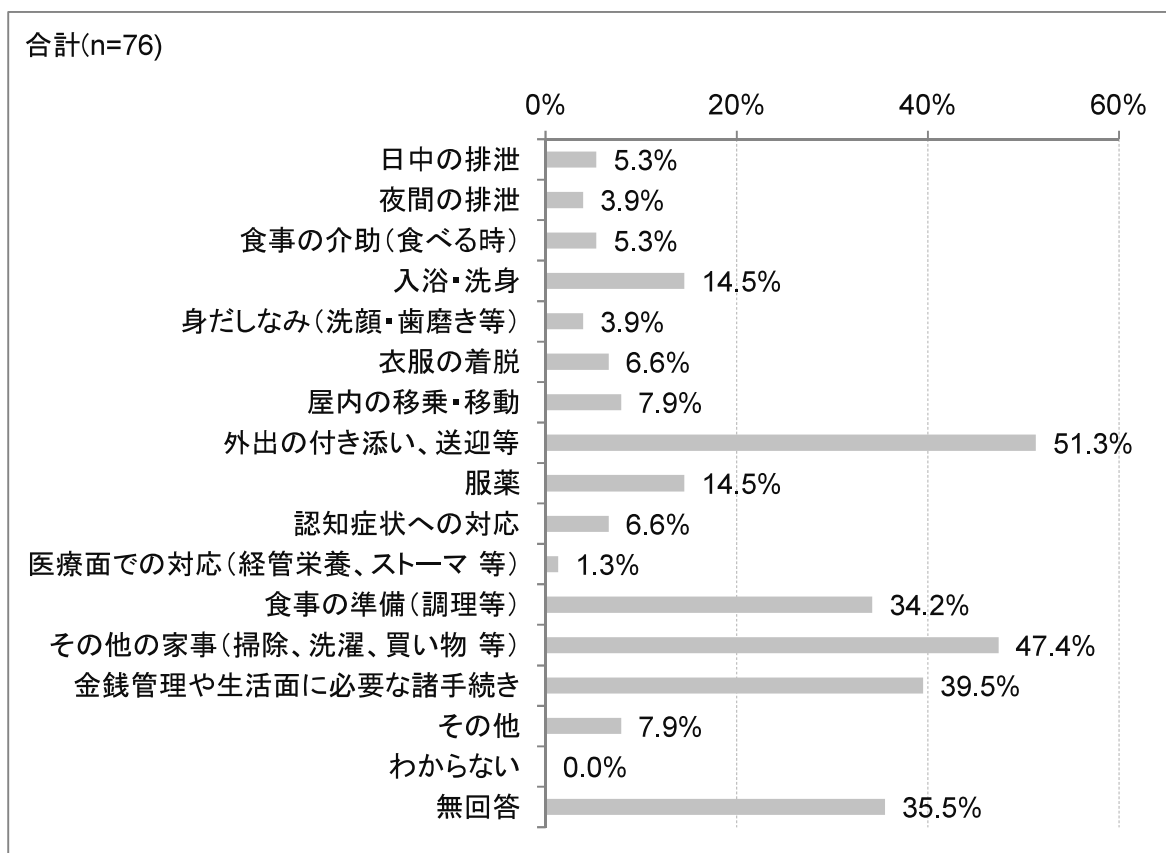
問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）



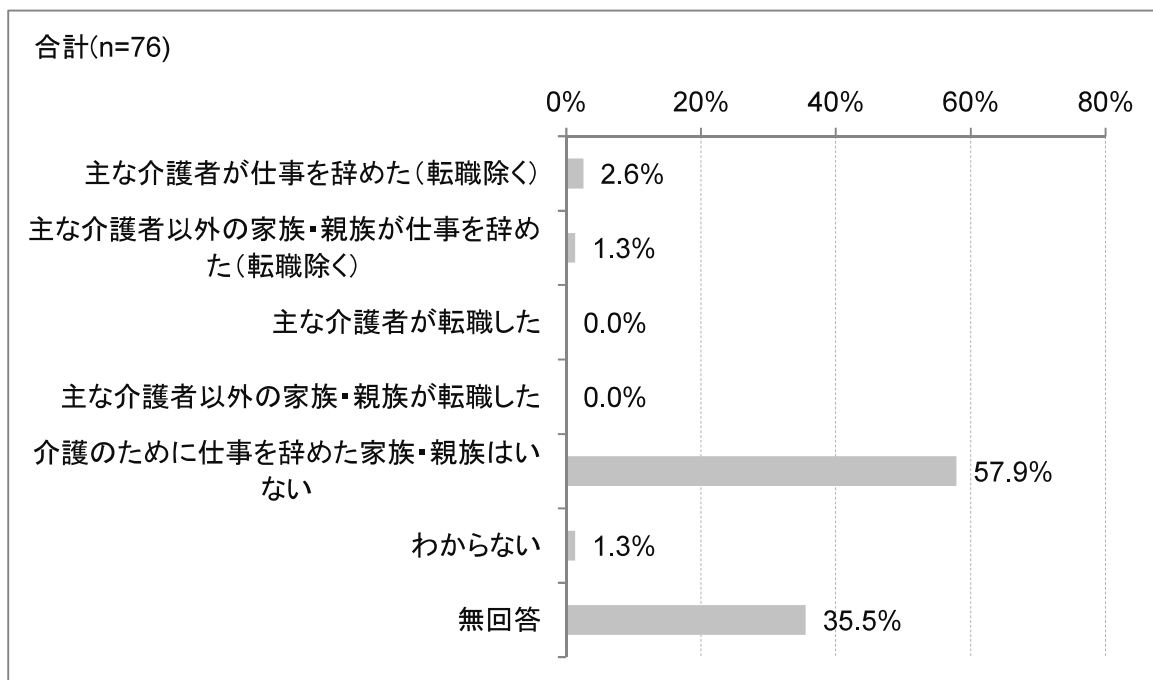
問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）



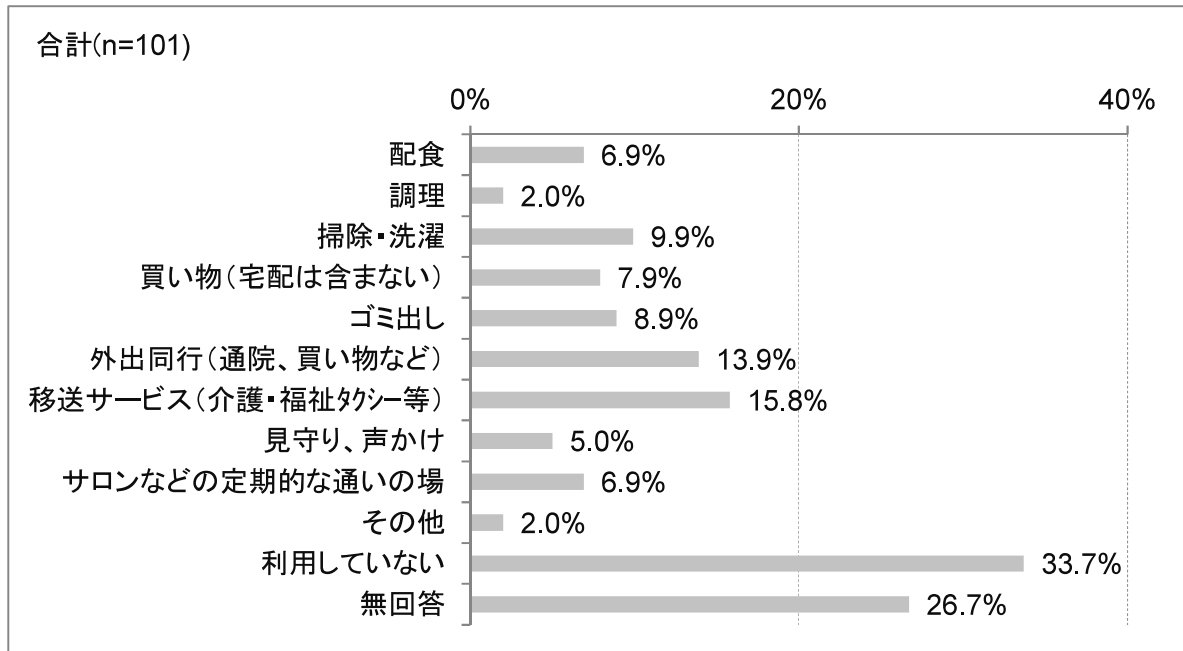
問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）



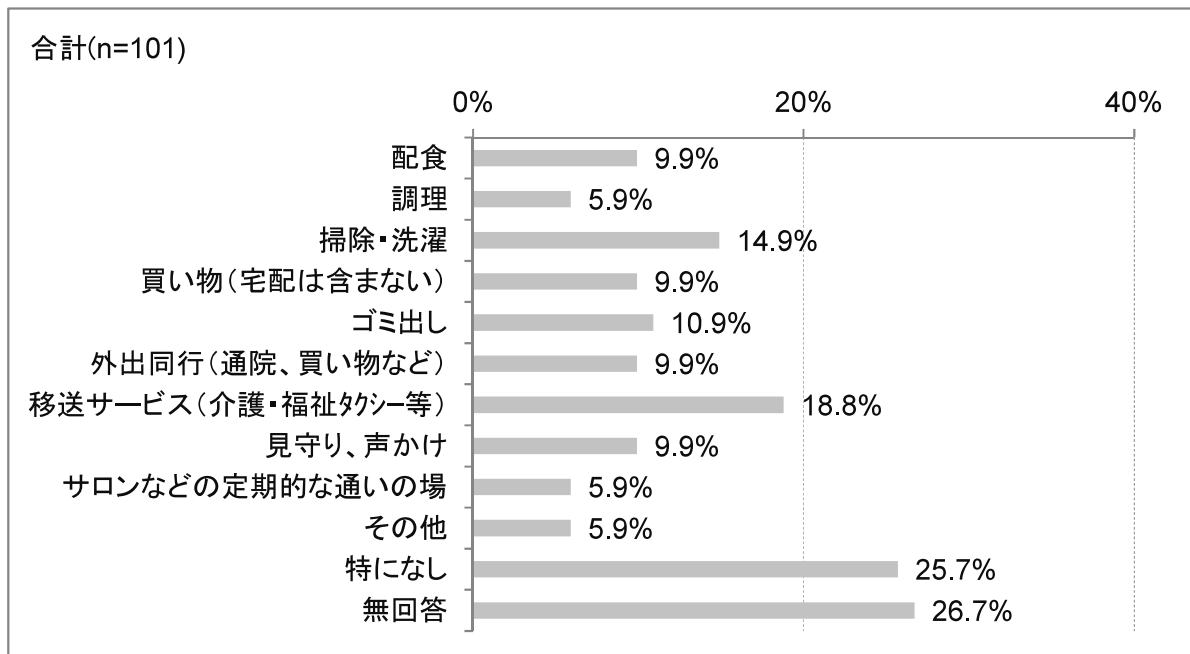
問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）



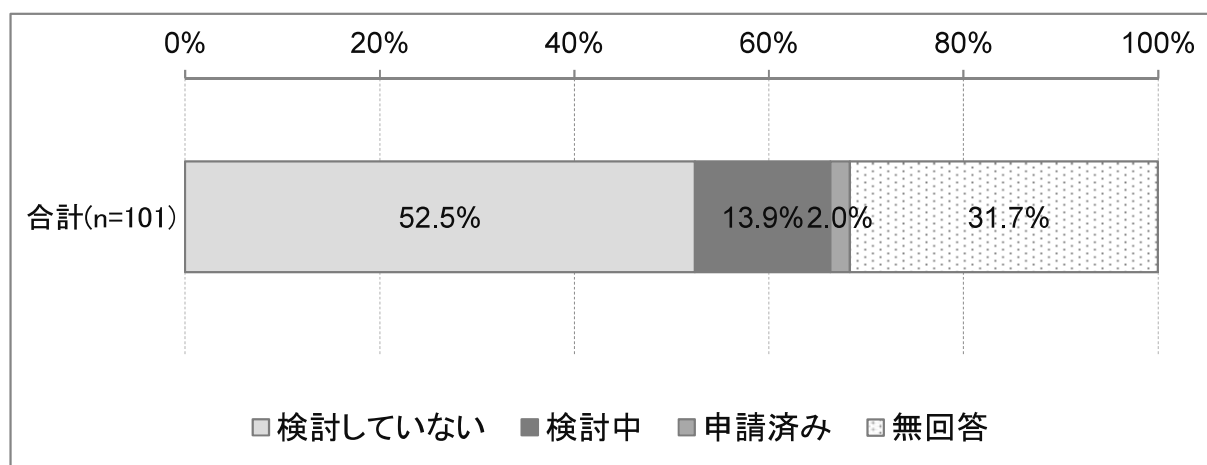
問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、
ご回答ください（複数選択可）



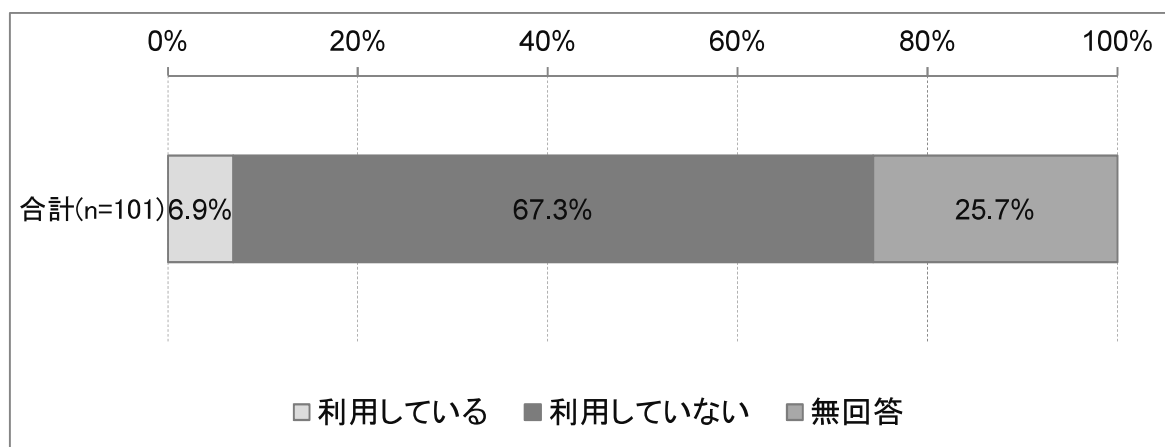
問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、
さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください
（複数選択可）



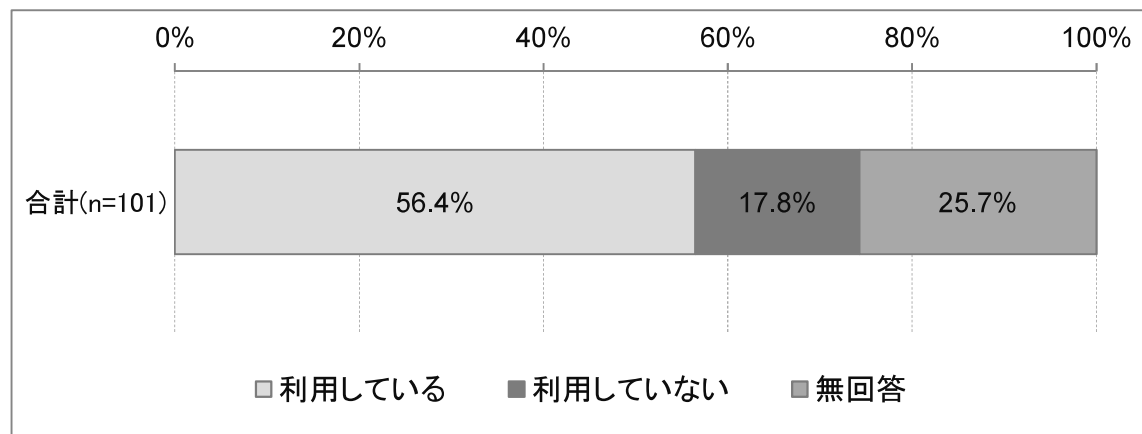
問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）



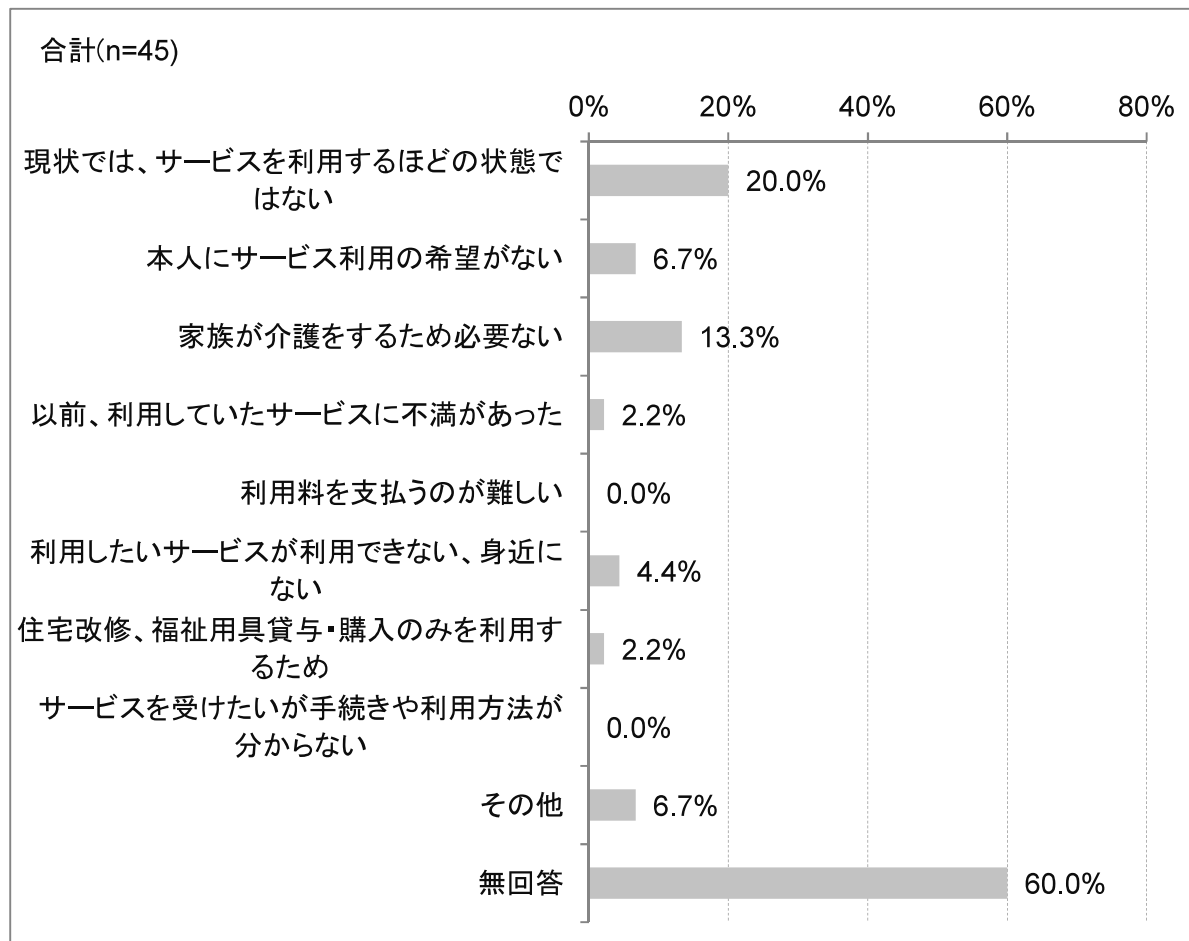
問 12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）



問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）

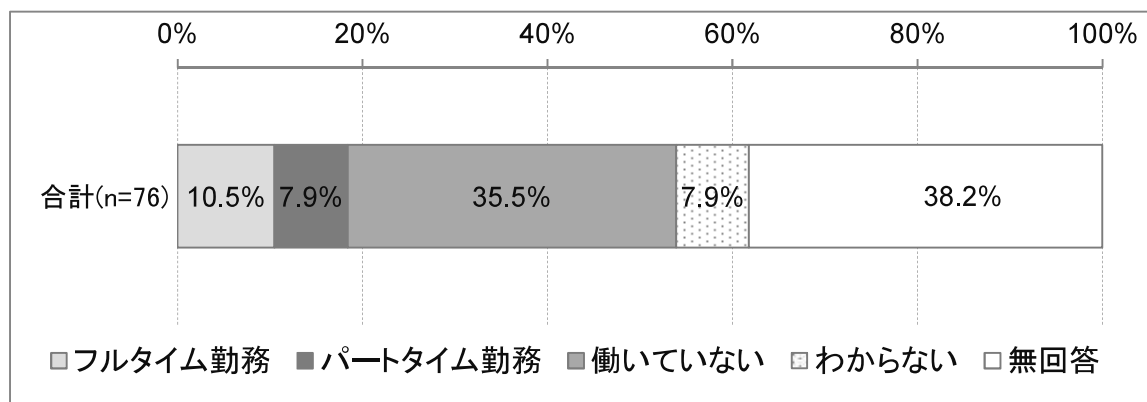


問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

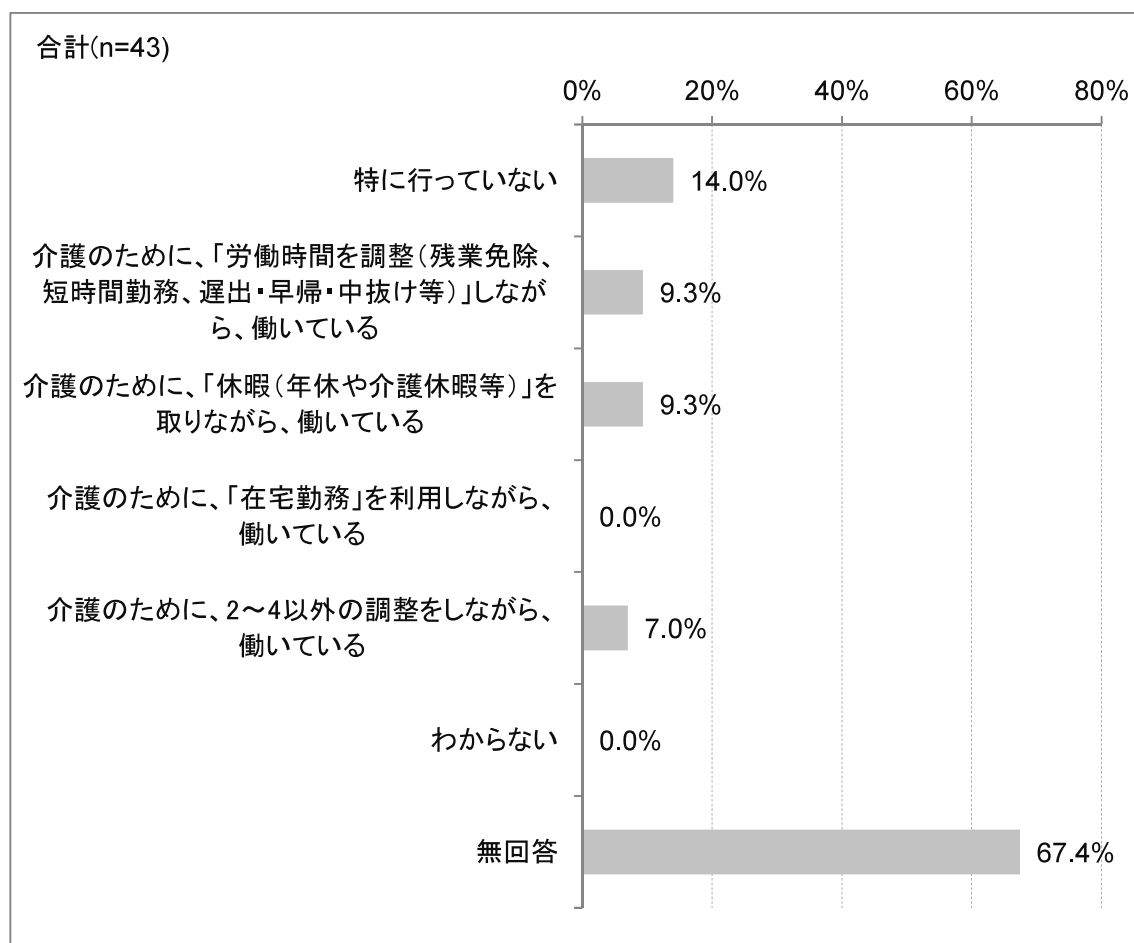


B票 主な介護者について

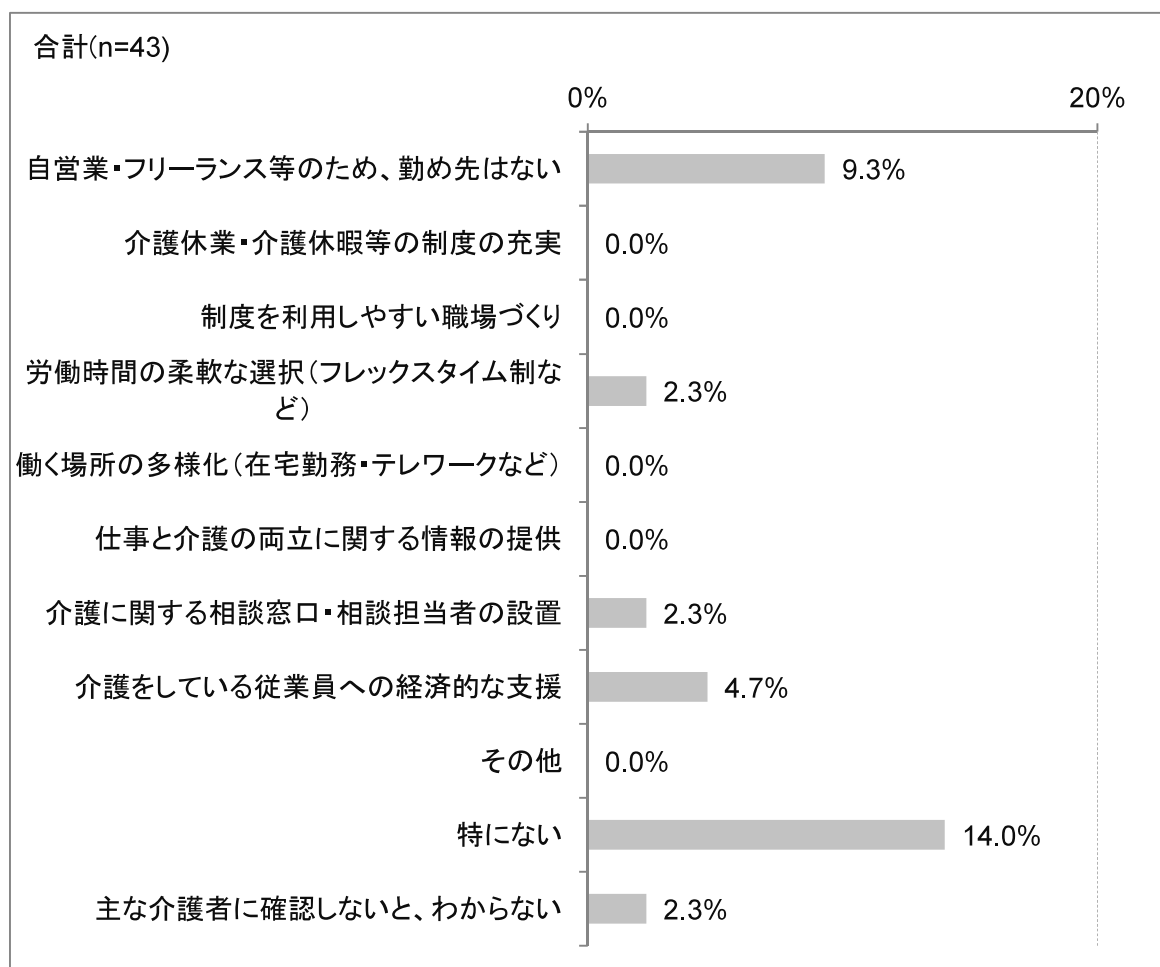
問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）



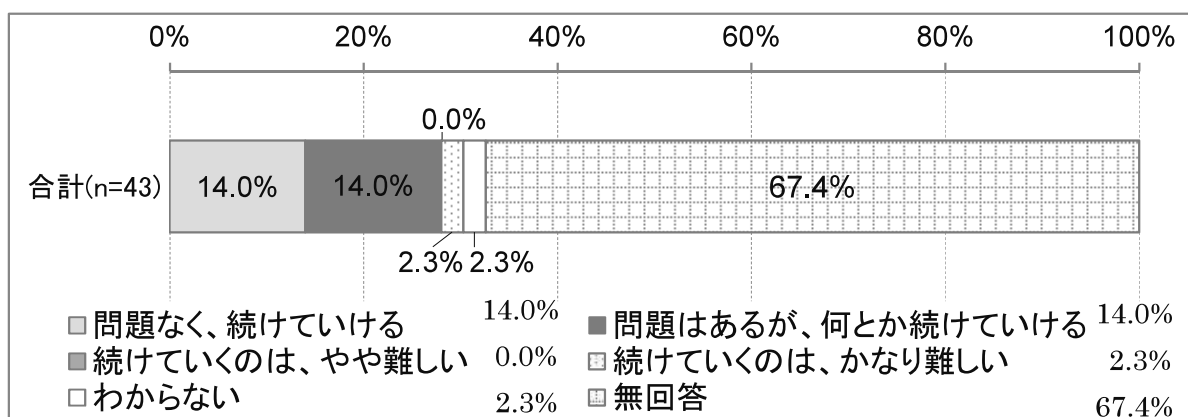
問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（複数選択可）



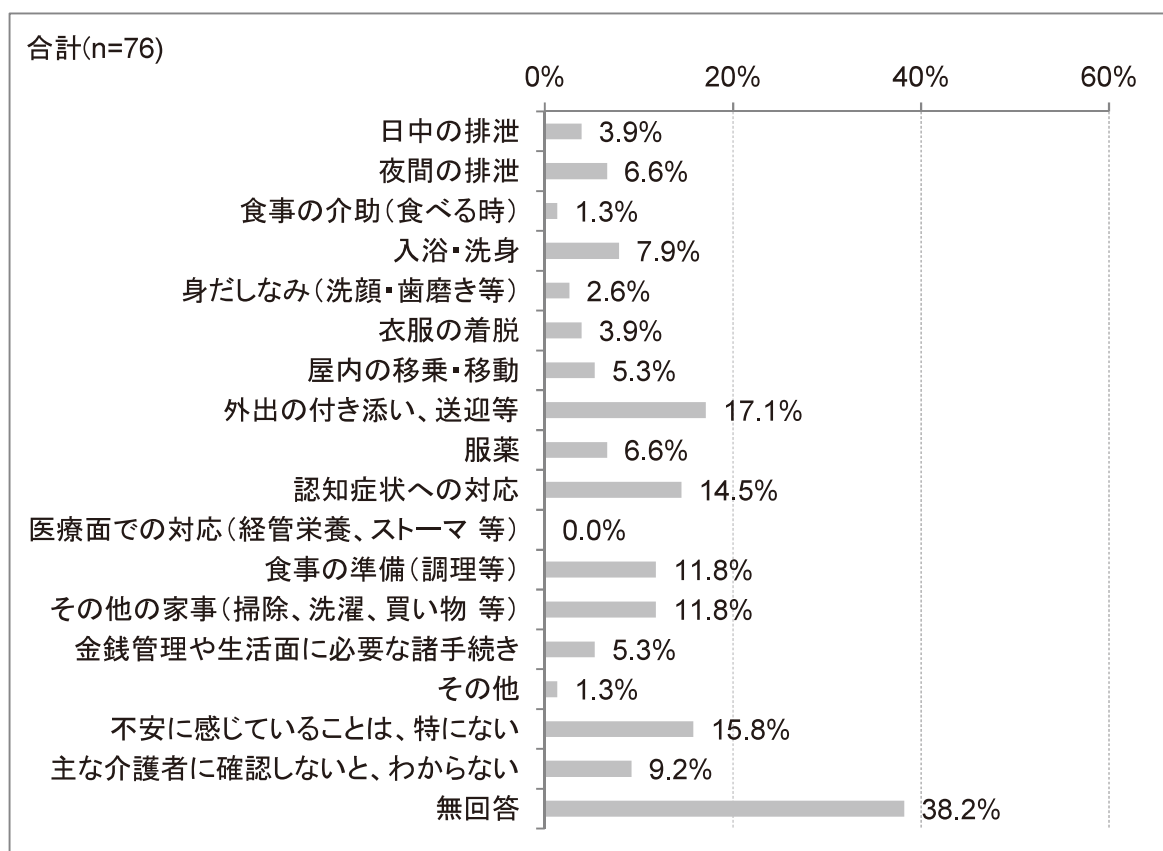
問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)



問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)



問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）



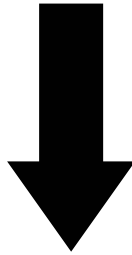
○ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から分かったこと

- ・ 家族構成について、65歳以上の1人暮らしや夫婦2人暮らしが7割近くを占め、将来的に1人暮らしが難しくなるケースや老老介護となるケースが増加していくことが考えられる。
- ・ 一方、現状では、普段の生活で介護・介助が必要なく、身体を動かすこと（歩行、立ち上がり、転倒、外出の回数）については、概ね6～7割の方々が問題を感じていない。
- ・ 食べることについて（食事、身長・体重、口腔機能等）については、概ね5～6割の方々が問題ない状況にある。
- ・ 毎日の生活について（物忘れ等の認知機能、公共交通機関等を使っての外出・買い物・お金の管理等の日常生活動作）については、概ね7割の方々が問題ない状況にある。
- ・ 地域での活動について、自治会活動等なんらかの活動に参加している方が多い。地域住民の有志によって健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行う地域づくりを進めるとしたら、5割以上の方が参加したい又は参加してもよいという意向があり、3割以上の方がお世話役として参加したい又は参加してもよいという意向がある。
- ・ たすけあいについて、ほとんどの人が配偶者や子供、友人等だれかが心配事や愚痴を聞いてくれたり、聞いてあげる関係の方が身近にいて、病気で数日間寝込んだときも看病等をしてくれる方や看病等をしてあげる方がいる。身近な人以外で相談する相手としては、地域包括支援センター・役場を挙げた方が最も多い。
- ・ 健康状態について、概ね6～7割ぐらいの方々は問題を感じていない。

○ 在宅介護実態調査から分かったこと

- ・ 在宅で生活している要介護者で調査への回答があった方々のうち約5割の方々は家族（配偶者や子等）からの介護を受けている。
- ・ 家族等が行っている介護で最も多いものは、外出の付き添い、送迎等で、次いで家事、金銭管理等となっている。また、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスも移送サービス、掃除・洗濯を挙げる方が多かった。

- ・ 5割以上の方が施設等への入所・入居を検討しておらず、介護保険サービス（居宅サービス）を利用している。
- ・ 働きながら介護を続けていくことに問題を感じている家族等が約16%いる。
- ・ 在宅での介護を続けていく上で家族等が不安に感じていることは、外出への付き添い、送迎等が最も多く、次いで認知症状への対応、家事を挙げる方が多かった。



○ 2つの実態調査から分かったことをもとに次の取り組みが必要と考えられます。

- ・ 身体機能、認知機能、日常生活、健康状態に問題がないと感じている高齢者が多く、1人暮らしの高齢者が増加傾向にあるため、健康づくり、介護予防の推進により健康寿命の延伸を図り、住み慣れた地域で、その人らしい生活が継続できるように支援する。
- ・ 地域でさまざまな集いや活動が行われており、既に参加している人はその継続を、まだ参加していない人は地域での集いや活動の場への参加を結びつけていくことで、生きがいつくり、健康づくり、介護予防、地域での見守り・助け合いを通して社会参加の充実を図る。
- ・ 住み慣れた地域で暮らしていくことを望んでいる方が多いと考えられることから、行政や町内及び近隣の医療機関・介護事業所、各種団体が提供するサービス等と地域や身近な人との支え合い等を織り交ぜながら、住み慣れた地域での生活を継続できるよう支援する。
- ・ 本人の身体状況の変化や介護する家族等の就労状況によって、家庭での生活が困難と感じる場合には、相談機関（役場、地域包括支援センター等）と居宅や施設サービス提供事業所との連携を図り、本人と家族等を支援する。

第3節 計画の方向

1 基本理念

今回の計画では、地域包括ケアシステムを構築することとした前回の計画での基本理念と施策の体系の根本を引き継ぎながら、後期高齢者の人口がピークとなる見込みの2025年（平成37年）を見据え、目指すべき地域の姿を作るための基本方針と施策の体系を次のとおりとします。

『いつまでも自分らしく明るく元気で暮らせる
まちづくり』
(住み慣れた地域でお互いに支え合い)

今回、前回の計画での実績と今回実施した実態調査等をもとに次の3つの目標を定めました。

1. 明るく元気で生活できる
2. 安心して生活できる
3. 地域で支え合って生活できる

2 基本方針と施策の体系

次の3つの基本方針に基づき、施策を推進します。

1. 「明るく元気で生活できる」（健康づくりと介護予防の推進）

高齢者ができる限り要介護状態とならず、健康で活動的な生活を送ることができるよう様々な観点からそれぞれの状態に応じた健康づくり、介護予防、集いの場の充実を目指します。

2. 「安心して生活できる」（在宅生活支援の推進と居住環境の整備）

高齢者が安心して暮らせるよう、見守り体制や生活支援、居住環境の整備を継続し、介護が必要となった場合、高齢者と介護をする家族等を支え、重度化防止と介護をする人の負担が増えない環境づくりを目指します。

3. 「地域で支え合って生活できる」（地域包括ケアシステムの推進）

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、介護保険サービスや保健福祉サービスの適切な提供とともに関係機関との連携や地域全体での継続的な整備を目指します。

基本方針	施策の柱	実施施策
1 健康づくりと 介護予防の推進	(1) 健康づくりの推進	① 各種健診・検診 ② 健康教育・健康相談、食生活の改善 ③ 医療体制の充実
	(2) 介護予防の推進	① 地域支援事業(介護予防・日常生活支援総合事業) ② 地域支援事業(包括的支援事業) ③ 地域支援事業(任意事業)
	(3) 社会参加の促進	① 高齢者の生きがいづくりの場の創出 ② 老人クラブ活動への支援 ③ 山美湖大学 ④ 町、関係機関及び各種団体等による集いの場
	(4) 敬老事業	① 長寿祝金 ② 町営温泉使用料補助 ③ ふれあい敬老昼食会
2 在宅生活支援の 推進と居住環境 の整備	(1) 日常生活の支援	① ショートステイ(短期入所生活支援事業) ② デイサービス(自立外出支援事業) ③ ホームヘルパー(自立訪問支援事業) ④ 配食サービス事業 ⑤ 除雪サービス事業 ⑥ 入浴送迎サービス事業
	(2) 移動・外出の支援	① 路線バス無料化事業 ② コミュニティータクシー事業
	(3) 家族介護の支援	① 家族介護用品支給事業
	(4) 居住環境の向上	① 生活支援ハウス運営事業 ② 介護保険住宅改修の活用
	(5) 事業所との連携	① 養護老人ホーム入所措置 ② 介護保険施設との連携 ③ 医療施設との連携 ④ 居宅サービス事業所等との連携
	(6) 見守り・相談体制の整備	① 地域包括支援センター運営業務 ② 地域の見守り体制づくり ③ 訪問サービス事業(ふれあい友愛訪問)
	(7) 事故・災害等への対策	① 消防防火訪問 ② 緊急通報端末機貸与事業 ③ 消費者被害の防止 ④ 災害弱者の支援体制づくり
3 地域包括ケア システムの推進	(1) 認知症施策の推進	① 認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チームの設置 ② 認知症ケアパスの作成 ③ 認知症サポーター等の養成 ④ 認知症高齢者の権利擁護
	(2) 在宅医療・介護連携の推進	① 地域の医療・介護サービスの連携諸事業 ② 地域ケア会議の開催
	(3) 生活支援施策の推進	① 生活支援体制整備協議体の組織と生活支援コーディネーター設置

第2章 計画の取り組み

第1節 高齢者保健福祉サービスの取り組み

1 健康づくりと介護予防の推進

(1) 健康づくりの推進

① 各種健診・検診

夏と冬で多くの町民に定着した生活習慣病健診を今後も継続し、一人でも多くの町民が自らの健康に関心を持ってもらえるよう、町独自のオプションとして、サルコペニア検査、内蔵脂肪測定検査、脈波検査、胃がんリスク検査、肝炎検査などを実施しています。さらに、受診者の利便性を考え、医療機関と協議を行い、早朝健診・検診や同時検診、土日の検診導入等も行っています。また、健診の事後として、糖尿病予防を目的とした生活習慣病健診受診者を対象に糖負荷試験を実施しています。

各種がん検診についても、国の指針に基づく検診以外にも、脳ドック検診や前立腺がん検診など、町独自の検診を実施するなど、充実を図っています。

健診・検診の間診や保健・栄養指導の際には一人一人から通院や生活状況等の聞き取りを行い対応しています。また、骨検診では、問診から1日のカルシウム摂取量を計算し、骨密度の状況と合わせてカルシウム摂取や運動についての指導を行い、骨折による寝たきりや要介護状態への移行防止に努めています。

② 健康教育・健康相談、食生活の改善

生活習慣病健診の結果説明会や特定保健指導の対象となった方に対し、個々にそった保健・栄養指導を実施しています。各自治会や女性団体などからの要請に応じ、保健師や管理栄養士による健康講話を実施しています。また、保健センターへの来所、電話による健康・栄養相談にも随時対応し、気軽に相談してもらえる環境づくりに努めています。

生活習慣病健診の結果説明会では、推定塩分摂取量を参考に、減塩指導を実施し、高血圧予防や腎機能低下予防に努めています。また、糖尿病重症化予防として、糖尿病でコントロール不良の方は医師との面接や保健・栄養指導に力を入れています。今後は医療機関との連携も視野に入れ、更に充実を図っていきます。

今後も健康教育では積極的に地域に出向き、健康相談では個々の健康状態、日常生活等に応じた個別支援を行い、町民の健康管理の支援を継続していきます。

③ 医療体制の充実

高齢者が身近なところで医療を受けられる体制を維持することは重要であり、民間の協力を得て歯科診療所を開設しています。

また、救急医療体制の充実を図るため、近隣市町の行政や医療機関と連携し、一次・二次救急医療体制（※）を整備に努めます。

○一次救急：西胆振４市町が連携

入院の必要がない帰宅可能な患者を対象

伊達赤十字病院に胆振西部救急センターを併設して運営

○二次救急：西胆振６市町が連携

入院治療を必要とする患者を対象

輪番制による救急告示病院を設置、運営

（２） 介護予防の推進

※ 地域支援事業

地域支援事業には介護が必要となることを予防するために実施する事業であり事業の中には「介護予防・日常生活支援総合事業」、「包括的支援事業」、「任意事業」があります。

① 介護予防・日常生活支援総合事業

全国一律に提供されていた介護予防訪問介護・通所介護と、要支援者のニーズに対応した生活支援サービスが「介護予防・日常生活支援総合事業」として再構築され、国の事業から市町村事業（地域支援事業）に移行しました。

町では、平成２８年３月より要支援の認定を受けている被保険者等に対して、従前の介護予防訪問介護・通所介護と同様なサービスを受けられる訪問型サービス・通所型サービスと介護予防ケアマネジメントとして介護予防プラン等の提供を行っています。

また、一般介護予防事業として足腰に不安のある６５歳以上の高齢者を対象として、生活の中で体操や運動を取り入れ、継続して実施してもらうことを目的に運動インストラクターによる自宅でできる健康体操、運動の実技指導等を行う「転ばん塾」を開催しています。

今後継続して事業内容の精査と必要に応じて見直しを行うとともに介護予防活動や介護予防に関する普及啓発活動の取組に努め、自立支援・重度化防止を推進します。

② 包括的支援事業

町に「壮瞥町地域包括支援センター」を設置し、「介護予防ケアマネジメント」・「総合相談支援事業」・「権利擁護事業」・「包括的・継続的ケアマネジメント」の4業務を継続して実施します。

③ 任意事業

介護保険の安定的な運営と介護（介護予防）給付の公平性や中立性を確保しサービスの質の向上を図るため、介護（介護予防）給付の適正化の取組を継続して実施します。（取組の詳細については、「4 安定した介護保険制度の運営」（P. 61～62）に掲載しています。）

（3）社会参加の促進

① 高齢者の生きがいがづくりの場の創出

高齢者の方々が、長年培ってきた知識や技術を活かした生きがいがづくりと社会貢献ができる場の創出に努めます。

② 老人クラブ活動への支援

概ね65歳以上の高齢者により自主的に組織され、地域を基礎とした4つの単位クラブが存在し、それらを壮瞥町老人クラブ連合会が統括しています。単位クラブ役員は連合会の役員として、交流、生きがい、地域貢献といった様々な事業について意見を交わし、連合会全体としての事業も推進しています。今後も継続して支援していきます。

③ 山美湖大学

60歳以上の方を対象に、日々充実した豊かな生活を目指し、健康維持と趣味、教養の向上を図ることを目的に開講され、月1回実施しています。

講義内容は4月の開講式に参加者同士で協議して決めており、軽スポーツ、運動、趣味講座、体験学習、芸術鑑賞、見学旅行などを行っています。

④ 町、関係機関及び各種団体等による集いの場

①～③の取組以外に、町、教育委員会、社会福祉協議会や各種団体が実施している集いの場を活かし、現在、元気に活動している高齢者の方々は参加の継続を、閉じこもりがちな高齢者等には外出機会の創出に努めます。

併せて教育委員会、社会福祉協議会や各種団体とも連携し、実施している集いの場の情報提供を行います。本節で掲載した事業、集いの場も含め、現在、町内で行われている集いの場を64～66ページにとりまとめしました。

(4) 敬老事業

① 長寿祝金

満 88 歳・満 100 歳になる高齢者に対し、長寿祝金をお渡しし、ご長寿を祝福するとともに、多年にわたる社会貢献への敬意を表することを目的としています。

② 町営温泉使用料補助

65 歳以上の高齢者を対象に（その他にも障害者やひとり親家庭世帯、生活保護法に規定する被扶助者も対象）、町内 4 箇所の町営温泉を利用できるように一定額を町が補助する事業です。

③ ふれあい敬老昼食会

ご長寿を祝福するとともに、多年にわたる社会へのご功労に対し、敬意を表することを目的として、社会福祉協議会の主催により毎年度 10 月に実施しています。

2 在宅生活支援の推進と居住環境の整備

(1) 日常生活の支援

① ショートステイ（壮瞥町短期入所生活支援事業）

概ね 65 歳以上で要介護認定等結果が非該当となった高齢者、要介護認定等未申請者又は要介護認定等で要支援 1 から要介護 2 と判定され、介護保険法で規定されている短期入所生活介護及び短期入所療養介護を利用してもなお短期入所生活支援が必要な高齢者に町内の特別養護老人ホームの空きベッドを利用して数日間の入所サービスを提供することで、本人の体力回復と共に介護家族の休養を図ります。

利用者の多くは在宅での自立や介護を受けての生活が可能な状態ですが、要支援又は要介護状態の境界に近いケースが多く、短期入所中の相談対応による不安解消や介護家族の負担軽減などにより在宅生活を支援します。

② デイサービス（壮瞥町自立外出支援事業）

概ね 65 歳以上の閉じこもりがちな高齢者が要介護状態にならないように、デイサービスセンターにおいて日常生活動作訓練から入浴、食事、趣味活動などの各種サービスを提供することにより要介護及び要支援状態にならないよう予防に努めます。

③ ホームヘルプサービス（壮瞥町自立訪問支援事業）

概ね65歳以上の高齢者等で自立生活に支援が必要な状態にありながら、介護保険サービスを利用していない高齢者を対象に、ホームヘルプサービスを提供します。今後も自立した生活を維持するために、家事等の日常生活の援助を行なうとともに在宅生活の継続を支援していきます。

④ 配食サービス事業

身体的または環境的な理由から、バランスの取れた食事を摂ることが出来ない高齢者等に対して、週に1～2回、配食ボランティアの協力を得ながら、バランスの良い食事を提供するとともに安否確認を行います。

ボランティアセンターを運営する社会福祉協議会へ事業を委託しております。

⑤ 除雪サービス事業

高齢者世帯を対象に、現在住んでいる自宅母屋の屋根の雪下ろしを行い、冬期間の生活の安全確保を図ります。社会福祉協議会へ事業を委託しております。

⑥ 入浴送迎サービス事業

身体能力の低下や入浴環境により、自宅での入浴が困難なおおむね65歳以上の高齢者を対象に、町内の特別養護老人ホームに移送し、専門スタッフの介助により入浴できるサービスです。これにより介護家族の在宅生活の継続の効果が期待できます。社会福祉協議会へ事業を委託しております。

（2） 移動・外出の支援

① 路線バス無料化事業

70歳以上の高齢者が路線バスを利用する際に、町内区間のバス運賃を無料にすることで、高齢者の外出を支援する事業です。町が発行する敬老福祉証（道南バス乗車証）を降車時に提示することでサービスが利用できます。

② コミュニティータクシー事業

全町民を対象に伊達市、洞爺湖町への通院（目的限定）、町内移動（目的は自由）について、コミュニティータクシーを運行しています。

（3） 家族介護支援

① 家族介護用品支給事業

要介護2～5に認定された方を在宅で介護する世帯に、おむつ等の介護用品代として月額8,000円以内で補助し、介護家族の経済的負担を軽減します。

(4) 居住環境の向上

① 生活支援ハウス運営事業

一定期間町内に在住している単身高齢者又は高齢者夫婦で在宅生活に不安を感じている方を対象に、朝夕の安否確認と食事の提供、入浴施設の充実などにより安心感と在宅に近い環境を提供し、快適な住環境を提供します。入居については心身の状況や家庭環境、住宅の状況などを総合的に捉え、適切な利用となるようにしています。

② 介護保険住宅改修の活用

在宅での生活が継続できるように身体機能の低下により必要とされる手すりの取り付けや段差解消等のバリアフリー化に対し、介護保険制度による住宅改修の活用によって、要介護者・要支援者と家族等の介護者の負担を軽減し、居住環境の向上に努めます。

(5) 事業所との連携

① 養護老人ホーム入所措置

65歳以上の方で援護者不在などの環境的な理由や経済的困窮から施設入所を必要とする方に対し、養護老人ホームへの入所を支援します。

② 介護保険施設との連携

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

要介護者に対し、施設サービス計画に基づき、身体上又は精神上著しい障害があるために常時の介護を必要とし、かつ居宅生活が困難の方を入所させ介護することを目的とする施設です。

町内事業所において、施設の老朽化対策の検討を求めるなど、入居者生活の質の向上につながるよう施設との連携を図ります。

2. 介護老人保健施設

要介護者に対し、施設サービス計画に基づき、看護や医学的管理のもとにおける介護及び機能訓練など必要な医療並びに日常生活の支援を目的とする施設です。

町内事業所において、在宅復帰の推進につなげるよう施設との連携を図ります。

3. 介護療養型医療施設

療養病床等を有する病院又は診療所であって当該療養病床等に入院する要介護者に対し施設サービス計画に基づいて療養上の管理、看護、医学的管理

のもとにおける介護及び機能訓練、その他必要な医療を行うことを目的とする施設です。

町内事業所において、医療ニーズの高い利用者の受け皿につながるよう施設との連携を図ります。

4. 介護医療院

平成30年度から慢性期の介護・医療ニーズを併せ持つ高齢者を対象に、日常的な医療管理や看取り・ターミナルケア等の医療機能と生活施設としての機能を兼ね備えた介護医療院という新たなサービス類型が創設されることとなりました。

また、介護療養型医療施設は、法令により平成35年度までに廃止することとなっているため、町内事業所とも連携を図りながら、今後についての検討をしていきます。

③ 医療施設との連携

町内には医療施設2か所と歯科診療所があります。今後も治療を受ける患者のため、医療施設と必要な連携を図ります。

④ 居宅サービス事業所等との連携

町内には、居宅介護支援事業所の他、通所介護、通所リハビリ、訪問介護、訪問診療、訪問看護、短期入所系サービス事業所があります。

町内在住の要介護・要支援認定者が住み慣れた地域で在宅生活を継続していくことができるよう、居宅介護支援事業所をはじめ町内事業所のサービスの質の向上に努めます。

利用者のニーズに応じたサービスを確保するため、不足している居宅サービスについては、町外事業所が提供しているサービスも組み入れながら在宅サービスの充実を図ります。

(6) 見守り・相談体制の整備

① 地域包括支援センター運營業務

平成27年度からの介護保険制度改正に伴い「地域包括ケアシステム」の基盤づくりとネットワークの拡充が求められており、従来の地域包括支援センター業務に加え、在宅医療・介護連携の推進、認知症施策の推進、地域ケア会議の推進など新しい業務が増えており、職員体制や研修の充実を図ります。

② 地域の見守り体制づくり

人口の減少や少子高齢化が進み、家族や隣近所とのかかわりも希薄化傾向にあり、また、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯が増加しています。これま

でも、ご近所や自治会、民生委員などが中心となって高齢者等の見守りを行ってきましたが、このような支援体制を強化していくために、自治会と社会福祉協議会、役場、民生委員などが情報を共有し、一体的に支援していく体制づくりを進めています。

③ 訪問サービス事業（ふれあい友愛訪問）

80歳以上の一人暮らしの高齢者の安否確認と生活状況の把握のため、月に2回、ボランティアの協力を得ながら、自宅を訪問し、ヤクルトを無料配布する事業です。

ボランティアセンターを運営する社会福祉協議会へ事業を委託しており、利用者の生活状況を継続的に見守り、必要に応じて社会福祉協議会や民生委員につなげていく体制を整備します。

（7）事故・災害等への対策

① 消防防火訪問

70歳以上で一人暮らしの世帯を対象に、消防職員と消防団女性団員、役場職員による防火診断を実施しています。毎年、各家庭で暖房機器の使用を始める10月頃に実施しています。ストーブや台所等の火気使用場所の点検をおこない、出火の危険性がないかを診断しています。

② 緊急通報端末機貸与事業

高齢者世帯で日常生活に不安を抱える方を対象に24時間体制で町から委託を受けた業者が緊急通報の端末機で管理しています。緊急通報の端末機は有償貸与しており、緊急時にはあらかじめ設定した協力者や消防署に対応を求めるサービスです。特に一人暮らしの高齢者は、夜間に不安を感じるが多いため、本事業により「いつでもつながる」安心感を提供しています。

③ 消費者被害の防止

高齢者を狙った悪質な悪徳商法が増加していくなかで、被害防止のために啓発用パンフレットの配布、最新の消費者被害の状況を周知するとともに郵便局等の金融機関との連携を図ります。

④ 災害弱者の支援体制づくり

緊急時や災害発生時の地域住民同士によるお互いの助け合いが重要であるため、一人暮らしの高齢者や要介護（要支援）者などの災害弱者の事前把握に努め、自治会や民生委員、社会福祉協議会など関係者が連携した、災害に備えた支援体制づくりに取組めます。

3 地域包括ケアシステムの推進

(1) 認知症施策の推進

① 認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チームの設置

医療機関・介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ役割を担う「認知症地域支援推進員」を設置し、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるよう支援します。

また、「認知症初期集中支援チーム」を設置し、複数の専門職による個別の訪問支援により認知症初期の支援を包括的、集中的におこない自立生活をサポートします。

② 認知症ケアパスの作成

認知症の状態に応じて受けられるサービスや相談機関など、適切なケアの流れを明らかにした認知症ケアパス（冊子）の作成を進めます。

③ 認知症サポーター等の養成

認知症について正しい知識を持ち、認知症の人や家族を応援し誰もが暮らしやすい地域づくりを担うサポーターの養成を進めます。

また、認知症サポーターの養成にあたるキャラバンメイトの育成と既に認知症サポーター養成講座を受講済み（オレンジリングを保有している）方々のフォローアップ講座等の実施に努めます。

④ 認知症高齢者の権利擁護

認知症や知的高齢者等の精神上の障害により物事を判断する能力のない人が、何らかの不利益を被らないよう家庭裁判所に申立をして法定代理人として支援する「成年後見制度」が利用できるよう町長申立等の支援を行っています。

平成28年度からは室蘭市社会福祉協議会に設置された室蘭成年後見支援センターが壮瞥町を含む胆振西部2市3町の委託を受け、相談・支援体制の充実が図られています。

(2) 在宅医療・介護連携の推進

① 地域の医療・介護サービスの連携諸事業

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた地域で自分らしく人生の最後まで住み続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供するために居宅に関する医療機関と介護サービス事業者などの関係者の連携を推進することを目的とした「在宅医療・介護連携推進事業」について

町の実情にあった施策を実施します。

② 地域ケア会議の開催

地域ケア会議は高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える関係機関や社会資源の整備を同時に進めていく手法として介護保険法上に位置づけられています。

個別事例から地域課題の解決に向け、多職種の連携を図り、協議を行うとともに、今後は地域づくりのための資源開発と施策化に努めます。

(3) 生活支援施策の推進

① 生活支援体制整備協議体の組織と生活支援コーディネーターの設置

全国の市町村で平成30年度までに生活支援体制整備事業に取り組み、生活支援体制整備協議体を組織し、生活支援コーディネーターを設置することから、壮瞥町では、平成29年度から社会福祉協議会へ事業を委託し、事業を実施しています。地域のニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体が連携して支援体制の充実・強化を図ることができるよう前出の地域ケア会議とも連携を図りながら、取り組んでいきます。

4 安定した介護保険制度の運営

安定した介護保険制度の運営のために、費用の効率化、不適切な給付の防止を通じて、介護保険制度の信頼を高めていくとともに、将来にわたり必要な給付を適切に提供するために介護給付適正化事業（主要5事業）に取り組めます。

介護給付適正化主要5事業は、第6期計画期間において一部取り組んでいます、未実施の事業についても取り組みを進めていきます。

(1) 要介護認定の適正化

介護認定審査会において要介護度を適正に審査判定するために必要な資料及び情報を提供することを目的に、認定調査票と主治医意見書の事前確認を全件において実施し、記載内容の明らかな矛盾や記載漏れ、誤記等を確認します。

また、調査に携わる町職員は、適宜、北海道が実施する現任研修を受講するとともに、厚生労働省より提供されている「要介護認定 認定調査員テキスト」等をもとに自己研鑽に努め、適正な認定調査実施に関する業務知識の維持向上を図ります。

(2) ケアプランの点検

利用者の自立支援に資する適切なケアマネジメントが行われるよう、ケアプランの点検を毎年度実施するよう努めます。町内の全ての事業所について、1

事業所あたり 1～2 件のケアプランの提出を求め、点検を行います。

また、ケアプランの質の向上、介護支援専門員と町担当職員の知識の向上等を目的とした研修会を併せて実施するよう努めます。

(3) 住宅改修等の点検

住宅改修に係る支給申請について、全件において、事前に現地で確認した内容と住宅改修着工前後の写真やその他の資料等から住宅改修の必要性を審査します。

また、福祉用具購入に係る支給申請についても福祉用具購入者からの申請を受けて、全件において、提出書類等によって用具の必要性を審査します。

(4) 医療情報との突合・縦覧点検

北海道国民健康保険団体連合会から提供されるデータをもとに、医療保険と介護保険の間で同時の請求を受けることがあり得ない給付がなかったか等の確認（医療情報との突合）と介護保険でのサービスにおいて受給できる日数や回数を超えたものの請求・給付がなかったか等の点検（縦覧点検）を毎年度行い、給付の適正化に努めます。

(5) 介護給付費通知の実施

介護サービス等（総合事業の介護予防サービスも含む。）の利用者本人に対して介護サービス等の利用状況やその費用を通知し、確認いただくことにより、介護保険給付の仕組み等の周知に努めます。

また、この通知を利用者等に確認いただくことにより、実態のないサービス等の不正・不適切な介護報酬請求の発見や防止を図ります。

5 自立支援・重度化防止に向けた成果目標

高齢化が進展する中で、制度の持続可能性を維持するためには、地域包括ケアシステムを推進するとともに、高齢者にその有する能力に応じた自立した生活を送っていただくための取組を進めることが必要となります。

そこで本計画では、高齢者の自立した日常生活の支援、要介護状態等となることの予防や悪化の防止といった事業について成果目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいきます。

(1) 成果目標（第7期の計画期間における目標）

事業名	目標の内容	平成30年度	平成31年度	平成32年度
山美湖大学 (高齢者大学)	参加者数	延380人	延380人	延380人
介護予防事業 (転ばん塾)	参加者数	30人	30人	30人
老人クラブ活動	会員数	100人	100人	100人
緊急通報端末 機貸与事業	利用世帯数	30世帯	30世帯	30世帯
配食サービス事業	配食数	延600食	延600食	延600食
コミュニティー タクシー事業	利用実人数	700人	700人	700人

○ 町、関係機関及び各種団体等による集いの場

集いの場又は集いの場を行っている団体の名称	対象	取組の概要	事務局又は問合せ先
老人クラブ	概ね60歳以上の町民の方	町内に4つの老人クラブ（寿会、鶴亀会、溪流会、長寿会）があり、月例会やパークゴルフ大会、花見、旅行等、自分たちが楽しく活動するためにさまざまな行事を企画、実施することで、閉じこもり防止や健康増進、生きがいつくり活動をしています。 4つの単位クラブが「壮瞥町老人クラブ連合会」を組織し、共通の行事（スポーツ大会や文化活動）を推進しています。	壮瞥町社会福祉協議会
山美湖大学	60歳以上の町民の方	日々充実した豊かな生活を目指し、健康維持と趣味、教養の向上を図ることを目的に開講され、月1回程度実施しています。 講義内容は4月の開講式に参加者同士で協議して決めており、軽スポーツ、運動、趣味講座、体験学習、芸術鑑賞、見学旅行などを行っています。	壮瞥町教育委員会
そうべつ地遊スポーツクラブ	年齢問わず、地域住民の方	壮瞥町に拠点を置く総合型地域スポーツクラブで、ジュニアスポーツクラブ、らくらくスポーツクラブ、登山会、各種スポーツ体験会等、子どもからお年寄りまで幅広い世代を対象としたスポーツ事業を行っています。	そうべつ地遊スポーツクラブ
あっぷるひろば	町民の方	おしゃべりやゲーム、小物作り、入浴等の好きなことをしながら、みんなで楽しい時間を過ごすことで、閉じこもりを防止し、健康を維持するための活動を行っています。これまでは2か月に1回のペースで、自治会やボランティアの方々と一緒に取り組んでいます。	壮瞥町社会福祉協議会
小地域ネットワーク事業	自治会活動	「無縁社会」を生み出さないように隣近所でお互いに関わり合う関係を作るための自治会活動（高齢者の見守り、仲間作り等の交流活動、高齢者宅の除雪等の奉仕活動等や介護予防・認知症予防に関する研修や学習活動等）に対し、自治会（複数の自治会で連携することも可能）へ補助を行います。	壮瞥町社会福祉協議会
ふれあい敬老昼食会	70歳以上の町民の方	70歳以上の町民の方が一堂に会し、昼食を摂りながら、再会を喜んだり、参加者による歌（カラオケ）や踊り等への参加・披露を楽しんでもらう会です。最後に抽選会を行い、壮瞥高校の生徒が育てた花や町内の特産品や果物等の提供の企画を行っています。毎年度10月に1度開催しています。	壮瞥町社会福祉協議会

集いの場又は集いの場 を行っている団体の名 称	対象	取組の概要	事務局又は問合せ先
ふれあい交流会	要支援高齢者の 方	足腰が弱まり、外出や交流する機会が少ない高齢者の方に介助ボランティアが付き添い、日帰りバス旅行を行っています。（対象者の方には、文書でご案内をします。） 外出機会の提供とともに、中学生ボランティアの参加を呼びかけ、福祉教育につなげています。	壮瞥町社会福祉協議会
壮瞥町女性団体連絡協議会	町内の女性の方	滝之町婦人会、J A女性部、久保内女性部、赤十字奉仕団の会員の方々と地域の課題解決のために女性の集いを開催して研鑽を深めています。 女性学級として1～3月まで冬期の運動不足解消のために健康講座（運動、脳活等）と手芸講座（小物作りや編み物等）を行い、会員個々の健康づくりと知識を深めるとともに会員間の親睦と交流を深めています。また、これらの活動への参加者を募っています。	壮瞥町教育委員会
壮瞥町婦人ボランティアグループ あかね会	町内の女性の方	福祉施設に提供するエプロン作りや安否確認のための友愛活動等、身近な福祉活動や町及び町社会福祉協議会の事業に協力しています。月例会で集まり各種作業をするほか、町外研修で見聞を広め活動に活かしています。	壮瞥町婦人ボランティアグループ あかね会 事務局
ボランティア友の会 こもれび	町民の方	壮瞥町生活支援ハウスを訪問し、入居者と定期的に交流活動（小物や壁飾り作成、折り紙、歌を唄う、トランプ等による脳活、茶話会を楽しむ）を行い、入居者も参加者も楽しい時間を過ごしています。 また、前出の「あつるひろば」にも参加・協力しています。	ボランティア友の会 こもれび 事務局
夜空を見る集い	町民の方（町外の方 も参加可能）	夜空に輝く星座を観察し、宇宙の世界に対する興味を喚起しています。また、知識と理解を深めるために講義や工作を行っています。	壮瞥町教育委員会
壮瞥町地域交流センター運営ボランティア実行委員会	町民の方	優れた芸術文化事業の企画立案及び情報収集を図り、広く町民の方々へ情報を発信し、芸術文化の鑑賞機会の提供を行っています。	壮瞥町教育委員会
芸術鑑賞ツアー	町民の方	町外で開催される著名な舞台芸術活動を鑑賞することにより、町の文化振興を図ることを目的として、美術館の展示博覧会、コンサート、クラシック音楽等の鑑賞ツアーを行っています。	壮瞥町教育委員会

集いの場又は集いの場 を行っている団体の名 称	対象	取組の概要	事務局又は問合せ先
図書ボランティア ポ ピーの会	町民の方	読書の推進や図書に親しむことを目的に子どもたちや親のニーズに合わせて壮瞥町地域交流センターの図書室キッズルームにて「お話し会」の実施や図書室分室では一般住民を対象に「おとなの朗読会」等の読書活動を行っています。	壮瞥町教育委員会
読み聞かせボランティ ア ひだまりの会	町民の方	町内の小学校、育児サークル、高齢者福祉施設等において読み聞かせの会を開催し、町民の読書活動を推進する役割を担っています。	壮瞥町教育委員会
町民歩けあるけ運動	町内の小学校3 年生以上	健康維持と体力向上を推進し、自分の体力に挑戦するために年1回、登山等により景色や自然とふれあう活動です。	壮瞥町教育委員会
特定非営利活動法人有 珠山周辺地域ジオパー ク友の会	町民の方	火山と共生する故郷を学び、地域文化の伝承や魅力を発信する事業を展開しています。さらに、遺構公園ガイド、人材育成と交流の促進など、火山を通して地域の活性化を目指す活動を行っています。	特定非営利活動法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会事務局

上表の集いの場のほか、生きがいや趣味（カラオケ、卓球、フラダンス、太極拳等）を同じくする町民の方が集まり壮瞥町地域交流センターや自治会館等で活動を行っています。また、自治会によって、定例的な活動を行っているところもあります。

今後、町、教育委員会、社会福祉協議会や各種団体と連携し、各種活動の情報収集や連携活動に努めます。また、町広報や認知症ケアパス、社会福祉協議会の情報誌での情報提供に努めます。

第2節 今後の高齢者保健福祉サービスの展開について

現在、日本は世界でも類を見ないほどの速さで人口の高齢化が進み、超高齢化社会が進行しています。人口の高齢化により、医療や介護等の社会保障費が増加するものの、少子高齢化に伴い、生産年齢人口が減少し、社会保障制度の担い手の減少が見込まれます。また、晩婚・晩産化等により、親と子供の両方をお世話するいわゆる「ダブルケア」を行う方々への支援や親族の介護により職を離れざるを得ない「介護離職」を防ぐための支援等、これまで社会問題とされてきた独居高齢者の地域とのつながりの希薄化、貧困化・孤独化による孤独死のほか新たに支援を必要とするケースが今後、全国的に増えていくものと考えられます。

本町においては、今後も高齢化率の上昇、特に75歳以上の後期高齢者、医療・介護を必要とする人の割合が高くなってくる85歳以上の人口の増加が見込まれ、高齢者保健福祉サービスの利用者数も益々増えていくことが予想されます。また、本計画策定に当たり実施した調査においても、外出や人との交流が少ない高齢者もあり、地域としての支え合い体制をどう構築するか、また今後も住み慣れた地域で暮らし続けるための各施策をどのように構築するかなどの課題があります。

しかし、本町の財政状況は年々厳しさを増し、財政の硬直化が進むなかで、前述のような需要に対応し、かつ利用者の負担を可能な限り押さえ、高齢者保健福祉サービスを継続して提供するためには、必要に応じ、サービスの内容の見直しや既存の事業のより一層の有効活用を検討する必要もあります。

また、高齢者の健康づくり・介護予防と重度化防止を適切に推進しなければ、2025年度（平成37年度）に必要とされる介護サービス等の見込み量は2020年度（平成32年度）の約1.2倍となり、本町の介護保険の被保険者に負担いただく介護保険料と介護保険事業のために町が負担する運営費が2020年度（平成32年度）の1.4倍以上となることを見込まれ、2025年度以後も介護サービス等の見込み量や介護保険料、町が負担する運営費が増えていくと考えられます。

一方、本町においては、今回の計画策定に当たり実施した高齢者実態調査の結果から元気な高齢者が多いことも分かり、いつまでも趣味や生きがいを楽しみながら、健康で元気に過ごしていただくとともに、世代を超えて地域の見守りや支え合いをしていくことがこれまで以上に重要になってくるものと考えられます。

将来にわたり安定的に高齢者保健福祉サービスを提供していくために、第6期計画期間中に施策の一つ一つを検証・検討してきました。第7期計画においても継続的に高齢者保健福祉施策のあるべき姿という観点に達立ち、高齢者保健福祉サービスを継続的に検証・検討するとともに、高齢者の皆様がいつまでも自分らしく明るく元気に過ごしていただくために介護予防、重度化防止のための施策の検討と推進を図ります。

第3節 介護保険サービスの推計

1 日常生活圏域の設定

本計画においては、地域の特性を踏まえた「日常生活圏域」を設定し、その圏域ごとに必要とされるサービスを提供できるよう事業量等を推計し策定する必要がありますが、本町においては、面積、人口、住民の生活形態などを総合的に勘案し、全町を一つの日常生活圏域として考えていきます。

以降の推計については、厚生労働省提供の地域包括ケア「見える化」システムも活用し、推計しました。

2 要介護（要支援）認定者数

平成27年度及び平成28年度における要介護（要支援）認定者数の実績と、平成29年度見込み及び第7期計画における推計は下表のとおりです。

■ 表1 要介護（要支援）認定者数の実績と推計

区分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
		実績		見込み	推 計		
第1号被保険者	要支援1	31	32	31	30	31	30
	要支援2	15	25	25	30	33	38
	要介護1	39	36	43	35	40	32
	要介護2	26	29	40	39	31	42
	要介護3	16	16	22	21	21	18
	要介護4	17	22	13	22	25	28
	要介護5	17	20	19	24	28	29
	小計	161	180	193	201	209	217
	前年対比		11.8%	7.2%	4.1%	4.0%	3.8%
第2号被保険者	要支援1	0	0	0	0	0	0
	要支援2	0	0	0	0	0	0
	要介護1	0	1	0	1	2	3
	要介護2	3	2	2	2	2	2
	要介護3	0	0	0	0	0	0
	要介護4	0	0	0	0	0	0
	要介護5	0	0	0	0	0	0
	小計	3	3	2	3	4	5
	前年対比		0.0%	-33.3%	50.0%	33.3%	25.0%
認定者合計		164	183	195	204	213	222
前年対比			11.6%	6.6%	4.6%	4.4%	4.2%
第1号被保険者		1,002	1,009	1,006	1,000	996	991
第2号被保険者		875	849	823	797	771	745
全被保険者における認定者数割合		8.7%	9.8%	10.7%	11.4%	12.1%	12.8%

3 介護給付の実績と推計

要介護1以上の方が利用するサービスである介護給付については、第6期計画期間の給付実績・見込みを勘案し、第7期計画（平成30～32年度）の介護給付を下表のとおり推計しました。

■ 表2 介護給付の実績と推計

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	実績		見込み	推計		
居宅サービス						
訪問介護(回)	901	557	686	866	859	871
訪問入浴介護(回)	0	0	0	0	0	0
訪問看護(回)	63	119	282	600	600	600
訪問リハビリテーション(回)	551	631	664	1,325	1,130	1,268
通所介護(回)①	1,567	160	86	192	384	384
【再掲】通所介護①＋地域密着型通所介護②(回)	1,567	1,694	1,780	2,052	2,400	2,256
通所リハビリテーション(回)	1,256	1,277	1,404	1,109	838	899
短期入所生活介護(日)	964	488	638	876	996	996
短期入所療養介護(老健)(日)	105	11	0	84	84	84
居宅療養管理指導(人)	8	15	24	12	12	12
特定施設入居者生活介護(人)	28	39	36	36	36	36
福祉用具貸与(人)	214	231	254	216	216	180
福祉用具購入(人)	1	0	8	10	10	10
住宅改修(人)	4	3	10	16	16	16
地域密着型サービス						
認知症対応型共同生活介護(人)	33	25	34	24	24	24
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護(人)	12	12	12	12	12	12
地域密着型通所介護(回)②	－	1,534	1,694	1,860	2,016	1,872
居宅介護サービス計画給付費(人／月)	44	40	41	43	45	44
施設サービス						
介護老人福祉施設(延べ人数)	214	211	256	252	263	274
介護老人保健施設(延べ人数)	240	228	192	204	213	222
介護療養型医療施設(延べ人数)	229	309	296	360	376	430

4 介護予防給付の実績と推計

要支援１・２の方が利用するサービスである介護予防給付については、第６期計画期間の給付実績・見込みを勘案し、第７期計画（平成３０～３２年度）の介護予防給付を下表のとおり推計しました。

■ 表３ 介護予防給付の実績と推計

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	実績		見込み	推計		
居宅サービス						
介護予防訪問介護(人)	176	97	12	-	-	-
(参考)訪問型サービス(総合事業)(人)	0	123	240	260	341	457
介護予防訪問入浴介護(回)	0	0	0	0	0	0
介護予防訪問看護(回)	12	12	0	12	12	12
介護予防訪問リハビリテーション(回)	201	230	264	309	431	554
介護予防通所介護(人)	147	63	0	-	-	-
(参考)通所型サービス(総合事業)(人)	0	105	162	176	231	309
介護予防通所リハビリテーション(人)	102	158	152	180	204	216
介護予防短期入所生活介護(日)	0	0	0	0	0	0
介護予防短期入所療養介護(老健)(日)	15	0	0	0	0	0
介護予防特定施設入居者生活介護(人)	0	0	0	0	0	0
介護予防居宅療養管理指導(人)	9	12	12	12	12	12
介護予防福祉用具貸与(人)	100	167	180	264	324	372
介護予防福祉用具購入(人)	5	1	4	7	7	7
介護予防住宅改修(人)	2	2	2	6	6	6
介護予防居宅介護サービス計画給付費(人／月)	31	21	26	20	20	20
(参考)介護予防ケアマネジメント費(人／月)	0	20	18	22	29	39
地域密着型サービス						
介護予防認知症対応型共同生活介護(人)	0	0	0	0	0	0

5 介護保険料の算定

(1) 介護給付費・介護予防給付費の実績と推計

第6期計画期間の給付実績・見込みを勘案し、第7期計画（平成30～32年度）の介護給付費・介護予防給付費を下表のとおり推計しました。

■ 表4 介護給付費の実績と推計

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	実績		見込み	推計		
居宅サービス	50,224,585	35,484,098	40,500,596	47,701,000	46,825,000	47,047,000
訪問介護	3,048,608	1,868,217	2,231,048	2,730,000	2,710,000	2,753,000
訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0
訪問看護	574,596	962,420	2,486,412	4,781,000	4,781,000	4,781,000
訪問リハビリテーション	3,282,570	3,495,744	3,748,408	3,755,000	3,214,000	3,612,000
通所介護①	12,933,675	1,162,444	475,982	1,016,000	2,033,000	2,033,000
【再掲】通所介護①＋地域密着型通所介護②	12,933,675	12,680,684	12,188,096	16,429,000	19,174,000	17,401,000
通所リハビリテーション	9,345,573	9,236,986	10,723,368	9,436,000	7,008,000	7,549,000
短期入所生活介護	6,710,319	3,686,293	4,824,998	6,709,000	7,754,000	7,445,000
短期入所療養介護	982,908	104,634	0	815,000	815,000	815,000
居宅療養管理指導	67,068	66,654	55,020	28,000	28,000	28,000
特定施設入居者生活介護	4,822,542	6,382,389	6,536,228	6,080,000	6,080,000	6,080,000
福祉用具貸与	1,255,009	2,027,278	2,352,762	1,668,000	1,383,000	1,117,000
福祉用具購入	35,478	72,819	223,264	926,000	926,000	926,000
住宅改修	615,150	406,170	450,000	2,816,000	2,816,000	2,816,000
居宅介護サービス計画給付費	6,551,089	6,012,050	6,393,106	6,941,000	7,277,000	7,092,000
地域密着型サービス	11,019,609	20,508,358	23,052,692	24,666,000	26,394,000	24,621,000
認知症対応型共同生活介護	8,200,638	6,007,347	8,214,788	6,270,000	6,270,000	6,270,000
地域密着型介護老人福祉施設入所者介護	2,818,971	2,982,771	3,125,790	2,983,000	2,983,000	2,983,000
地域密着型通所介護②	－	11,518,240	11,712,114	15,413,000	17,141,000	15,368,000
施設サービス	184,406,978	205,396,912	199,676,194	223,805,000	237,458,000	264,764,000
介護老人福祉施設	45,979,551	45,292,644	53,310,030	55,259,000	57,696,000	60,136,000
介護老人保健施設	58,892,117	54,930,216	45,307,650	49,253,000	51,425,000	53,600,000
介護療養型医療施設	79,535,310	105,174,052	101,058,514	119,293,000	128,337,000	151,028,000
介護給付費合計	245,651,172	261,389,368	263,229,482	296,172,000	310,677,000	336,432,000

■ 表 5 介護予防給付費の実績と推計

(円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	実績		見込み	推計		
居宅サービス(金額は総合事業分除く)	12,726,049	11,524,862	8,978,428	13,307,000	15,217,000	17,055,000
介護予防訪問介護	2,731,230	1,351,413	145,044	-	-	-
(参考)訪問型サービス(総合事業)	0	2,114,271	3,987,594	4,327,000	5,677,000	7,602,000
介護予防訪問入浴介護	0	0	0	0	0	0
介護予防訪問看護	93,159	50,535	0	51,000	51,000	51,000
介護予防訪問リハビリテーション	1,132,416	1,270,989	1,457,136	2,896,000	3,834,000	4,775,000
介護予防通所介護	3,472,686	1,575,639	0	-	-	-
(参考)通所型サービス(総合事業)	0	2,314,575	3,478,248	3,774,000	4,951,000	6,629,000
介護予防通所リハビリテーション	2,557,290	3,972,262	4,181,598	5,736,000	6,392,000	7,018,000
介護予防居宅療養管理指導	153,918	217,296	217,296	217,000	217,000	217,000
介護予防短期入所生活介護	0	0	0	0	0	0
介護予防短期入所療養介護	43,641	0	0	0	0	0
介護予防特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0
介護予防福祉用具貸与	679,950	941,850	1,098,252	1,577,000	1,893,000	2,164,000
介護予防福祉用具購入	118,287	110,758	187,902	699,000	699,000	699,000
介護予防住宅改修	112,752	369,720	400,000	1,080,000	1,080,000	1,080,000
介護予防居宅介護サービス計画給付費	1,630,720	1,664,400	1,291,200	1,051,000	1,051,000	1,051,000
介護予防ケアマネジメント費(総合事業)	0	616,100	974,400	1,057,000	1,387,000	1,857,000
地域密着型サービス	0	0	0	0	0	0
介護予防認知症対応型 共同生活介護	0	0	0	0	0	0
介護予防給付費合計(総合事業除く)	12,726,049	11,524,862	8,978,428	13,307,000	15,217,000	17,055,000
(参考)介護予防給付費等合計(総合事業含む)	12,726,049	16,569,808	17,418,670	22,465,000	27,232,000	33,143,000

(2) 介護保険総給付費の推計

前述の介護給付費・介護予防給付費に、特定入所者介護サービス費、高額介護サービス費等、高額医療合算介護サービス費等、審査支払手数料を加えた介護保険総給付費の推計は下表のとおりです。

■ 表 6 介護保険総給付費の推計

(円)

	平成29年度見込	平成30年度	平成31年度	平成32年度
居宅介護給付費	40,500,596	47,701,000	46,825,000	47,047,000
地域密着型サービス	23,052,692	24,666,000	26,394,000	24,621,000
施設給付費	199,676,194	223,805,000	237,458,000	264,764,000
介護予防給付費	8,978,428	13,307,000	15,217,000	17,055,000
一定以上所得段階負担額調整額	0	▲ 55,235	▲ 85,833	▲ 86,412
特定入所者介護サービス費	17,899,180	20,481,000	26,871,000	35,980,000
資産等勘案調整額	0	0	0	0
高額介護サービス費等	9,393,010	11,669,000	15,310,000	20,500,000
高額医療合算介護サービス費等	750,000	811,000	1,064,000	1,425,000
審査支払手数料	218,610	195,300	252,000	346,500
合 計	300,468,710	342,580,065	369,305,167	411,652,088
地域支援事業	22,456,000	20,095,000	22,621,000	26,222,000
総 計	322,924,710	362,675,065	391,926,167	437,874,088

(3) 第1号被保険者の保険料

① 給付費の財源

平成30年度から平成32年度までの介護保険運営のために必要な費用の総額を基に、第1号被保険者の保険料を定めます。

介護保険の給付費は、下記のように保険料と国などの負担金により賄われます。

第1号被保険者保険料の負担割合は平成29年度までは22%でしたが、高齢者の増加に対応して平成30年度からは23%に改正されました。

介護(予防)給付費			
保険料(50%)		公費(50%)	
保 険 料 内 訳	65歳以上高齢者 (第1号被保険者) 保険料23%	公 費 内 訳	国(25%)
	40歳～64歳で健康 保険料加入の方 (第2号被保険者) 保険料27%		道(12.5%)
			市町村(12.5%)

② 所得段階別の保険料設定

第1号被保険者の保険料は、負担能力に応じた負担とするため、所得の段階別区分を設けています。所得段階別被保険者数の見込は次のとおりです。

(人)

区分	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合 計
第1段階	219	218	217	654
第2段階	129	129	128	386
第3段階	107	107	106	320
第4段階	97	97	97	291
第5段階	117	114	116	347
第6段階	140	140	139	419
第7段階	110	110	109	329
第8段階	43	43	42	128
第9段階	38	38	37	113
合 計	1,000	996	991	2,987

③ 保険料の算定

ア) 第1号被保険者の保険料算定に用いる数値

A	標準給付費見込額	1,123,537千円
B	地域支援事業費	68,938千円
C	所得段階別加入補正割合後被保険者数	2,780人
D	第1号被保険者負担分相当額 (A+B) ×23%	274,269千円
E	調整交付金相当額 A×全国平均の調整交付金交付割合 (5%)	57,824千円
F	調整交付金見込額	130,008千円
G	財政安定化基金拠出金見込額	0千円
H	準備基金取り崩し額	0千円
I	予定保険料収納率	98.0%

イ) 第1号被保険者の保険料は、下記のように算定します。

第1号被保険者保険料年額 =
 (第1号被保険者負担分相当額 (D) + 調整交付金相当額 (E)
 - 調整交付金見込額 (F) + 財政安定化基金拠出金見込額 (G)
 - 準備基金取り崩し額 (H)) ÷ 予定保険料収納率 (I)
 ÷ 所得段階別加入割合補正後被保険者数 (C)

ウ) 前記の算定により、平成30年度から平成32年度までの第1号被保険者保険料 (第5段階保険料) は、次のとおり算定されました。

・年額保険料 74,176 円 ・月額保険料 6,181 円 ÷ 6,100 円

第7期保険料基準額 (月額) は 6,100円となります。
 (第6期保険料基準額 (月額) 5,700円)

エ) 所得段階別保険料

保険料 段 階	対 象		割 合	保険料 月 額	保険料 年 額
	世帯	本 人 所 得 等			
第 1 段階	住民税 非課税世帯	生活保護受給者又は老齢福祉年金受給者	基準額 ×0.45	2,740円	32,800円
		本人の前年の課税年金収入額＋合計所得金額の合計が80万円以下			
第 2 段階		本人の前年の課税年金収入額＋合計所得金額の合計が80万円を超え120万円以下	基準額 ×0.63	3,840円	46,000円
第 3 段階		本人の前年の課税年金収入額＋合計所得金額の合計が120万円を超える	基準額 ×0.75	4,570円	54,800円
第 4 段階	住民税 課税世帯	本人住民 税非課税	基準額 ×0.83	5,060円	60,700円
第 5 段階			基準額	6,100円	73,200円
第 6 段階		本人の前年の合計所得金額が120万円未満	基準額 ×1.25	7,620円	91,400円
第 7 段階		本人の前年の合計所得金額が120万円以上200万円未満	基準額 ×1.30	7,930円	95,100円
第 8 段階		本人の前年の合計所得金額が200万円以上300万円未満	基準額 ×1.60	9,760円	117,100円
第 9 段階		本人の前年の合計所得金額が300万円以上	基準額 ×1.75	10,670円	128,000円

6 そ の 他

(1) 社会福祉法人等による利用者負担の軽減

低所得者で特に生計が困難な者が、社会福祉法人が運営する入所施設で提供する介護サービスを利用する場合に、社会福祉法人が食費・居住費を含む利用者負担額の原則 1 / 4 を減額するもので、その軽減した額のうち社会福祉法人が本来受領すべき利用者負担収入の一定割合（おおむね 1 %）を超えた部分の 1 / 2（施設サービスについては、10 %を超えた部分の全額）を町が助成します。

(2) 介護給付見込み量の確保のための方策

本計画期間で推計した介護給付サービス及び介護予防給付サービスについては、在宅サービス・施設サービスともに、既存のサービス提供事業者（一部のサービスで現在提供ができないものもあります。）により確保できると見込みました。事業者への情報提供など連携を図り、円滑なサービス提供が継続されるよう努めます。

地域密着型サービスのうち認知症対応型共同生活介護と地域密着型介護老人福祉施設入所者介護については、本町にこれらのサービスを提供する事業所がないため、需要の動向により所在市町村やサービス提供事業者との連携を図りながら、適切なサービス提供基盤の整備を検討します。

第4節 計画の進行管理

今回の計画の進行管理を適切に行い、高齢者の自立支援や重度化防止への取組を推進するために、計画の進捗状況を取りまとめし、検証を行う必要があります。

検証に当たっては、PDCAサイクル（P l a n（計画策定）→D o（計画の実行）→C h e c k（計画の進捗状況等の報告・評価）→A c t i o n（計画達成に必要な取組の実施、次期計画の策定に係る活用））により、計画を着実に推進し、2025年（平成37年）に向けた地域包括ケア体制の構築、充実を図るために、適宜、地域の保健医療福祉関係者、被保険者代表及び学識経験者等で構成する壮瞥町地域包括支援センター運営協議会へ計画の進捗状況等の報告をし、評価を受け、検証を行います。

また、本計画の最終年度に設置される次期計画の策定委員会においては、今回の計画期間内全てにおける取組、進捗状況等を報告し、評価を受け、その内容を次期計画策定の際に活用します。

(別添・資料 編)

1 壮瞥町介護保険事業計画等策定委員会の構成と審議経過

○ 委員（敬称略）

役 職	氏 名	所 属 等
委 員 長	中 山 雄 三	第1号被保険者代表
副委員長	清 水 修	社会福祉法人 長日会 特別養護老人ホーム 第二長日園 事務長
委 員	郡 司 俊 夫	医療法人 交雄会 そうべつ温泉病院 地域医療相談室長
委 員	遠 藤 修	医療法人 交雄会 介護老人保健施設 プライムそうべつ 総務課長
委 員	岡 本 拓 也	社会医療法人 慈恵会 聖ヶ丘サテライトクリニック 院長
委 員	橋 本 真 鈴	社会福祉法人 長日会 居宅介護支援事業所 ふれあい広場 介護支援専門員
委 員	佐 藤 美智子	壮瞥町社会福祉協議会 副会長
委 員	渡 邊 純 子	壮瞥町民生委員協議会 民生委員
委 員	船 田 寅 雄	壮瞥町地域安全協会 会長
委 員	山 本 節 夫	壮瞥町老人クラブ連合会 会長
委 員	斉 藤 洋 子	壮瞥町婦人ボランティアグループあかね会 副会長
オブザーバー	小 練 美由紀	胆振総合振興局 保健環境部社会福祉課 主査（保険運営）
オブザーバー	玉 井 綾 子	胆振総合振興局 保健環境部保健行政室 企画総務課 主査（保健推進）

○ 審議経過

平成29年 7月19日	第1回策定委員会 委嘱状交付・委員長及び副委員長選任 計画趣旨説明 策定委員会開催日程の説明 壮瞥町高齢者福祉実態調査アンケート案について
平成29年11月14日	第2回策定委員会 壮瞥町高齢者福祉実態調査アンケート結果報告 第6期計画の分析・進捗状況説明
平成30年 1月24日	第3回策定委員会 第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（素案）説明 ・協議
平成30年 2月14日	答申書提出

平成30年2月14日

壮瞥町長 佐 藤 秀 敏 様

壮瞥町高齢者保健福祉計画
介護保険事業計画策定委員会
委員長 中 山 雄 三

第7期壮瞥町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について（答申）

平成29年7月19日付壮福祉号にて諮問された第7期壮瞥町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画につきまして本町の現状と課題を分析し、これに基づいて今後の目標及び事業計画について慎重に審議を重ねて参りました。

その結果、今後、いわゆる団塊の世代が75歳を迎え、今まで以上に保健、医療、福祉サービスのニーズが高まっていく2025年に向け、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を行い、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう「地域包括ケアシステム」を深化・推進していくことが求められると考えられます。

こうした背景のもとに本町では、高齢者が『いつまでも自分らしく明るく元気で暮らせるまちづくり』という基本理念のもとに、住み慣れた地域でお互いに支え合いながら、生きがいや趣味を楽しみ、役割を持って明るく元気に社会参加ができる環境を引き続き整備するとともに、地域での介護予防活動の推進、介護が必要な方と介護する家族を支援し、重度化の予防・介護負担の軽減を図ることができる仕組みづくりが必要です。

これらを実現するためには、これまで以上に地域にある社会資源の有効活用と関係機関等とのネットワークの体制強化、行政の強いリーダーシップを切に願い壮瞥町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定委員会の答申といたします。

壮警町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
(平成30年度～平成32年度)

平成30年3月

発 行	北海道有珠郡壮警町
編 集	壮警町役場 住民福祉課
住 所	〒052-0101 北海道有珠郡壮警町字滝之町 287 番地 7
電 話	(0142) 66-2121